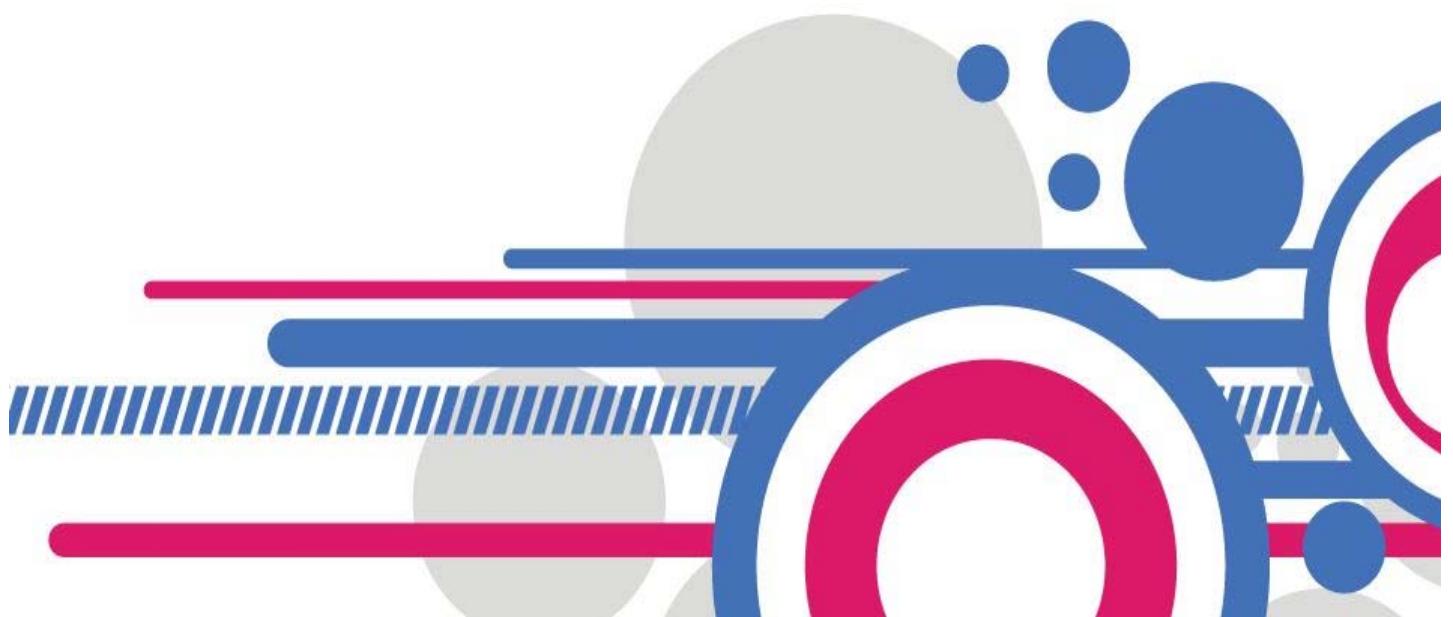




Annual Report 2017

立命館大学大学院キャリアパス推進室



I 目次	1
II 室長挨拶	2
III 大学院キャリアパス推進室の体制	3
IV 本学大学院の状況	
1. 2017 年度大学院入学者の状況	4
2. 2017 年度学位授与者数	6
3. 日本学術振興会特別研究員採用状況	8
4. 2017 年度大学院修了者の進路・就職状況	10
V 2017 年度事業内容・実績	
1. 大学院キャリアパス支援プログラム	13
2. 博士人材リーダー養成プログラム	18
3. 研究倫理セミナー	22
4. 2017 年度大学院生のための成功する就活！セミナー(M1 セミナー)	24
5. 2018 年度大学院新入生のためのステージアップセミナー(M0 セミナー)	26
6. 日本学術振興会特別研究員申請支援	28
7. 立命館大学大学院リサーチプロポーザルコンテスト	31
8. 男女共同参画推進リサーチライフサポート室における取り組み	35
9. 奨学金および研究助成制度(修士・博士課程前期課程)	37
10. 奨学金および研究助成制度(博士課程後期課程)	43
11. 奨学金および研究助成制度(博士課程前期課程・後期課程共通)	51
12. ティーチング・アシスタント(TA)制度	55
13. キャリアパス支援スタッフ(CPS)	57
14. リサーチアシスタント(RA)	59
15. 立命館大学若手研究者学術・キャリア情報検索システム(Ri-SEARCH)	60
16. 大学院キャリアパス推進室の情報発信	61
17. 調査活動	62
VI 終わりに～副室長あいさつ～	77
資料編	78

室長挨拶

本学大学院におけるキャリアパス形成支援の取り組みは、2007年度より「博士課程後期課程キャリアパス形成支援制度」として、博士課程後期課程の大学院生のキャリアパス形成に資する学会発表や海外での研究活動を経済的に支援する取り組みからスタートし、3カ年の取り組みの見直しを経て進められてきました。そして、2010年度より第2期博士課程後期課程キャリアパス形成支援制度として、従来の奨学金・研究助成制度の拡充に加え、博士キャリアパス推進室を設置し、取り組みを進めてきました。これまでの取り組みの結果、課程博士の輩出、日本学術振興会特別研究員採用者数の増加、修了者・満期退学者の進路・就職状況の把握、大学院生向けのセミナー開催等、一定の成果と本制度の定着化を図ることができました。

2013年度以降の第3期キャリアパス形成支援制度では、本学大学院における教学改革および各支援の取り組みは、人材育成目的や3つのポリシーに沿って、その人材育成を推進することを基本的な考え方として各種支援を実施してきました。基本的な考え方を「大学院の人材育成目的の達成およびキャリアパスの明確化に向けた支援」に置き、この基本的な考え方に基づいて具体的な取り組みを進めてきました。

2016年度からは第4期キャリアパス形成支援制度として「大学院の人材育成目的の達成およびキャリアパスの明確化に向けた支援」という基本的考え方に基づき、各研究科・課程の人材育成目的や第3期までの支援制度の共通点から、支援に関する取組みを以下の3つ（①研究者・教育者・高度産業人としての基礎認識と社会環境理解の支援（修士・博士課程前期課程中心）、②博士課程後期課程の基礎認識と社会環境理解支援、③博士課程後期課程のキャリア開発支援）に分類しました。この3つの取組みは各研究科の正課を中心につつ、教学部、研究部、キャリアオフィスが連携して、多様な属性（留学生、社会人等）を持つ大学院生や研究者を対象にキャリアパス形成のための支援として、一体として効果的な支援を進めています。

本学大学院では、2017年度・2018年度の大学院学費の減額を行う一方で、2017年度には大学院高度化の施策として、新たに3つの研究助成制度（「英語論文投稿支援制度」「国外共同研究奨学金」「博士論文出版助成制度」）を制定しました。2018年度には、学会支援制度に対する変更や理系院生に対する経済支援の意味を持つリサーチ・アシstant制度を拡充し、さらに、本学修了生の学位取得後のいわゆる出口対策として、理系分野では「特任研究員制度」や「特別助教制度」を設けることを予定しています。これらは大学院重視の方向で本学が大学院改革を推進していることを意味するものもあります。

立命館大学 大学院キャリアパス推進室長
理工学部教授
永井 清

大学院キャリアパス推進室の体制

(1) 大学院キャリアパス推進室の構成

2017年度の大学院キャリアパス推進室は、教学部長を室長として以下の体制で運営しました。

室長	永井 清	立命館大学教学部長 理工学部教授
副室長	宮本 十至子	立命館大学教学部副部長 経済学部教授
副室長	山下 洋一	立命館大学教学部副部長 情報理工学部教授
副室長	堤 治	立命館大学キャリアセンター副部長 生命科学部教授
副室長	望月 爾	立命館大学研究部副部長 法学部教授
副室長	岡田 豊	立命館大学研究部副部長 生命科学部教授
副室長	中谷 吉彦	立命館大学产学官連携戦略副本部長 グローバル・イノベーション研究機構教授
運営委員	原木 万紀子	立命館大学共通教育推進機構特別招聘准教授
運営委員	中川 洋子	立命館大学共通教育推進機構教授
事務局長	浅野 昭人	立命館大学教学部事務部長

(2) 大学院キャリアパス推進室会議

大学院生のキャリアパス形成支援事業に関する方針の調整および決定を行うために、室長の下に大学院キャリアパス推進室会議を開催しています。大学院キャリアパス推進室会議の構成は、上記(1)の室長、副室長、運営委員に加え、以下の役職者を構成員としています。

笠原 健一	立命館大学副学長 理工学部教授
中村 正	立命館大学副学長 産業社会学部教授
平岡 和久	立命館大学研究部長 政策科学部教授
篠田 博之	立命館大学研究部長 情報理工学部教授
石原 一彦	立命館大学キャリアセンター部長 政策科学部教授
山本 修司	立命館大学教学部事務部長
浅野 昭人	立命館大学教学部事務部長
野口 義文	立命館大学研究部事務部長
松原 修	立命館大学キャリアセンターワーク

1. 2017 年度大学院入学者の状況

研究科・課程別の入学者数

【図表 1-1 修士・博士課程前期課程入学者数推移】

研究科	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	入学定員
法学	23	28	23	23	9	9	60
経済学	43	35	29	37	41	43	50
経営学	24	24	22	30	27	35	60
社会学	21	19	23	26	22	34	60
文学	51	51	60	52	64	67	105
理工学	330	347	323	385	328	333	450
国際関係	38	30	39	47	46	57	60
政策科学	19	18	20	34	35	33	40
応用人間科学	36	33	41	40	41	32	60
言語教育情報	44	43	47	48	49	54	60
テクノロジー・マネジメント	49	45	28	33	32	32	70
公務	39	36	22	26	20	22	60
スポーツ健康科学	20	15	25	24	18	11	25
映像	8	4	6	4	4	6	10
情報理工学	148	177	127	153	138	160	200
生命科学	119	87	119	116	136	116	150
合計	1012	992	954	1078	1010	1044	1520

【図表 1-2 博士課程後期課程入学者数推移】

研究科	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	入学定員
法学	3	2	1	2	4	1	10
経済学	1	2	2	3	4	6	5
経営学	1	2	4	3	1	2	15
社会学	6	17	14	11	11	7	15
文学	8	17	19	24	22	16	35
理工学	19	29	15	16	16	20	40
国際関係	5	3	9	4	9	8	10
政策科学	5	3	5	9	8	7	15
テクノロジー・マネジメント	12	5	6	4	10	9	5
スポーツ健康科学	8	11	9	11	11	10	8
情報理工学	10	10	7	9	9	10	15
生命科学	10	5	6	4	13	15	15
合計	88	106	97	100	118	111	188

【図表 1-3 一貫制博士課程・博士課程入学者数推移】

先端総合学術	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	入学定員
1 年次入学	8	9	5	11	3	3	30
3 年次転入学	20	14	13	14	17	12	-
薬学研究科	-	-	2	5	4	2	3

※「-」について：2014 年度より薬学研究科を設置

【図表 1-4 専門職学位課程入学者数推移】

研究科	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	入学定員
法務	87	59	42	43	30	18	70
経営管理	40	29	42	40	53	36	80
教職						32	35

※「-」について：2017 年度より教職研究科を設置

2. 2017 年度学位授与者数

修士学位・専門職学位授与者数

本学の修士・専門職学位授与者数は、近年 1000 名から 1300 名で推移してきました。2016 年度は 1115 名と前年度より増加しましたが、2017 年度は 1081 名と前年度より、減少しました。2013 年度より理工学研究科の学位授与者が大幅に減少していますが、これは 2012 年度に理工系研究科を理工学研究科、情報理工学研究科および生命科学研究科の 3 研究科に再編したことによるものです。

【図表 2-1 修士学位・専門職学位授与者数推移】

研究科	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
法学	42	21	31	20	20	12
経済学	37	45	39	25	30	46
経営学	38	25	21	26	29	29
社会学	19	21	18	20	23	24
文学	57	51	49	52	49	47
理工学	660	324	339	316	380	332
国際関係	46	43	31	31	46	45
政策科学	23	27	15	10	35	43
応用人間科学	33	31	35	38	42	40
言語教育情報	37	39	49	32	53	46
テクノロジー・マネジメント	57	41	38	35	29	29
公務	37	37	27	21	20	19
スポーツ健康科学	21	19	13	21	23	18
映像	4	8	4	6	3	4
情報理工学	-	130	156	128	146	132
生命科学	-	107	81	109	108	132
先端総合学術	1	3	2	2	1	2
法務	104	72	61	47	37	30
経営管理	37	37	29	35	41	51
合計	1253	1081	1038	974	1115	1081

博士学位授与者数

本学は、博士課程後期課程大学院生のキャリアパス形成支援制度を創設した 2007 年度から、課程博士取得者年間 100 名の輩出を目標として各種支援に取り組んできました。本学の博士学位授与者数（論文博士学位取得者数除く）は、2011 年度に 83 名となり、目標である 100 名に接近しましたが、2011 年度以降は減少傾向にあります。

【図表 2-2 博士学位授与者数推移】

研究科	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
法学	2 (2)	4 (0)	2 (0)	2 (0)	2(1)	1(0)	3 (1)	2 (0)
経済学	1 (1)	2 (0)	3 (0)	3 (0)	2(1)	1(0)	3 (0)	1 (0)
経営学	5 (0)	4 (0)	4 (0)	3 (1)	2(0)	0(0)	3 (0)	2 (0)
社会学	6 (1)	6 (0)	4 (0)	3 (0)	5(1)	1(0)	5 (0)	2 (0)
文学	16 (3)	18 (3)	14 (0)	12 (3)	10(2)	12(0)	11 (3)	16 (5)
理工学(理学)	9 (1)	7 (2)	7 (2)	11 (2)	2(0)	4(0)	3 (0)	3 (0)
理工学(工学)	25 (3)	25 (5)	15 (1)	26 (3)	25(7)	9(2)	14 (2)	12 (0)
国際関係	4 (1)	5 (0)	2 (0)	3 (0)	2(1)	12(0)	3 (0)	5 (0)
政策科学	2 (0)	3 (0)	7 (0)	7 (0)	4(1)	2(0)	3 (0)	3 (1)
テクノロジー・マネジメント	0 (0)	1 (0)	4 (0)	7 (0)	6(0)	4(0)	2 (0)	3 (0)
スポーツ健康科学	-	-	-	-	2(0)	3(0)	3 (0)	10 (0)
情報理工学(工学)	-	-	-	-	9(1)	4(0)	5 (1)	10 (0)
生命科学(理学)	-	-	-	-	8(1)	6(4)	5 (1)	3 (0)
生命科学(工学)	-	-	-	-	1(0)	0(0)	1 (0)	1 (0)
先端総合学術	9 (1)	18 (0)	8 (0)	13 (0)	6(0)	7(0)	3 (0)	4 (0)
合計	79 (13)	93 (10)	70 (3)	90 (9)	86(16)	66(6)	67 (8)	77 (6)

* 括弧内は論文博士学位授与者数

* 情報理工学、生命科学、スポーツ健康科学研究科は 2012 年度より博士課程後期課程が設置された。

2013 年度までは学位授与者数は存在しないため空白となる。

* 2016 年度以降は遡及適用者を含まない。

3. 日本学術振興会特別研究員採用状況

将来、研究者を目指す博士課程後期課程学生の重要なキャリアパスとして位置づけられる「日本学術振興会特別研究員」の採用状況については、2012年度に採用者数・採用率がともに過去最高でしたが、その後は若干減少し、横ばいの状況です。2014年度採用から、これまで申請資格であった、「採用時34歳未満であること」という資格が廃止されたことで、多くの大学院生に特別研究員の申請・採用のチャンスが生まれました。2018年度DC採用の採用率は16.8%であり、昨年度(2017年度採用13.9%)と比較すると全体では2.9ポイント増加しました。

【図表3-1 日本学術振興会特別研究員申請者数・採用者数推移】

採用年度	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
種別	申請	採用								
DC1	29	5	31	5	32	6	36	3	28	5
DC2	56	13	51	9	58	12	79	13	73	12
PD	35	6	30	3	28	5	31	4	27	2
RPD	2	0	1	0	2	1	2	1	3	1
合計	122	24	113	17	120	24	148	21	131	20

DC1：博士課程（博士後期課程又はそれに相当する課程）在学中の学生を採用（採用期間3年間、研究奨励金月額20万円、年間150万円以内の科研費）

DC2：博士課程（博士後期課程又はそれに相当する課程）在学中の学生を採用（採用期間2年間、研究奨励金月額20万円、年間150万円以内の科研費）

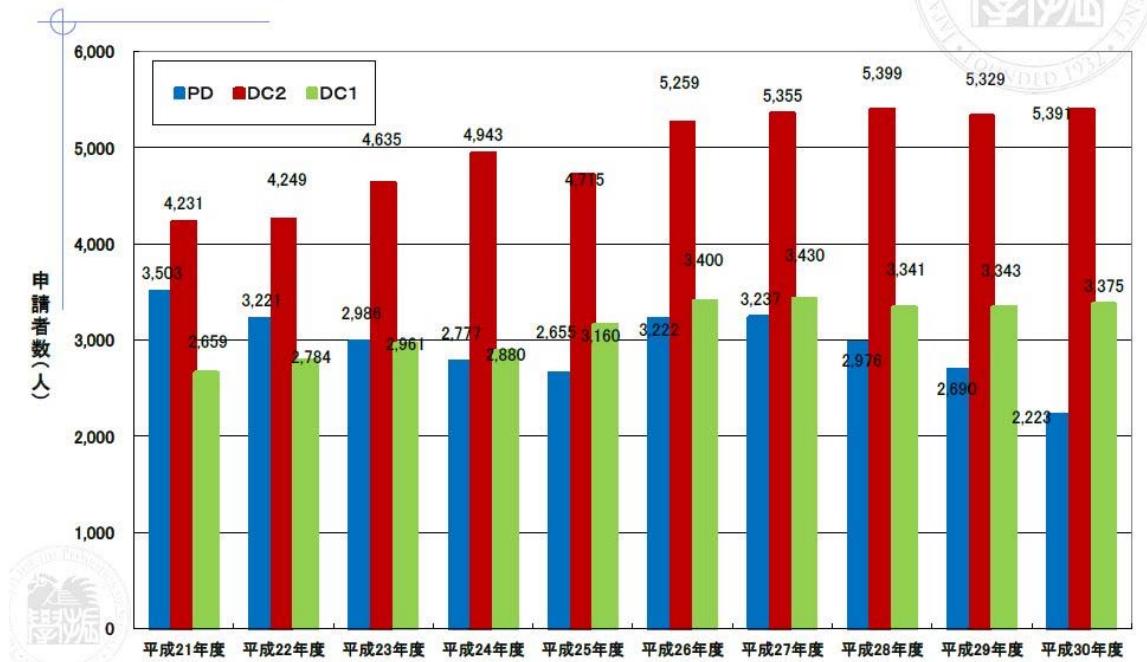
PD：博士の学位を取得している者、又は我が国の人文学又は社会科学の分野の大学院博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得のうえ退学し、博士の学位を取得したものに相当する能力を有すると認められる者、又は博士の学位を取得する見込みがなく我が国の中院博士課程に標準修業年限を超えて在学することになる者を採用（採用期間3年間、研究奨励金月額36.2万円、年間150万円以内の科研費　※博士学位未取得者は月額20万円、年間150万円以内の科研費）

RPD：博士の学位を取得している者、又は我が国の人文学又は社会科学の分野の大学院博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得のうえ退学し、博士の学位を取得したものに相当する能力を有すると認められる者、且つ出産・育児のため3ヶ月以上研究活動を中断した者で、未就学児を養育している者、又は遡って過去5年以内に、出産又は疾病や障害のある子を養育した者を採用（採用期間2年間、研究奨励金月額36.2万円、年間150万円以内の科研費　※博士学位未取得者は月額20万円、年間150万円以内の科研費）

【採用率の推移】

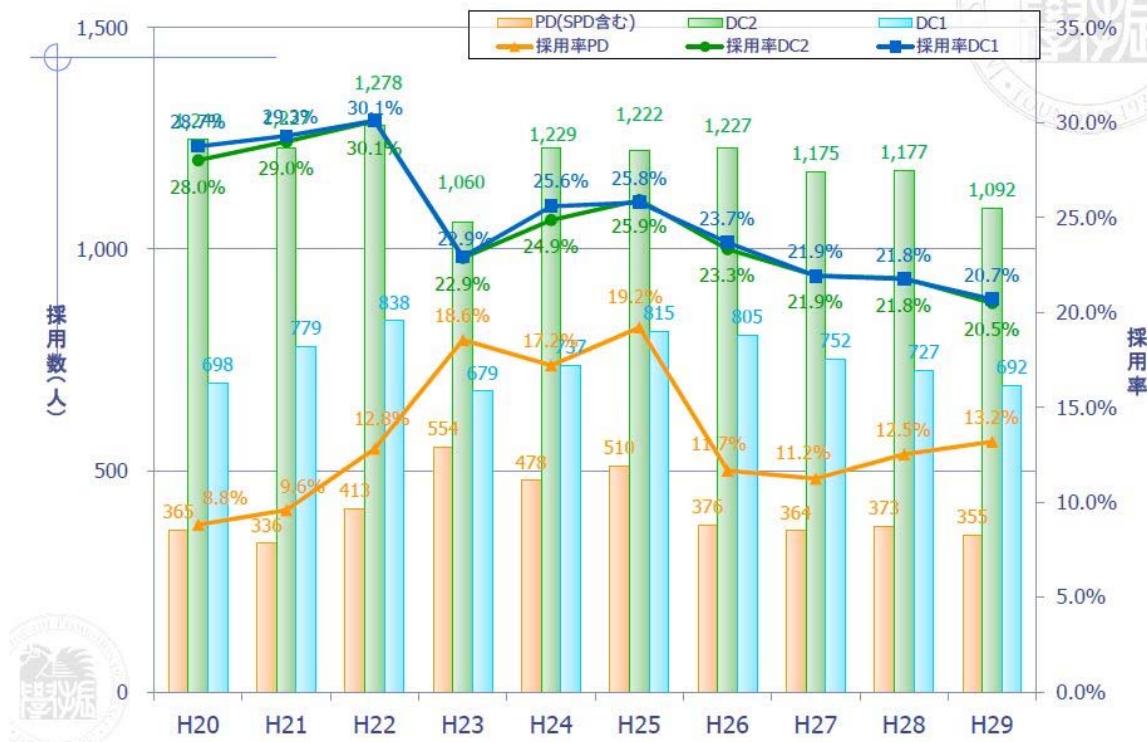
【図表 3-2 日本学術振興会特別研究員申請者数の推移】

特別研究員-PD、DC



【図表 3-3 全国的な特別研究員採用者数・採用率の推移】

特別研究員(PD・DC)新規採用者数と採用率の推移



出典：平成 30 年 2 月 (独) 日本学術振興会公開資料

4. 2017年度大学院修了者の進路・就職状況

修士・博士課程前期課程修了者

【図表 4-1 2017年度 大学院修了者・博士課程前期課程 進路決定状況】

研究科	修了者 (A)	就職決定 (B)	大学院進学 (C)	就職活動 継続(D)	その他(E)	進路決定率 ((B+C)/A)
法学	12	12	0	0	0	100.0%
経済学	46	29	6	1	10	76.1%
経営学	29	21	1	0	7	75.9%
社会学	24	14	3	0	7	70.8%
文学	47	28	6	0	13	72.3%
理工学	332	309	9	1	13	95.8%
国際関係	45	30	2	1	12	71.1%
政策科学	43	25	5	0	13	69.8%
応用人間科学	40	25	5	3	7	75.0%
言語教育情報	46	29	2	0	15	67.4%
テクノロジー・マネジメント	29	25	0	2	2	86.2%
公務	19	18	0	0	1	94.7%
スポーツ健康科学	18	11	4	0	3	83.3%
映像	4	3	0	1	0	75.0%
情報理工学	132	115	9	2	6	93.9%
生命科学	132	119	7	0	6	95.5%
法務	30	0	0	0	30	0.0%
経営管理	51	43	0	2	6	84.3%
合計	1079	856	59	13	151	84.8%

※修了者(A)には前期修了者(2017年9月修了者)および早期修了者を含む。

※就職決定(B)・・・就職者(民間・公務員・教員)、在学中から引き続きの就業者、家業、プロ契約、起業、就職見込有り。

※大学院進学(C)・・・大学院、海外の大学・大学院。

※就職活動継続(D)・・・修了後に就職活動を継続する者。

※その他(E)・・・他大学進学、各種学校、資格試験・進学等の受験準備、就職意思なし、その他(アルバイト、帰国、留学など)、不明など。

※進路決定率=(就職決定(B)+大学院進学(C))÷修了者(A)×100

博士課程後期課程修了者

【図表 4-2 研究科別修了・満期退学者数】

研究科	修了	満期退学	計
法学	2	0	2
経済学	1	1	2
経営学	2	1	3
社会学	2	3	5
文学	11	1	12
理工学	15	1	16
国際関係	5	0	5
政策科学	2	1	3
テクノロジー・マネジメント	3	3	6
スポーツ健康科学	10	1	11
情報理工学	10	1	11
生命科学	4	0	4
先端総合学術	4	3	7
合計	71	16	87

IV 本学大学院の状況

(満期退学者の進路) 課程修了・満期後期(博士課程)2017年春(図表4-3)

		法	経学	経営	社会	国際	政策	文	理工	情報理工	生命	スポーツ	MOT	先端	修了計	満退計	計		
	修了	満退	修了	満退	修了	満退	修了	満退	修了	満退	修了	満退	修了	満退					
大学教員・助手等(任期無)					2(1)	1(1)			2(1)	1	1(1)		3(2)		3(3)	13(8)	3(1)	16(9)	
大学教員・助手等(任期有)		1(1)	2(1)			1	5(1)	2	1(1)							12(4)		12(4)	
大学教員(非常勤講師)	1				1(1)	1						1				4(1)		4(1)	
日本学術振興会特別研究員					1							1				3(1)		3(1)	
研究機関等研究職	1				2(2)	1	1(1)			1		3(1)				8(4)	1	9(4)	
ポストドクター							1			1		1				3		3	
民間企業等社員(総合職)		1(1)							1(1)			1(1)		1(1)		3(3)	2(2)	5(5)	
民間企業等社員(研究職)									6(3)	1		1(1)				8(4)		8(4)	
民間企業等社員(一般職)																			
学校教諭(非常勤講師)	1																		
公務員(国家公務員)							3(3)					1(1)				4(4)		4(4)	
家業												1(1)					1(1)	1(1)	
その他											1	1				2		2	
計	1	1	2(1)	1(1)	2(1)	4(4)	1	1	9(4)	14(6)	1	9(3)	1(1)	3(1)	10(4)	2(2)	3(3)	1(1)	60(29)
研究生		1													1		1	1	
研究活動経験																			
学位取得準備																2	1	2	
受験準備																			
その他																			
留学																			
計	1	1							1	1	1		1	1	1	1	1	4	
不詳																	2	4	
総計	2	1	2(1)	1(1)	2(1)	3(1)	5(4)	2	1	11(4)	1	15(6)	1	10(3)	1(1)	4(1)	10(4)	1	71(29)
															3(1)	4(3)	3	87(33)	

※ 同一企業に勤務する者の人数(内数)

1. 大学院キャリアパス支援プログラム

大学院キャリアパス推進室では、「研究・教育者・高度産業人としてのキャリア開発支援」、「大学院生の基礎認識と社会環境の理解支援」、「フレキシビリティの開発支援」の支援概念から課外でセミナーを開催し、大学院生の「教育・専門性・研究力の向上」「キャリア開発力の向上」、「社会課題解決力の向上」を目指しています。

開催セミナー

2017年度は、「研究・教育者・高度産業人としてのキャリア開発支援」で13セミナー、「大学院生の基礎認識と社会環境の理解支援」で1セミナー、「フレキシビリティの開発支援」で34セミナーの合計48セミナーを開催しました。

(1) 研究・教育者・高度産業人としてのキャリア開発支援

研究者・教育者・高度産業人を目指すうえで必要となる研究業績の獲得や教育スキルの向上を支援するためのセミナーを開催しました。

【図表1-1 「研究・教育者・高度産業人としてのキャリア開発支援」開催セミナーおよびのべ受講者数】

実施日	セミナー名	キャンパス※1	前期課程	後期課程	その他	計
4月3日	学振特別研究員申請ガイダンス	衣笠 /BKC/OIC	12	37	1	50
4月4日	学振特別研究員申請ガイダンス	衣笠 /BKC/OIC	14	21	1	36
4月24日	研究会企画とマネジメントセミナー 「研究会を始めよう」	衣笠	10	15	1	26
5月22日	第1回博士人材リーダー養成講座 「僕が博士課程だったら今すぐ始める3つのこと」	BKC	5	3	6	14
6月12日	第2回博士人材リーダー養成講座 「面白法人式 面白く働く発想法」	BKC	2	0	10	12
7月3日	第3回博士人材リーダー養成講座 「働きやすさや居心地を設計する ～豊かで混沌とした世界と向き合うハカセの 目～」	衣笠	6	2	2	10
8月9日・10日	Preparing Future Faculty (2017年度大学教員準備セミナー)	衣笠	0	3	2	5
10月3日	研究会企画とマネジメントセミナー 「研究会活動中間報告会」	衣笠	9	13	0	22
11月15日	第4回博士人材リーダー養成講座 「企業で活躍する研究者になるために」	BKC	3	3	5	11
12月19日	第5回博士人材リーダー養成講座 「大学院生が企業へ就職するということ ～就職活動では聞くことのできない本当の話 ～」	BKC	5	2	3	10
1月16日	第6回博士人材リーダー養成講座 「日本・海外でのポスドク経験を企業で活かす」	BKC	0	3	14	17
1月16日	日本学術振興会特別研究員 チャレンジセミナー～平成31年度採用に向けた「はじめの一歩」～	衣笠	12	4	1	17
1月16日	日本学術振興会特別研究員 申請書ブラッシュアップセミナー～過年度の申請書類を振り返って～	衣笠	7	5	1	13
		合計	85	111	47	243

※1 衣笠=衣笠キャンパス／BKC=びわこ・くさつキャンパス／OIC=大阪いばらきキャンパス

(2)大学院生の基礎認識と社会環境の理解支援

大学院修了者を取り巻く就職環境への理解など、大学院生が現在置かれている社会的状況を客観的に認識（共通認識）し、大学院生として理解しておくべき基礎的な知識を学ぶセミナーを開催しました。

【図表 1-2 「大学院生の基礎認識と社会環境の理解支援」開催セミナーおよびのべ受講者数】

実施日	セミナー名	キャンパス	前期 課程	後期 課程	その他	計
4月17日	研究とキャリア 第1回 ～基礎認識編～「研究の楽しみ方」	衣笠	9	1	4	14
		合計	9	1	4	14

(3)フレキシビリティの開発支援

各研究科の正課で培った専門知識や分析技術といった直接／間接の専門性を社会における問題解決やキャリアパスの開発に転用できることを大学院生が認識し、円滑な転用と水準の向上を支援するセミナーを開催しました。

【図表 1-3 「フレキシビリティの開発支援」開催セミナーおよびのべ受講者数】

実施日	セミナー名	キャンパス	前期 課程	後期 課程	その他	計
4月15日・22日	2017年度前期アカデミックライティングプログラム Academic Writing Program	衣笠	3	4	0	7
4月24日～6月5日	2017年度前期 日本語日常会話サポートプログラム 全12回 初級	衣笠	1	2	4	7
4月25日～6月6日	2017年度前期 日本語日常会話サポートプログラム 全12回 初級	BKC	9	6	13	28
4月27日～6月8日	2017年度前期 日本語日常会話サポートプログラム 全12回 初級	OIC	0	1	13	14
4月27日～6月8日	2017年度前期大学院留学生日本語学習 支援プログラム	OIC	20	1	0	21
5月9日～5月30日	2017年度学術基礎英語セミナー 全4回	衣笠	15	4	0	19
5月10日～5月31日	2017年度学術基礎英語セミナー 全4回	OIC	6	1	0	7
5月12日～6月2日	2017年度学術基礎英語セミナー 全4回	BKC	8	1	0	9
5月24日～6月21日	2017年度前期アカデミックスキルプログラム Academic Skills Program 全2回	OIC	5	5	0	10

5月 26日～ 6月 23日	2017年度前期アカデミックスキルプログラム Academic Skills Program 全5回	BKC	15	1	0	16
5月 30日	大学院コミュニケーションスキルアップ 講座	衣笠	5	2	0	7
6月 6日	大学院コミュニケーションスキルアップ 講座	OIC	2	1	0	3
6月 9日～ 7月 21日	2017年度前期英語論文個別指導&プル ーフリーディングセッションズ 全16コマ	BKC	11	2	0	13
6月 13日～ 7月 14日	2017年度前期英語論文個別指導&プル ーフリーディングセッションズ 全18コマ	衣笠	13	5	0	18
6月 14日～ 7月 18日	2017年度前期英語論文個別指導&プル ーフリーディングセッションズ 全12コマ	OIC	9	2	0	11
6月 19日	アカデミックポスター・デザインセミナー	OIC	3	0	1	4
6月 26日	アカデミックポスター・デザインセミナー	衣笠	1	2	2	5
7月 3日	研究倫理共通セミナー	衣笠	48	13	0	61
9月 16日	研究倫理共通セミナー	OIC	2	4	0	6
9月 30日	研究倫理共通セミナー	朱雀	2	1	1	4
10月 13日～ 12月 15日	2017年度後期アカデミックライティングプロ グラム Academic Writing Program 全9回	BKC	36	2	1	39
10月 17日～ 12月 12日	2017年度後期アカデミックライティングプロ グラム Academic Writing Program 全9回	OIC	14	2	0	16
10月 18日	アカデミックポスター・デザインセミナー (後期)	衣笠	2	0	1	3
10月 21日	研究倫理共通セミナー	BKC	2	2	0	4
10月 24日～ 12月 14日	2017年度後期大学院留学生日本語学習 支援プログラム	OIC	14	0	1	15
10月 25日	アカデミックポスター・デザインセミナー (後期)	OIC	3	0	0	3
10月 26日～ 12月 7日	2017年度後期 日本語日常会話サポートプログラム 全12回 初級	BKC	23	3	0	26
10月 31日～ 12月 5日	2017年度後期 日本語日常会話サポートプログラム 全12回 初級	OIC	8	3	0	11
11月 1日～ 12月 6日	2017年度後期 日本語日常会話サポートプログラム 全12回 初級	衣笠	23	1	0	24
11月 4日・11日	2017年度後期アカデミックライティングプロ グラム Academic Writing Program	衣笠	10	3	2	15

11月14日	プレゼンテーションセミナー	OIC	4	1	0	5
11月25日	研究倫理共通セミナー	衣笠	36	4	2	42
11月27日	プレゼンテーションセミナー	衣笠	4	1	0	5
11月29日	研究倫理共通セミナー	衣笠	18	5	0	23
		合計	375	85	41	501

受講者数

本プログラムの参加者数（実数）は552名（前年度405名）であり、昨年度より36%増加しました。

【図表1-4 研究科・課程ごとの受講者数】

研究科	修士・前期課程	後期課程	実数
	実数	実数	
法学	3	4	7
経済学	63	2	65
経営学	7	2	9
社会学	49	14	63
文学	22	23	45
理工学	30	8	38
国際関係	51	13	64
政策科学	35	8	43
応用人間科学	8	0	8
言語教育情報	34	0	34
テクノロジー・マネジメント	3	4	7
公務	3	0	3
スポーツ健康科学	4	7	11
映像	3	0	3
情報理工学	11	5	16
生命科学	15	2	17
先端総合学術	25	0	25
薬学	5	0	5
法務	0	0	0
経営管理	15	0	15
教職	2	0	2
その他(非正規の大学院生・学部学生)	0	0	72
合計	388	92	552

受講者の評価

本プログラムでは、セミナー実施後に受講者アンケートを行い、各セミナーの評価を行っています。セミナー受講者の満足度は高く、アンケートの5段階評価で5(非常に満足)または4(やや満足)と回答した受講者の割合の平均が93.0%であり、昨年度(96.7%)に引き続き、受講者から高い評価を得ることができました。

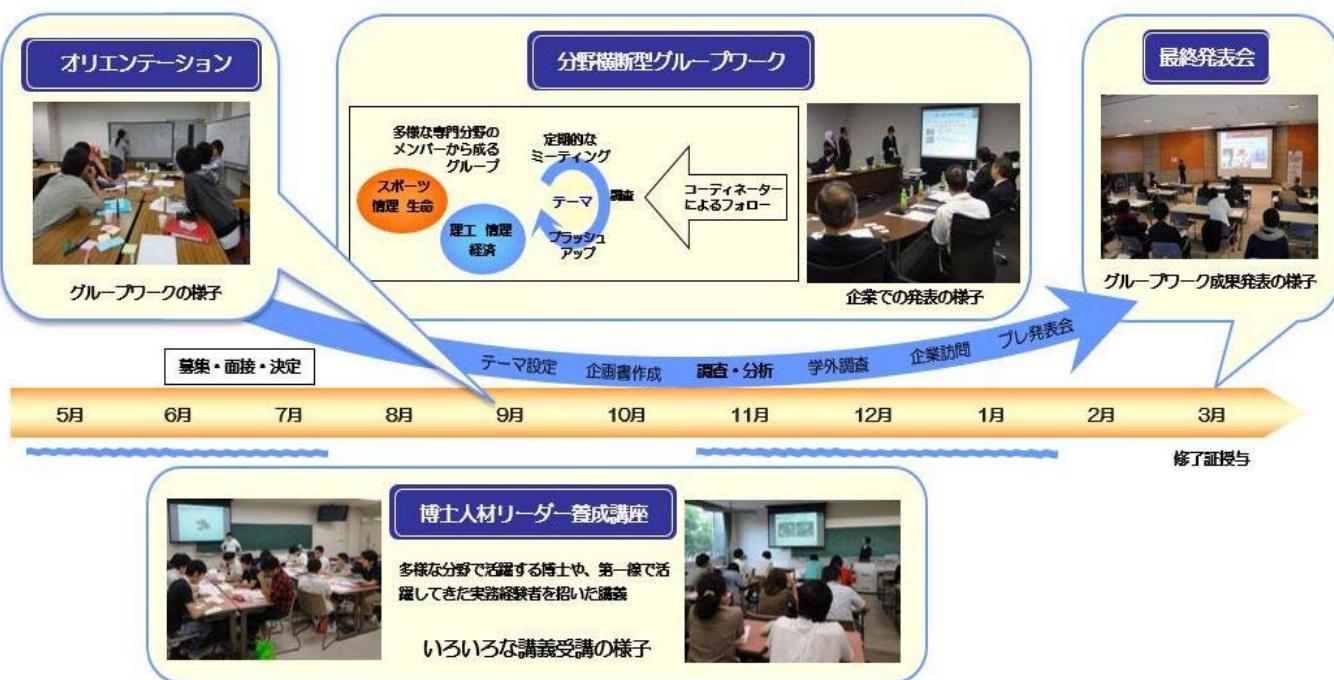
また、カテゴリー別に受講者の評価を見てみると、「大学院生の基礎認識と社会環境の理解支援」が満足度89.5%、「研究者・教育者・高度産業人としてのキャリア開発支援」の満足度が82.8%となっています。「フレキシビリティの開発支援」は96.0%と高い満足度を示しています。英語のライティングやプレゼンテーションスキルなど、大学院生の研究活動のなかで最も身近な課題に対応したテーマのセミナーを開催していることが、高い満足度へつながっていると考えられます。

2. 博士人材リーダー養成プログラム

プログラム概要

博士人材リーダー養成プログラムは、理工系博士課程後期課程大学院生を対象とし、将来産業界で活躍できる人材を育成するためのプログラムです。(1) オリエンテーション、(2) 高度産業人に求められる知識や技能を実務経験者から学ぶ「博士人材リーダー養成講座」、(3) 多様な専門分野の博士学生同士で行う「分野横断型グループワーク」、(4) その成果を報告する「最終発表会」、から構成されます。企業訪問や学外調査、最終発表会においては、自身の研究内容を企業担当者の前でプレゼンテーションする機会も持ります。本プログラムを通じて、実社会のニーズを踏まえた発想や専門分野にとらわれない幅広い視野、問題解決力やマネジメント力、プレゼンテーション能力など、とりわけ産業界が博士人材に求めている力量を養成することを目指します。

【図表 2-1 博士人材リーダー養成プログラム概要図】



2017年度実施状況

2017年度は、理工系の博士課程後期課程1回生、博士課程前期課程2回生から計4名が受講し、約半年間を通じたグループワークを中心に、年間スケジュールに示した活動を行いました（図表 2-2、図表 2-3 参照）。また、2017年度も引き続きコーディネーターとして、学内教員3名（うち1名は博士人材リーダー養成プログラムの修了生）体制でグループワークの方向決めや深掘りなどを牽引しました。

【図表 2-2 2017年度博士人材リーダー養成プログラム受講者数】

	M2	D1	計	特記
理工学	0	1	1	
情報理工学	1	1	2	* M2 は留学生
生命科学	1	0	1	
合計	2	2	4	

※内訳の学年は開始当時のものを示す

【図表 2-3 2017年度博士人材リーダー養成プログラム年間スケジュール】

日程	場所	内容
5月22日	びわこ・くさつキャンパス	第1回博士人材リーダー養成講座
6月12日	びわこ・くさつキャンパス	第2回博士人材リーダー養成講座
6月～7月	びわこ・くさつキャンパス	募集、面接、受講決定
7月3日	衣笠キャンパス	第3回博士人材リーダー養成講座
9月30日	びわこ・くさつキャンパス	オリエンテーション
11月15日	びわこ・くさつキャンパス	第4回博士人材リーダー養成講座
11月15日	びわこ・くさつキャンパス	企業訪問前プレ発表会
12月7日・8日	東京	企業訪問
12月19日	びわこ・くさつキャンパス	第5回博士人材リーダー養成講座
1月16日	びわこ・くさつキャンパス	第6回博士人材リーダー養成講座
2月22日	びわこ・くさつキャンパス	学内プレ発表会
3月14日	びわこ・くさつキャンパス	最終発表会 兼 博士研究発表会

(1)オリエンテーション

2017年9月30日にびわこ・くさつキャンパス、インテグレーションコア1階アカデミックラウンジにて、プログラム受講生4名と教職員5名全員が初めて顔を合わせ、親睦を深めるとともに、本プログラムの目的・目標を改めて共有しました。企業が博士人材に求めることについての講義、自己紹介・研究紹介、コーディネーター教員である原木万紀子特別招聘准教授（共通教育推進機構）と本プログラム一期生である福森隆寛助教（情報理工学部）によるご自身の経験を踏まえた博士としてのキャリアパスについて講演が行われました。続いてスタートアップワークショップを行い、グループワークの進め方や心構え、テーマ設定に向けてのプロセスを学びました。

(2)博士人材リーダー養成講座

2017年度は計6回（5月、6月、7月、11月、12月、翌1月）開催しました。「研究者・教育者・高度産業人としてのキャリア開発支援」を行う意味合いから、博士人材リーダー養成プログラム受講生だけでなく、大学院生・若手研究員などに広く受講を呼びかけました。

(3)分野横断型グループワーク

2017年度は、プログラム受講生4名（1チーム）で約半年間のグループワークを行いました。題目を「2030年代の少子高齢化社会を“食物と移動”のイノベーションで活気溢れるものに～f(Food・Mobile)×Tech.～」として、自分たちでテーマを設定し提言するという課題設定型のグループワークを行いました。

オリエンテーション後から自主的にミーティングを開催し、状況に応じてコーディネーターが参加してグループワークの牽引、問題点の指摘などを行いました。週1回のミーティングを活動の中心としつつ、メンバーが多忙で集まらない期間も多かったため、役割分担して調査を行う、Googleなどクラウド上でのデータ共有や情報共有を行う、などグループワークが途切れないよう工夫をしていました。

2017年12月には、「ライオン株式会社 研究開発本部」を訪問、併せて「まちてん 地域創生まちづくりフォーラム」・「NEDO ピッチ審査会（二次審査）」に参加・見学しました。

ライオン株式会社ではグループワークの内容を発表し、グループワークの進め方、内容、プレゼンテーションの仕方などについて、多くの示唆をいただきました。その後もグループワークに励み、内容をさらにブラッシュアップし、最終的に3月14日に開催された最終発表会にて、約半年間のグループワークの成果を発表しました。

【企業訪問等詳細】

開催日時:2017年12月7日（木）～8日（金）

訪問先と内容

(1) ライオン株式会社研究開発本部

内容: グループワーク発表とディスカッション、社内見学、ライオン株式会社の研究紹介、懇親会

(2) まちてん 地域創生まちづくりフォーラム

内容: 講演聴講、ブース展示見学

(3) NEDO ピッチ審査会（二次審査）

内容: 審査発表見学

※NEDO = 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合機構

(4)最終発表会 兼 博士研究発表会

2018年3月14日 15:00～19:00、びわこ・くさつキャンパス ローム記念館にて、プログラム受講生によるグループワークの最終発表会と、博士課程（前期課程・後期課程）の学生が研究内容を発表する博士研究発表会を開催しました。

最終発表会では、プログラム受講生が、数ヶ月のグループワークを通じて、テーマを「次世代移動式

キッチンで楽しい食事を!! Good bye【コ食】』と設定し、子どもだけの食事（子食）や独身世帯の増加に伴う1人での食事（弧食）といった課題を、物理的・時間的な制約を越えた「食空間」の創造と、そこから生まれる新たな繋がりで解決するプランについて報告を行い、企業関係者等から様々なコメントをいただきました。最後に大学院キャリアパス推進室長より修了証が手渡されました。

また、博士研究発表会では、プログラム受講生4名を含む10名の大学院生が、それぞれの研究内容について4分間のプレゼンテーションを行い、企業関係者や本学教員6名により審査され、最優秀賞1名、優秀賞2名、特別賞1名が選出されました。

3. 研究倫理セミナー

プログラムの概要

大学院生が学問的良心に基づき自由に研究活動を行うためには、研究を進めるにあたって知っておかなければならぬ行動規範、成果の発表方法などの研究倫理を心得ておく必要があります。大学院生が意図しない部分で倫理的な問題を起こさないためにも、研究倫理の基礎知識、研究倫理を学ぶ必要性・意義などを学び、研究倫理は大学院生が主体的に考えるべき問題であるということを認識することは非常に重要なことです。

これまで本学では、指導教員による研究倫理指導だけではなく、正課科目、課外セミナーによる研究倫理教育の実施や、新入生オリエンテーション等においても研究不正（剽窃、盗作など）に関わる注意喚起等も行ってきました。この間の取組みも踏まえつつ、本学では 2016 年度より全大学院生を対象とした新たな研究倫理教育を実施いたしました。

(1)研究倫理プレセミナー

2017 年度（4 月：日本語および英語／9 月：日本語および英語）、大学院新入生を対象に実施した研究倫理プレセミナーの出席者は 839 名であり、参加率は 64.5% でした（研究科合同オリエンテーション内で実施）。参加者全体のうち、約 9 割の参加者から高い満足度を得ることができました。参加者アンケートからは、「研究のルール、モラルは自分の興味・関心を追求していくために大切で、自分のことだけでなく周りへの配慮も必要だと分かった。」「倫理について今まで学んだことはあったが、これを機に必要なことだと再確認することができ、いい機会だと思った。」などの感想が挙げられ、セミナー開催の目的である倫理教育を学ぶ必要性や意義等を学ぶ機会（動機付け）にすることができました。英語による研究倫理プレセミナーでは、留学生 167 名が参加し、約 9 割の留学生から高い満足度を得ることができました。

セミナーでは、研究とは何か、研究の魅力を知るとともに、研究活動を進めるためには研究倫理を学ぶ必要があること、研究倫理は大学院生が主体的に考えるべきことを認識させるために、日本学術振興会編集の冊子『科学の健全な発展のために』（以下、「グリーンブック」）を配布し、内容を紹介しました。

※【グリーンブック】本書は、日本学術振興会が編集委員会を設け、日本学術会議の協力、科学技術振興機構や各大学に所属する有識者の協力、文部科学省のアドバイスなども踏まえ編集されたものです。また、本書は人文・社会科学から自然科学までのすべての分野の研究に関わる者が、どのようにして科学研究を進め、科学者コミュニティや社会に対して成果を発信していくのか、エッセンスになると思われる事項を整理しました。

(2)グリーンブックの熟読

グリーンブックは基本的な研究倫理に関することが網羅的に記載されており、大学院生が最初に研究倫理を学ぶ教材としては非常に適しています。「研究倫理プレセミナー」開催時に新入生全員にグリーンブックを配布し、欠席者分は研究科事務室より配布しました。

要点が一冊の本にまとめられていて分かりやすい、研究を進めるうえで活用できるとの意見が多数ありました。一部の参加者からは既に知っている研究倫理に関する内容であるとの意見もありましたが、

改めて復習する機会となったとの意見もありました。

(3)研究倫理 e ラーニング

グリーンブックでは掲載しきれなかった具体的な事例と解説が整理してまとめられており、研究倫理共通セミナーを受講前に、e ラーニングを受講することを義務付けています。

本 e ラーニングは、人文学・社会科学から自然科学までのすべての分野の研究に関わる者が、どのようにして科学的研究を進め、科学者コミュニティや社会に対して成果を発信していくのかといったことについて、エッセンスになると思われる事柄を整理しました。研究を進めるにあたって知っておかなければならないことや、倫理綱領や行動規範、成果の発表方法、研究費の適切な使用など、科学者としての心得が示されています。日本学術振興会が、研究機関の実施する研究倫理教育のひとつとして導入することを想定して、2016 年 4 月 15 日よりサービス提供を開始しました。研究倫理共通セミナー受講するにあたって本 e ラーニングを事前に修了することを受講条件としています。

(4)研究倫理共通セミナー

2017 年度日本語によるセミナー参加者は 111 名（博士課程前期課程 87 名、博士課程後期課程 24 名）、英語によるセミナー参加者は 23 名（博士課程前期課程 18 名、博士課程後期課程 5 名）でした。国別で見ると、中国、インドネシア、ミャンマー、メキシコ、ベトナム、ネパール、モンゴルと 7 カ国から集まりました。セミナー満足度については、「セミナーは全体として満足できるものでしたか？」という質問に対し、約 8 割の参加者が「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答しており、高い満足度を得ることができました。受講者アンケート（自由記述）からは研究不正に関する事例を題材にグループワークを行ったことで、多様な考え方を聞いて良かった、他の大学院生と研究倫理についての意見交流ができる、ためになったなどの意見が多数あり、ディスカッション（双方向授業）形式で行ったことが満足度に繋がったことが分かります。「わたしが目撃した研究不正の現場」という主問題に沿って、どのような行動を取るべきか専門研究員のファシリテーターも交えて受講者同士で話し合い、グループごとに発表を行いました。専門分野が異なる大学院生同士の話し合いは、文理両方の考え方、研究状況の違いを知るができ、相互の良い刺激になりました。ファシリテーター（専門研究員）の豊富な知識は、より活発で深い議論を交わす事に繋がり、参加者からファシリテーターがついてくれて良かったという声も寄せられました。本セミナーは、研究倫理というものが自身の身近にある問題として改めて認識する機会となり、行動の仕方や問題意識の持ち方など倫理姿勢を学ぶとても意義深いものになったと考えられます。また、初めての試みとなる模造紙を使ったグループワークでは、多くの意見を模造紙に書き出し、よりよい議論が生まれた事や、意見の可視化に繋がったことも特徴的でした。



4. 2017年度大学院生のための成功する就活！セミナー（M1セミナー）

概要

主に修士課程、博士課程前期課程、専門職学位課程1回生の大学院生を対象に、以下3点を目的としたセミナーを開催しました。

- ・大学院生の就職状況の実態を把握するとともに、大学院生と学部学生の就職活動の相違点を理解することで、大学院生ならではの就職活動に対する不安や疑問を解消する（＝現実を知り、危機感を持つ）。
- ・他研究科の学生との交流を通じ、これまでに所属してきた集団とは傾向の異なる視点や方向性を持つ人々とコミュニケーションを図り、大学院における学び、キャリア形成の共有を大学院生間で行う機会を提供する。
- ・今後のキャリア形成に関して新たな気づきを獲得し、キャリアセンター主催のキャリア系プログラムへの参加の橋渡し・きっかけ作りとする。

◆日時・会場

日時：2017年11月19日（日） 13:00～16:00

会場：	衣笠キャンパス	究論館 パフォーミングスペース（本会場）
	びわこ・くさつキャンパス	EDGE+Rルーム2（サテライト会場）
	大阪いばらきキャンパス	AC730（サテライト会場）

【図表4-1 企画スケジュール】

時間帯	時間	企画	担当・ゲスト
【第1部】企業人事担当者によるパネルディスカッション			
13:00-13:05	5分	挨拶	大学院課
13:05-14:00	55分	企業人事担当者 パネルディスカッション	アビームコンサルティング株式会社 富士通株式会社 共通教育推進機構 原木特別招聘准教授（ファシリテーター）
14:00-14:10			休憩 10分
【第2部】2回生パネルディスカッション、参加者交流会			
14:10-15:15	65分	2回生 パネルディスカッション	大学院生 大学院課（ファシリテーター）
15:15-16:00	45分	交流会（軽食付）	大学院生・学部生、企業人事担当者

※ 交流会は衣笠キャンパスのみで開催

参加者数

本セミナーの参加者数は、53名（うち学部生8名）でした。

【図表 4-2 研究科別参加者数】

研究科・学部	参加者数
法学	3
経済学	0
経営学	0
社会学	8
文学	5
理工学	3
国際関係	4
政策科学	3
応用人間科学	4
言語教育情報	7
テクノロジー・マネジメント	1
公務	3
スポーツ健康科学	2
映像	1
情報理工学	0
生命科学	0
先端総合学術	1
薬学	0
法務	0
経営管理	0
教職	0
法学部	2
経済学部	1
文学部	1
理工学部	1
スポーツ健康科学部	1
生命科学学部	2
合計	53

セミナーの満足度について

「全体としてセミナーの内容は満足できるものでしたか?」という質問に対しては、「とてもそう思う」が33.0%（昨年度50.0%）、「ややそう思う」65.0%（昨年度50.0%）と、全体としての満足度は高いものとなりました。また「セミナーの内容は、今後の就職活動や、進路を検討するのに役に立ちましたか?」に対しては、「企業人事担当者によるパネルディスカッション(第1部)」は「大変役に立った」(45%)、「役に立った」(55%)、「2回生によるパネルディスカッション(第2部)」は「大変役に立った」(41%)、「役に立った」(59%)、「参加者交流会」は「大変役に立った」(38%)、「役に立った」(62%)と、この項目についても全ての参加者から高い満足度を得られるものとなりました。

5. 2018年度大学院新入生のためのステージアップセミナー(MOセミナー)

概要

2018年4月大学院入学者を対象に、以下2点を目的としたセミナーを開催しました。

- ・キャリアパス推進室で提供している各種支援や助成制度、活用方法を紹介することで、それらを主体的に活用し有意義な学生生活をおくるきっかけ作りとする。
- ・他研究科の学生との交流を通じ、これまでに所属してきた集団とは傾向の異なる視点や方向性を持つ人々とコミュニケーションを図り、学生生活のモチベーションを向上し、大学院における学びや研究を広げる機会を提供する。

◆日時・会場

2018年4月22日（日） 13:00～17:00

大阪いばらきキャンパス

B374（コロキウム）、C373（ラーニングシアター）、キャンピングキッチン

【図表5-1 企画スケジュール】

時間帯	時間	企画	担当・ゲスト
13:00～13:05	5分	挨拶、プログラムの趣旨の説明(話題提供)	共通教育推進機構 原木特別招聘准教授
13:05～13:20	15分	大学院キャリアパス推進室の制度説明と活用事例の紹介	大学院課
13:20～13:45	25分	国際的/国内研究活動促進研究費、研究会活動支援制度の採択者発表	大学院生(助成制度採択者)
13:45～13:50	5分 休憩		
13:50～15:20	90分	ワールドカフェ～理想的な大学院での過ごし方～	<ファシリテーター>大学院課 大学院生(CPS、助成制度採択者)
15:20～15:30	10分 移動		
15:30～16:10	50分	先輩の研究紹介ブースツアー	大学院生(CPS、助成制度採択者)
16:10～16:15	5分 移動		
16:15～17:00	45分	参加者交流会	大学院生

参加者数

本セミナーの参加者数は、80名(昨年度47名)でした。

【図表5-2 研究科別参加者数】

研究科・学部	参加者数	うち留学生	うち社会人
修士・博士前期/専門職学位・一貫性博士(1年次)	75	28	11
法学	0	0	0
経済学	4	3	1
経営学	7	7	0
社会学	4	1	0
文学	4	0	0

理工学	2	0	0
国際関係	3	2	0
政策科学	6	6	0
応用人間科学	-	-	-
言語教育情報	1	1	0
テクノロジー・マネジメント	6	5	1
公務	-	-	-
スポーツ健康科学	3	0	0
映像	1	0	0
情報理工学	5	1	-
生命科学	6	1	0
先端総合学術	1	0	0
薬学	0	0	0
法務	0	0	0
経営管理	1	0	0
教職	0	0	0
人間科学	21	1	9
博士後期/専門職学位・一貫性博士(3年次)	5	0	5
先端総合学術	1	0	1
人間科学	4	0	4
総計	80	28	16

セミナーの満足度について

「セミナーは全体として満足できるものでしたか？」という質問に対し、「とてもそう思う」62.0%、「ややそう思う」38%と、昨年度に続き 100%の参加者に肯定的な評価をいただきました（昨年度満足度 100%）。

また、「本セミナーの各パートは、今後、有意義な大学院生活を送るためのヒントとなりましたか？」という設問については、「大学院キャリアパス推進室の制度説明と活用事例の紹介・採択者発表」は「大変役に立った・役に立った」(96%)、「先輩の研究紹介ブースツアー」は「大変役に立った・役に立った」(92%)、「先輩の研究紹介ブースツアー」は「大変役に立った・役に立った」(94%)、「参加者交流会」は「大変役に立った・役に立った」(100%)と回答があり、高い満足度を得られる内容となりました。

「大学院キャリアパス推進室の制度説明と活用事例の紹介」では大学院キャリアパス支援プログラムのセミナーや奨学金、研究助成を紹介し、セミナーでの学びや助成制度を実際に研究活動の充実に活かしている大学院生の実体験も紹介しました。ワールドカフェ、ブースツアー、交流会では、参加者が主体的にセミナーに参加しながら、研究科や学年を越えた交流を行い、大学院に対する不安を解消しました。

6. 日本学術振興会 特別研究員申請支援

日本学術振興会 特別研究員は、採択された方の多くが常勤の研究職に就いており、若手研究家の登竜門といわれています。大学院キャリアパス推進室では、将来研究者を目指す大学院生にとって、特別研究員に採用されることは、キャリアパス形成への重要なステップであるとの観点から、申請者への支援を行っています。アカデミックキャリアを目指す大学院生のみなさんのキャリア獲得に繋がるように、制度概要や書き方を伝えるガイダンスを設け、申請者の完成度を高めるための施策」と「将来申請する潜在層に対して研究業績や能力向上を促すための施策」の両面から取り組みました。

申請ガイダンス・申請手続き

2018年度（平成30年度）採用に向けた申請手続きは、次のとおり実施しました。

	衣笠キャンパス	びわこ・くさつキャンパス	大阪いばらきキャンパス
ガイダンス	4月3日・4日	4月3日・4日	4月3日・4日
電子申請ID申請締切	4月10日		
電子申請ID発行および配布	4月10日～		
RPD学内申請期間	4月26日～4月28日		
DC1・DC2・PD学内申請期間	5月8日～5月12日		
DC1・DC2・PD書類点検期間	5月15日～5月19日		

(1) ガイダンスプログラム

- 日本学術振興会特別研究員の制度概要について
- 申請にかかる手続き、申請書の書き方等の概要について

(2) 申請ガイダンス参加者数

【図表6-1 ガイダンス参加者数】

研究科等	前期課程	後期課程	その他	合計
法学	0	3	0	3
経済学	3	0	0	3
経営学	0	0	0	0
社会学	2	2	0	4
文学	5	16	0	21
理工学	5	4	0	9
国際関係	2	5	0	7
政策科学	2	4	0	6
応用人間	1	0	0	1
言語教育情報	0	0	0	0
テクノロジー・マネジメント	0	0	0	0
スポーツ健康科学	3	3	0	6
情報理工学	1	1	0	2
生命科学	2	0	0	2
先端総合学術	0	15	0	15
薬学	0	5	0	5

その他	0	0	2	2
合計	26	58	2	86

特別研究員採用に向けた支援の取り組み

(1) 特別研究員申請支援セミナーの開催

大学院キャリアパス推進室では、日本学術振興会特別研究員の申請に向けて、「研究助成金チャレンジセミナー」を開催しました。セミナーでは、原木万紀子共通教育推進機構特別招聘准教授を講師に、研究資金を獲得するうえで避けては通れない申請書作成の攻略方法や書き方のポイントを講義で確認し、申請書作成にむけて簡易骨子を作るワークシートを元にピアレビューを行いました。

(2) 第二次選考（面接選考）に向けた面接練習会

第二次選考候補者（面接候補者）に対しては、事前に模擬面接練習会を実施しました。面接官には、安田裕子総合心理学部教授と原木万紀子共通教育推進機構特別招聘准教授のお二人に面接官役を代行いただき、面接当日と近しい状況のなかで、研究発表と質疑応答を行い、フードバックし、ブラッシュアップをはかりました。

申請および採用結果

2018年度採用における申請者数は101名であり、昨年度（昨年度115名）より減少となりました。採用者数は全体で2017年度採用の16名から1増加となりました。文学研究科では5名、先端総合学術研究科においては4名が採用されています。

【図表6-2 2018年度採用日本学術振興会特別研究員申請・採用結果 種別】

種別	申請者数	1次採用内定者数	面接選考対象者	最終採用内定者数	採用率
DC1	28	3	2	5	17.9%
DC2	73	11	1	12	16.4%
合計	101	14	3	17	16.8%

【図表6-3 2018年度採用日本学術振興会特別研究員申請・採用結果 研究科別】

出身研究科	DC1		DC2		合計	
	申請数	採用内定	申請数	採用内定	申請数	採用内定
法学	0	0	2	0	2	0
経済学	0	0	1	0	1	0
経営学	0	0	0	0	0	0
社会学	2	0	4	1	6	1
文学	6	0	22	5	28	5
理工学	5	0	4	0	9	1
国際関係	3	0	4	0	7	0
政策科学	2	0	5	0	7	0
応用人間科学	0	0			0	0
言語教育情報	0	0			0	0

テクノロジー・マネジメント	0	0	0	0	0	0
スポーツ健康科学	2	1	5	1	7	3
情報理工学	3	1	3	0	6	1
生命科学	2	1	3	0	5	1
先端総合学術	3	0	17	3	20	4
薬学	0	0	3	1	3	1
他大学	0	0	0	0	0	0
合計	28	3	73	11	101	17

7. 立命館大学大学院リサーチプロポーザルコンテスト

大学院キャリアパス推進室では、2013 年度より大学院生の研究構想力の向上、自身の研究内容や専門知識を広く社会に伝える力を養う、および汎用的な文章力の向上を目的として「立命館大学大学院リサーチプロポーザルコンテスト」を開催しています。2017 年度も引き続き同様の内容で開催しました。

コンテスト概要

(1) 募集概要

①応募資格 応募締切日現在、本学大学院に在学する大学院生

②募集分野 文系、理系

(2) 応募について

①応募に関して

- ・ 応募は 1 人 1 件とします。（共同研究は不可）
- ・ 応募内容は応募者本人が作成したものに限ります。
- ・ すでにこのコンテストに応募されたことがある方は、同じ内容での応募はできません。
その後の研究進捗状況を反映させるなど、内容をブラッシュアップしたものをご提出ください。
- ・ 応募書類は返却しません。各自、応募書類をコピーするなどして控えをとっておいてください。
- ・ 応募の条件を満たしていないもの、提出方法について不備のあるものは審査の対象外とします。
- ・ これまでの研究経過および研究成果に関して、研究倫理にもとる重大な虚偽が発見された場合は、「立命館大学学生懲戒規程」にもとづき厳しく対処します。
- ・ 審査に関するお問合せには応じられません。
- ・ 視覚障がいなどにより図で示せない場合等については大学院課に相談してください。

②作成要領

- ・ 応募用紙は立命館大学大学院キャリアパス推進室ホームページよりダウンロードしてください。
応募様式は、本コンテスト所定のものを使用し、本文のフォントサイズは 10.5 ポイントを使用して作成してください。
フォントサイズ、行間、様式の変更、所定様式以外の用紙の追加、所定枠を超えてのページの追加は認めません。
- ・ 設問 1 「研究の概要図」については、応募用紙に記載した研究の内容を、図式を用いて概略図を作成してください。
- ・ 応募書類はパソコンで作成してください。
- ・ 応募書類は日本語または英語で作成してください。
- ・ 図表等を用いて、必ずしも専門や前提知識を共有しない読者を想定して作成してください。略語は使用しないでください。
- ・ 応募書類は PDF データを提出してください。

(3) 審査について

①審査体制

大学院キャリアパス推進室委員で審査委員会を構成し、審査を行う。なお、応募者全員に審査講評を送付する。

審査委員長 永井室長（委員長）

審査委員 山下副室長、宮本副室長、堤副室長、望月副室長、岡田副室長、中谷副室長、
中川運営委員、原木運営委員

②審査基準

以下の審査項目について、審査基準（1）論旨・形式の一貫性（2）分かりやすさ（3）知的な示唆（4）研究計画・提案の魅力の観点から審査を行う。

・概要図

概要図が、プロポーザルの要点を押さえ、分かりやすく、かつ魅力的に作成されているかについて評価する。

・研究の目的・内容

研究の目的が具体的かつ明確に示されているか、研究目的を達成するための方法、計画が練られたものになっているか、論旨・形式に一貫性があるか、知的な示唆に富んでいるかについて評価する。

・研究の特色・独創的な点

研究課題を設定する視点に特色や独創性が認められるか、研究が完成したときに予想されるインパクトおよび将来の見通しがあるか、論旨・形式に一貫性があるか、知的な示唆に富んでいるかについて評価する。

・研究の背景

研究の背景について、これまでの研究状況を踏まえ、参考文献を挙げながら説明できているか、論旨形式に一貫性があるかについて評価する。

・研究業績

課程、回生を踏まえつつ、研究業績について評価する。

③賞について

大賞 各分野 1名 計 2名（賞状、副賞図書カード 3万円分）

優秀賞 各分野 2名 計 4名（賞状、副賞図書カード 1万円分）

敢闘賞 各分野 3名 計 6名（賞状）

応募状況

【図表 7-1 研究科別応募状況】

研究科	修士・博士課程前期 一貫制 1・2回生	博士課程後期 一貫制 3回生以上	合計
法学	0	0	0
経済学	3	1	4
経営学	1	0	1

社会学	1	0	1
文学	0	2	2
理工学	1	1	2
国際関係	2	2	4
政策科学	1	0	1
応用人間科学	1	0	1
言語教育情報	0	0	0
テクノロジー・マネジメント	0	1	1
公務	0	0	0
スポーツ健康科学	0	0	0
映像	0	0	0
情報理工学	0	0	0
生命科学	1	0	1
先端総合学術	0	0	0
薬学	0	1	1
法務	0	0	0
経営管理	0	0	0
教職	0	0	0
合計	11	8	19

【図表 7-2 分野別応募状況】

分野	修士・博士課程前期 一貫制 1・2 回生	博士課程後期 一貫制 3 回生以上	合計
文系	9	6	15
理系	2	2	4

審査結果

審査委員による書面審査を行い、文系の優秀賞 3 名、敢闘賞 3 名、理系の優秀賞 2 名、敢闘賞 2 名の受賞者を決定しました。

優秀賞

Magdalena Triasih Dumauli 経済学研究科 博士課程後期課程

「Labor Economics」

MALAI, Andrei 国際関係研究科 博士課程後期課程

「Status Theory: Unifying Political and Social Psychological Ontology」

土元 哲平 文学研究科 博士課程後期課程

「「転機」の文化心理学的研究——自己・他者の相互行為からのアプローチ——」

米田 大樹 理工学研究科 博士課程前期課程

「弾性体折り紙:紙ばねの変形と力学特性の解明」

Faizulsalihin Bin Abas 理工学研究科 博士課程後期課程

「Pioneering indium nitride based semiconductor potential for thermoelectric device application」

敢闘賞

藤田 矩大 経済学研究科 博士課程前期課程

「ハイブリット事業体の損失控除における課税問題」

谷原 吏 社会学研究科 博士課程前期課程

「職場の相互行為場面において求められる「適切な感情及び振舞」に関する社会史的研究」

堀内 悠 応用人間科学研究科 修士課程

「看護師の感情労働とバーンアウトの関係に対して援助の主体感がもつ調整変数としての機能」

松濤 大智 生命科学研究科 博士課程前期課程

「メチレンブルー分解メカニズムの解明による湿式光触媒活性評価法の確立」

高橋 未来 薬学研究科 博士課程

「医療および食の安全・安心を目指した新たな分析技術の開発」

表彰式・交流会

本コンテストの受賞者を讃え、またコンテスト応募者同士の交流を図ることを目的として表彰式・交流会を開催しました。

(1)開催日時 2017年12月18日（月）18:00～20:00

(2)会場 衣笠キャンパス 究論館1階 パフォーミングスペース

(3)式次第 ①開式の辞、②室長挨拶・審査講評、③受賞者発表、④表彰、⑤優秀賞受賞者プレゼンテーション、⑥閉式の辞、⑦記念撮影、⑧交流会



8. 男女共同参画推進リサーチライフサポート室における取り組み

立命館大学は、教育研究機関として次世代の人材育成のため多様性（ダイバーシティ）を尊重し、女性の個性と能力が最大限に發揮できる社会の実現を目指して、女性研究者の育成と活躍の支援に取り組んでいます。2016年12月に、女性研究者の研究環境をサポートし、女子学生・院生の活躍を励ますことを目的として男女共同参画推進「リサーチライフサポート室」を開設しました。リサーチライフサポート室では、女性教員の比率をさらに高めていくため、採用計画などの数値目標だけでなく、教育・研究とさまざまなライフイベントを両立しやすい環境整備を推進しています。2017年度において、大学院生も対象としたセミナーを下記の通り、開催しました。

(1)「立命研究者会」

本セミナーでは学部や学科、キャンパスを超えたネットワーク形成はもとより、文理融合・複合領域における共同研究プロジェクトの創成等、研究交流としての機会へつながることを目的に、「先輩教員との交流」、「教員同士のコミュニケーション」を図るべく、学部や学科、キャンパスを超える様々なコミュニケーションや情報交換を行いました。

①開催日時：2017年6月23日（金）

開催キャンパス：びわこ・くさつキャンパス

院生参加者数：29名中3名

<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rsupport/news/article.html?id=16>

②開催日時：2017年9月15日（金）

開催キャンパス：大阪いばらきキャンパス

院生参加者数：21名中2名

<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rsupport/news/article.html?id=33>

③開催日時：2017年12月22日（金）

開催キャンパス：衣笠キャンパス

院生参加者数：35名中6名

<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rsupport/news/article.html?id=69>

(2)研究キャリアパス支援セミナー

研究者のキャリア形成過程についての課題は、①研究業績を上げるためのもの（業績の作り方、役職、それらと密接な関係にある家庭と仕事の両立策など）、②教育業績に関わるもの（コミュニケーションなど）、③組織の管理運営に関わるもの（組織マネジメントに関することなど）に分類することができ、それぞれ、学生→ポスドク→研究職への就職→上位職階への昇進という過程に重なります。

本セミナーでは、研究と役職、研究と大学運営（行政）、大学運営（行政）に女性研究者が参加することの意義と課題を、当人および大学組織の両面から考え、役職を目指そうとしている研究者、既にある程度の役職に就いている研究者がこれ以上ステップアップするためには何をすればよいかなど、現在

または将来、役職を務めることに関する不安や悩みについて共有しました。

開催日時：2018年2月23日（金）

開催キャンパス：衣笠キャンパス

院生参加者数：15名中3名

<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rsupport/news/article.html?id=79>

9. 奨学金および研究助成制度(修士・博士課程前期課程)

大学院育英奨学金

本奨学金は、大学院の修士課程、博士課程前期課程または一貫制博士課程の2年次生のうち、優秀な学修および研究を行っている大学院生を育英し、さらなる学修および研究を奨励することを目的とする奨学金です。給付額は研究科によって異なります。

※本制度は2017年度より名称・内容を見直し、2年次対象成績優秀者奨学金として運用しています。

(1)概要

【育英A】

特に優秀な学修および研究を行っている者（研究科毎に給付対象学期に在学する学生数の20%以内）を対象に、40万円から90万円の奨学金を給付します。

【育英B】

優秀な学修および研究を行っている者（研究科毎に給付対象学期に在学する学生数の20%～25%以内）を対象に、20万円から36万円の奨学金を給付します。

【後期課程進学奨励】

特に優秀な学修および研究を行っている者で、後期課程または一貫制博士課程3年次への進学を希望するもの（奨学金対象母数の5%以内）を対象に、修士・博士課程前期課程2年次の授業料から50万円を差し引いた額を奨学金として給付します。

(2)2017度給付総額・採択者数

【図表9-1 育英A・B給付状況】

研究科	育英A	育英B	給付総額
法学	0	0	0
経済学	0	0	0
経営学	0	0	0
社会学	0	0	0
文学	0	0	0
理工学	2	0	352,000
国際関係	2	0	100,000
政策科学	6	0	300,000
応用人間科学	0	0	0
言語教育情報	2	0	176,000
テクノロジー・マネジメント	2	0	438,000
公務	0	0	0
スポーツ健康科学	0	0	0
映像	0	0	0
情報理工学	1	0	169,600

生命科学	0	0	0
先端総合学術	1	0	75,000
合計	16	0	1610,600

2 年次対象成績優秀者奨学金

2年次対象成績優秀者奨学金は、本学大学院の修士課程、博士課程前期課程および一貫制博士課程（1年次入学）の第3・4セメスターに相当する期間の奨学金です。優秀な学修および研究を行っている大学院学生を育英し、さらなる学修および研究を奨励することを目的としたものです。給付額は、研究科によって異なります。

（1）概要

【I 給付】

総合評価の得点上位者を対象に、20万円から50万円の奨学金を給付します。

【II 給付】

総合評価の得点上位者でIに次ぐ者を対象に、10万円から32万5千円の奨学金を給付します。

【III 給付】

総合評価の得点上位者でIIに次ぐ者を対象に、10万円の奨学金を給付します。

（2）2017度給付総額・採択者数

【図表 9-2 2年次I・II・III給付状況】

研究科	I	II	III	給付総額
法学	1	1	0	300,000
経済学	2	3	4	1,600,000
経営学	0	7	0	700,000
社会学	1	4	0	600,000
文学	1	15	0	1,550,000
理工学	10	69	0	27,425,000
国際関係	2	7	0	700,000
政策科学	2	7	0	850,000
応用人間科学	3	5	0	1,100,000
言語教育情報	0	13	0	1,150,000
テクノロジー・マネジメント	0	0	13	1,250,000
公務	0	4	0	400,000
スポーツ健康科学	0	5	0	500,000
映像	0	1	0	200,000
情報理工学	31	24	0	15,800,000
生命科学	26	2	0	8,250,000
先端総合学術	0	1	0	100,000
合計	79	168	17	62,475,000

博士課程前期課程学生学会補助金

学会発表は、修士・博士課程前期課程の大学院生にとっても、学術的な経験を積む貴重な研鑽の場であると言えます。その学会発表を一人でも多くの大学院生が経験できるよう、学会参加および学会発表を奨励し、援助することを目的として、学会参加や発表にかかる経費（学会登録料・参加料および学会出席に要する交通費）を補助しています。

(1) 補助額の上限および補助の回数

【図表 9-3 補助額の上限】

種類	補助額の上限
国内学会参加補助	10,000 円
国内学会発表補助	30,000 円
国外学会発表補助	100,000 円

補助金の支給回数は、国内学会参加補助が在籍期間中 1 回限り、国外学会発表補助が各年次につき 1 回限りという条件に加え、年次ごとに以下の回数制限を設けています。

【図表 9-4 補助回数の上限】

1 年次	国内学会参加補助、国内学会発表補助、国外学会発表補助のなかから年次 1 回まで
2 年次以上	国内学会参加補助、国内学会発表補助、国外学会発表補助のなかから年次 2 回まで

(2) 補助執行総額・補助件数

【図表 9-5 国内学会参加補助執行額】

研究科	補助件数	執行金額(円)
法学	0	0
経済学	9	90,000
経営学	0	0
社会学	3	30,000
文学	11	110,000
理工学	19	156,500
国際関係	0	0
政策科学	2	20,000
応用人間科学	5	50,000
言語教育情報	1	4,460
テクノロジー・マネジメント	1	10,000
公務	0	0
スポーツ健康科学	1	10,000
映像	0	0
情報理工学	5	46,620
生命科学	4	40,000
先端総合学術	1	10,000
薬学	0	0
合計	62	577,580

【図表 9-6 国内学会発表補助執行額】

研究科	補助件数	執行金額(円)
法学	0	0
経済学	1	25,780
経営学	0	0
社会学	0	0
文学	7	178,980
理工学	170	4,482,220
国際関係	0	0
政策科学	1	30,000
応用人間科学	15	418,120
言語教育情報	1	25,380
テクノロジー・マネジメント	3	81,480
公務	0	0
スポーツ健康科学	9	267,460
映像	1	25,320
情報理工学	72	1,859,100
生命科学	111	2,744,730
先端総合学術	0	0
薬学	0	0
合計	391	10,138,570

【図表 9-7 国外学会発表補助執行額】

研究科	補助件数	執行金額(円)
法学	0	0
経済学	1	52,156
経営学	2	145,810
社会学	7	322,181
文学	6	248,552
理工学	69	6,587,957
国際関係	2	79,318
政策科学	1	100,000
応用人間科学	2	118,865
言語教育情報	0	0
テクノロジー・マネジメント	0	0
公務	0	0
スポーツ健康科学	14	1,400,000
映像	3	300,000
情報理工学	55	4,942,673
生命科学	24	2,255,413
先端総合学術	0	0
薬学	0	0
合計	186	16,552,925

博士課程前期課程研究実践活動補助金

本補助金は、研究科の人材育成目的および3つのポリシー（学位授与方針、教育課程編成・実施方針、入学者受入れ方針）に基づいて、学外で実施する研究実践活動への参加を奨励し、援助することを目的とする制度です。

(1)研究実践活動補助金採択プログラム

【図表 9-8 国内研究実践活動プログラム一覧】

研究科	研究実践活動・プログラム名
法学	法務実習
国際関係	フィールド型学修・研究支援制度 国内インターンシップ活動
政策科学	地域共創研究
映像	映像現場研修 科学映像の制作理論と制作
応用人間科学	対人援助実習 H6(東日本震災復興プロジェクト)
言語教育情報	日本語教育実習(日本語教育演習 I・初級/ II・中上級)
経済学	税理士法人におけるインターンシッププログラム 大分県に学ぶ地域開発の取組(APU 受託の JICA 地域開発研究)
理工学	建築士事務所におけるインターンシッププログラム
理工学・情報理工学・生命科学	理工系産学連携コーオプ演習
テクノロジー・マネジメント	プラクティカム(課題解決型長期企業実習)
公務	リサーチ・プロジェクト実地調査

【図表 9-9 国外研究実践活動プログラム一覧】

研究科	研究実践活動・プログラム名
文学	海外派遣型著名博物館・図書館実務実習プログラム
国際関係	フィールド型学修・研究支援制度 海外インターンシップ活動
応用人間科学	対人援助実習 H3(ベトナム実習) 対人援助実習 H4(蘇州実習)
言語教育情報	Joint TESOL Certificate Program at UBC(「TESOL の理論と実践 I」「TESOL の理論と実践 II」) Intensive Graduate TESOL Program at USQ(「TESOL 教授法と実習」「TESOL リサーチスキルズ」) 日本語教育実習(日本語教育実習 I・初級/ II・中上級)
理工学	特殊講義(アドバンスト海外スタディ 欧州/ 北米) 建築事務所におけるインターンシッププログラム ジェイコブス大学派遣プログラム
理工学・情報理工学・生命科学	国際力を備えた技術系大学院学生の育成
情報理工学	インド夏期海外IT研修プログラム(共通科目: 海外実習) 海外インターンシッププログラム

(2)補助執行総額

【図表 9-10 国内研究実践活動執行額】

研究科	研究実践活動名	参加人数	執行金額(円)
法学	法務実習	1	20,000
国際関係	フィールド型学修・研究支援制度	0	0
政策科学	国内インターンシップ活動	1	25,000
映像	地域共創研究	0	0
	映像現場研修	1	20,000
	科学映像の制作理論と制作	1	15,000
応用人間科学	対人援助実習 H6(東日本震災復興プロジェクト)	14	210,000

言語教育情報	日本語教育実習(日本語教育演習Ⅰ・初級/Ⅱ・中上級)	4	80,000
経済学	税理士法人におけるインターンシッププログラム	3	50,000
理工学	大分県に学ぶ地域開発の取組(APU受託のJICA地域開発研究)	1	15,000
理工学・情報理工学・生命科学	建築士事務所におけるインターンシッププログラム	5	135,000
テクノロジー・マネジメント	理工系産学連携コーオプ演習	0	0
公務	プラクティカム(課題解決型長期企業実習)	10	300,000
合計	リサーチ・プロジェクト実地調査	18	270,000
		59	1,140,000

【図表 9-11 国外研究実践活動執行額】

研究科	研究実践活動名	参加人数	執行金額(円)
文学	海外派遣型著名博物館実務実習プログラム	3	120,000
国際関係	フィールド型学修・研究支援制度	0	0
	海外インターンシップ活動	0	0
応用人間科学	対人援助実習H3(ベトナム実習)	2	60,000
	対人援助実習H4(蘇州実習)	6	120,000
	Joint TESOL Certificate Program at UBC(「TESOLの理論と実践Ⅰ」「TESOLの理論と実践Ⅱ」)	0	0
言語教育情報	Intensive Graduate TESOL Program at USQ(「TESOL教授法と実習」「TESOLリサーチスキルズ」)	12	900,000
	日本語教育実習(日本語教育実習Ⅰ・初級/Ⅱ・中上級)	18	585,000
理工学	特殊講義(アドバンスト海外スタディ 北米/アジア)	3	120,000
	建築事務所におけるインターンシッププログラム	0	0
	ジェイコブス大学派遣プログラム	4	400,000
理工学・情報理工学・生命科学	国際力を備えた技術系大学院学生の育成	42	4,535,000
情報理工学	インド夏期海外IT研修プログラム(共通科目:海外実習)	0	0
	海外インターンシッププログラム	0	0
合計		90	6,840,000

10. 奨学金および研究助成制度(博士課程後期課程)

研究奨励奨学金

本奨学金は、本学大学院に在学する優秀な研究業績を有する大学院生の授業料を援助することにより、当該課程における研究活動を奨励することを目的とする奨学金です。

(1)概要

【S 給付】

テニュアポスト獲得においてきわめて重要なキャリアである日本学術振興会特別研究員への申請を奨励し、当該年度の研究員採用者および前年の募集における1次審査通過者について、授業料相当額の奨学金を給付します。(非公募制)

【A 給付】

各研究科の人材育成目標に照らして優れた研究業績をあげた者、あるいはあげることが期待できる者(各研究科在学生数の5%を上限)に対して、S 給付と同様に授業料相当額の奨学金を給付します。

【B 給付】

A 給付に準ずる者(各研究科在学生数の15%を上限)に対して、授業料の半額相当額の奨学金を給付します。

(2)2017年度給付・採択件数

【図表 10-1 2017年度研究奨励奨学金給付総額・採択件数】

研究科	A 給付・B 給付 申請者数	採択件数			給付総額(円)
		S	A	B	
法学	3	1	1	2	1,350,000
経済学	3	1	1	2	1,450,000
経営学	2	0	1	1	750,000
社会学	15	1	3	8	3,400,000
文学	31	11	5	14	9,850,000
理工学	12	1	4	8	3,975,000
国際関係	10	0	2	5	1,550,000
政策科学	7	2	2	3	1,850,000
テクノロジー・マネジメント	4	0	2	2	1,425,000
スポーツ健康科学	8	9	2	0	5,500,000
情報理工学	6	6	2	4	4,425,000
生命科学	7	2	2	5	2,950,000
先端総合学術	31	5	6	15	8,125,000
薬学	3	0	1	1	750,000
合計	142	39	34	70	47,350,000

(3) 2017年度選考実施状況

本奨学金（A 納付・B 納付）については、概要に記載のとおり、各研究科の教育研究上の目的に基づき、当該研究科においてそれぞれ選考基準等を定めたうえで、採択者を選考しています。各研究科の選考にかかる方法および体制は、次の表のとおりです。

【図表 10-2 2017年度博士課程後期課程研究奨励奨学金の選考状況】

研究科	2017年度選考総括		(参考) 教育研究上の目的
	選考方法(評価ポイント)	選考体制	
法学	<p>本研究科の人材育成目的をふまえつつ、申請書の「現在までの研究状況」、「これから的研究計画」、「研究の特色・独創的な点」の各欄の記載内容、及び研究業績に基づき評価を行った。なお、研究業績については、下記①～③の観点から評価を行った。</p> <p>①学術雑誌等での論文の公表。 ②研究報告。なお、本観点における評価の優先順位については、第一に国際会議、第二に全国規模の学会、第三に地域規模の学会・研究会、第四に学内の研究会とした。 ③学術雑誌等での論文以外の論稿（「翻訳」等）の公表。</p>	<p>大学院教務委員会において書類選考を行い、その結果を法学部執行部会議で確認した上で、法学研究科委員会において採用者を決定した。</p>	<p>法律学・政治学の研究者およびその高度な専門知識を必須とする職業分野で活躍しうる人の養成を目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、博士課程前期課程での研究成果を踏まえ、自らの専門領域について主体的に研究課題を定め、自らの独創的な視点で、研究計画にしたがって研究を進めるとともに、その成果を博士論文として結実させができる自立した学術研究者等の育成を目的とする。</p>
経済学	<p>人材育成目的に照らして、研究業績（論文、学会発表等）の評価を最優先とした。ただし、選考にあたっては、回生についても考慮した。</p>	<p>研究科執行部により、書類選考を行い、執行部会議、研究科委員会にて採用者を決定した。</p>	<p>経済学の高度な専門性を有する有為の人材を育成することを目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、広い視野と深い専門性および優れた独創性を持ち、そして新たな領域の研究分野を自ら切り開いてゆくことができる高い研究力量を備えた研究者を養成することを目的とする。また、世界的に高まっている博士学位を有する高度専門職業人へのニーズにこたえるため、留学生を含め国際通用力の高い論理的思考力と構想力および創造性を持った人材を養成することを目的とする。</p>
経営学	<p>本研究科の人材目的に即し、投稿論文数、学会発表の業績、修士論文内容を重視して点数化し、学業成績の評価とあわせて総合評価をおこなった。</p>	<p>大学院担当副学部長が原案を作成し、経営学研究科教学委員会、研究科委員会に諮り採用者を決定した。</p>	<p>経営学の高度な専門力量をもったビジネスパーソンおよび研究者を養成することを目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、経営学分野の研究活動を行うに必要な高度な研究能力を身につけ、将来にわたって研究活動を持続できる自立した研究者の育成を目的とする。</p>
社会学	<p>①後期課程 1 回生については、「研究の進捗状況と将来性」に重点をおき、それに「研究業績」を加え、2つの要素を総合的に判断した。</p> <p>②後期課程 2 回生以上については、「研究業績」に重点をおき、「研究の進捗状況と将来性」を加え、2つの要素を総合的に判断した。判断にあたっては、点数化により客観化を行った。</p> <p>「研究業績」については研究科で</p>	<p>全体的な選考は大学院・研究担当副学部長と研究科教学委員幹事が行った。「研究の進捗状況と将来性」の評価は研究科教学委員で分担して行なう上で、執行部会議、研究科教学委員会、研究科委員会にて採用者を決定した。</p>	<p>現代社会が提起する諸問題を社会学と既存の学問諸分野との協同によって解明し、社会的に要請される実践的課題にこたえる研究者と専門職業人の養成を目標とする。</p> <p>博士課程後期課程は、現代社会が提起する諸問題に関して、社会学を中心としつつも、社会諸科学の協同によって、先端的で多面的・学際的な理論と実証的な研究を行い、博士論文を執筆し、大学の教員や研究諸機関等の研究員として活躍できる人材を育成することを目的と</p>

	<p>定めた「奨学金選考基準別表」の研究業績に関する評価基準の見直しを行い新たな基準に基づき審査を行った。</p> <p>本研究科における教育研究上の人才培养目的に即して研究業績を重視し、各々の項目（博士論文、研究論文、著書、学会発表、その他）について点数化した業績シートを作成することによって、客観的に評価した。</p> <p>特に査読誌や外国語雑誌に掲載された論文、また国際学会における発表を高く評価しているが、この方式では累積点にもとづく評価となるため、低回生に不利な場合がある。そこで2016年度から累積点を回生で割る方式に変更し、点数の上位者から採用した。</p>	<p>する。</p> <p>申請者の所属専修において、申請者の業績を文学研究科の内規に基づいて点数化するシートを作成した。研究科執行部による業績シートの確認を経て、研究科委員会で評価を行ない、採用者を決定した。</p>	<p>人文学の総合的な研究の場として、新たな学問的 possibility をひらく高度な能力を有した人材を養成することで、人文学研究への社会的・現代的要請にもこたえていくことを目的とする。</p> <p>人文学専攻博士課程後期課程は、人文学の総合的な研究の場として、新たな学問（領域）を切り拓く高度な能力を有した人材を養成することで、人文学研究への社会的・現代的要請にも応えていくことを目的とする。</p> <p>行動文化情報学専攻博士課程後期課程は、人文学と情報学を有機的に統合し、伝統的な人文学と実践的な情報学が探求してきた内容や方法論を修得・発展させ、その成果を共有・発信できる能力を有した人材を養成することで、人文学研究への社会的・現代的要請にも応えていくことを目的とする。</p> <p>理工学の専門領域に関する高度な理論と技術に加え、創造的発見能力を兼ね備えた研究者、高度専門職業人を養成することを目的とする。</p> <p>基礎理工学専攻博士課程後期課程は、数学または物理学の専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。</p> <p>電子システム専攻博士課程後期課程は、電気・電子工学・光工学・情報工学などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。</p> <p>機械システム専攻博士課程後期課程は、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。</p> <p>環境都市専攻博士課程後期課程は、土木工学・環境工学・建築学などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。</p> <p>グローバル化する現代社会を、政治、経済、文化・社会のそれぞれの側面において、学際的な社会科学のアプローチで解説する国際関係学の研究者、および国際関係学の専門知識をそなえ、国際社会で活躍する職業人を育成することを目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、国際関係学の専門知識と異文化間の媒介能力とに裏打</p>
文学			
理工学	<p>理工学研究科の人材育成目標に照らして、優れた研究業績をあげた者、あるいはあげることができる者。研究状況、研究計画、学会発表や論文数などの研究業績を総合的に評価して奨学生採用者を選考している。</p>	<p>それぞれの専攻・コースにおける学系会議・学科会議等において、書類選考を行い、執行部会議、専攻長会議にて奨学生採用者を決定した。</p>	<p>理工学の専門領域に関する高度な理論と技術に加え、創造的発見能力を兼ね備えた研究者、高度専門職業人を養成することを目的とする。</p> <p>基礎理工学専攻博士課程後期課程は、数学または物理学の専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。</p> <p>電子システム専攻博士課程後期課程は、電気・電子工学・光工学・情報工学などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。</p> <p>機械システム専攻博士課程後期課程は、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。</p> <p>環境都市専攻博士課程後期課程は、土木工学・環境工学・建築学などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。</p>
国際関係	<p>以下の本研究科における選考内規に基づき、選考をおこなった。</p> <p>1.全学選考基準の廃止に伴う項目削除</p> <p>2.研究成果について</p> <p>①研究成果の期間設定</p> <p>D3以下、D4以上的学生は過去3年度以内(休学期間を含む)の成果をカウントすることを確認。(入学</p>	<p>研究科運営会議で原案を作成し、執行部会議、研究科委員会に諮り採用者を決定した。</p>	<p>グローバル化する現代社会を、政治、経済、文化・社会のそれぞれの側面において、学際的な社会科学のアプローチで解説する国際関係学の研究者、および国際関係学の専門知識をそなえ、国際社会で活躍する職業人を育成することを目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、国際関係学の専門知識と異文化間の媒介能力とに裏打</p>

	<p>前も含むことを再確認) 年度しか掲載されておらず、過去 3 年に含まれるか判断に迷う場合には、本人に確認をすること。</p> <p>※研究成果には、出版前で既に掲載が確定しているものも含むこと。</p> <p>②学年ごとの係数変更(研究成果)</p> <p>$D3 \times 1, D2 \times 1.5, D1 \times 3$ D4 以降は過去 3 年間の研究成果 $\times 0.7$</p> <p>上記係数変更の考え方として、D3 以下は D3 の回生を基準に係数を算出。</p> <p>D1: $3/1 = \text{係数 } 3$ D2: $3/2 = \text{係数 } 1.5$</p> <p>D4 以上に関しては、D3 が申請までに在学した期間(2 年間)を基準に係数を算出。</p> <p>D4～D5: $2/3$(過去 3 年間の研究業績のため) ≈ 0.7</p> <p>3. 研究計画について 学年ごとの係数は、D4 以上も $\times 1$ とすることを新たに確認。</p> <p>当該年度学振特別研究員申請に伴う、意欲の加点 0.5 点。</p>	<p>ちされた学際的・複眼的な視点に立ち、国際社会における秩序や平和の構築、国際開発・協力の促進、多文化社会の諸課題の解決などの課題について、独創的な分析を行う力を有する人材、および高度な専門家として実践的な課題解決に貢献する力を有する人材を育成することを目的とする。</p>	
政策科学	<p>教育研究上の人材育成目的に照らし合わせて、本人の申請に基づき、研究成果、研究計画、研究報告書を総合的に評価、選考した。</p>	<p>執行部にて、選考方針及び審査案を作成した。審査案は、研究科委員会に上程され、審議の上、採用者を決定した。</p>	<p>現代社会の政策課題の発見と解決を促す知識の生産および人材育成の場であることを通じて、諸学の実践的総合による社会的要請への応答を目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、現代社会の政策課題の発見と解決を促す知識の生産および人材育成の場であることを通じて、諸学の実践的総合による社会的要請に応えるという目的を達成するため、現代社会が直面する政策課題とその適切な解決策の創造に関する研究能力の育成を目指し、政策科学の研究を通じて社会の諸問題に取り組むより高い能力を身につけた研究者を輩出することを目的とする。</p>
テクノロジー・マネジメント	<p>本研究科の人材育成目的にもとづき選考。査読つき論文の本数・学会発表の本数を勘案した上で、総合的に審査し、採否およびABの採用者を決定。</p>	<p>研究科の執行部メンバーから 2 名を選考委員に選出し、書類選考の上採用案を作成。</p> <p>執行部会議、教授会にて採用者を決定した。</p>	<p>科学技術の価値を理解し、社会発展に寄与する能力を持った人材を養成することを目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、企業における実践を普遍的、体系的概念や方法論に昇華し形式知化する研究者の育成を目指し、技術者・経営者など、技術経営の実践者としての経験を学問研究の場にフィードバックし、企業における実践を普遍的、体系的概念や方法論に昇華し形式知化し、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的とする。</p>
スポーツ健康科学	<p>教育研究上の人材育成目的に照らし合わせて、本人の申請に基づき、投稿論文や著書、国際／国内学会での研究発表等の研究業績をポイント化し、中でも国際的な業績を重視した上で、評価した。</p>	<p>企画委員会にて、選考方針を決め、執行部によって指名された選考委員による選考委員会を行った。その上で、研究科委員会にて採用者を審議・決定した。</p>	<p>スポーツ健康科学の高度な専門性に基づく理論と実践を有し、豊かな人間性とリーダーシップを備え、社会の発展に貢献する有為な人材の養成を目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、スポーツ健康科学分野において先端の研究成果をあげ、その成果を実践に結びつけるとともに、研究プロジェクトなどにおいてリーダーシップを発揮することができる研究者の養成を目的とする。</p>

情報理工学	<p>申請者の研究業績内容に応じて業績毎にポイント化し、ポイントの総計で選考した。対象となる業績は、①筆頭著者論文でかつ、査読付き論文誌掲載論文または査読付き国際会議の会議録掲載論文またはその他論文、ならびに②受賞である。業績にはエビデンス(別刷や会議プログラムなど)を義務付けた。</p>	<p>事務局で応募書類に不備がないかをチェックし、執行部でポイント化とポイントの総計を算出した。執行部会議を経て、研究科委員会で審議の上、選考結果を承認した。</p>	<p>情報処理、ネットワークおよびシステムの構築といった基盤技術から、情報メディアや人、知能における応用技術、情報技術の最先端領域に至る、情報理工学の専門領域に関する高度な理論と技術に加え、創造的発見能力を兼ね備え、国際的に活躍できる研究者、高度専門職業人を養成することを目的とする。博士課程後期課程では、次の各号の者を育成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 専門分野に関する基礎的研究能力に基づき、問題の分析と解析能力や創造的発見能力を備え、独創的な研究を遂行する能力を有する者。 (2) 計画的にプロジェクトを進め、研究成果の学内外での発表や、外国の研究者・技術者との交流を推進できるコミュニケーション能力を有する者。
生命科学	<p>本研究科の人材育成目的に即し、研究業績を重視して選考を行った。研究業績については、ポイント化し、客観的に行った。また、できるだけ多くの大学院生に奨学金があたるようにするという方針から前年度の採択決定に至った研究業績については対象としなかった。</p>	<p>執行部会議、学科長会議、研究科委員会にて確認した選考基準に基づき、研究科長および大学院担当副学部長を中心とする執行部が選考原案を作成。研究業績の点数化を行う際には、申請者の指導教員、コース長に意見を求め、できるだけ公平になるよう努めた。採用原案を学科長会議、研究科委員会で確認し、採用者を決定した。</p>	<p>ライフサイエンスに関し、幅広い知識と高い専門性を身に付け、21世紀における全人類的課題の解決に貢献できる人材を育成することを目的とする。博士課程後期課程は、次の各号の人材を育成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自然科学および専門領域における確かな知識と研究能力を有する者。 (2) 日本語および外国語による高度な論理的文章力、プレゼンテーション能力ならびにコミュニケーション能力を有する者。 (3) 研究者・技術者としての責任を自覚した上で、社会における問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを有する者。
先端総合学術	<p>教育研究上の人材育成目的に照らし合わせて、本人の申請書から論文数などから研究成果を評価、学会の発表数から研究成果を評価、今後の研究計画を評価、学振申請にトライしているかを評価し、それを総合的に評価し選考した。</p>	<p>教授会とは別に4領域の責任者と研究科長、副研究科長の6名による先に記載の選考方法を点数化し、点数上位からA、B給付を決定した。上回生ほど研究評価が高くなる傾向は否めないが、現時点での選考方法は適切である。この結果を教授会に諮り、最終的に給付の判断を行った。</p>	<p>現代の諸科学分野に共有された主題群をプロジェクト研究によって追求することを通じて、新たな研究領域の創出を担う先端的で総合的な知の探求者、制作者としての研究者を養成することを目的とする。</p>

国際的研究活動促進研究費

博士課程後期課程大学院生の国際的な研究活動によるキャリア形成支援を目的とし、渡航先の地域・期間によって区分された10~30万円の研究助成金を支給するとともに、年間2回の往復渡航にかかる費用を補助しています。本研究費の支給要件として年間通算15日以上の渡航期間があるものとし、55件を上限に採択しています。

毎年度、本制度の活用により得られた知見を広く公表し、または当該研究を通じ研究者間相互のネットワークの構築等を目的とし、成果報告会を開催すると共に、採択者からの報告を取り纏めて「国際的研究活動促進研究成果報告集」として発行しています。

【図表 10-3 2017年度国際的研究活動促進研究費執行総額・給付件数】

研究科	申請件数	採択件数	執行総額(円)
法学	0	0	0
経済学	1	0	0
経営学	2	2	1,130,508
社会学	2	1	469,280
文学	12	10	3,874,954
理工学	3	2	1,168,170
国際関係	12	10	3,442,752
政策科学	14	12	4,513,505
テクノロジー・マネジメント	5	5	1,475,985
スポーツ健康科学	0	0	0
情報理工学	2	2	920,730
生命科学	1	1	132,600
先端総合学術	8	8	4,144,644
薬学	0	0	0
合計	62	53	21,273,128

国内研究活動促進研究費

博士課程後期課程大学院に在学する優秀な学生の、国内の本学以外の大学もしくは研究機関等での積極的な研究活動を奨励することを目的とし、移動日および休日は除いた連続して 10 日以上の研究活動を実施する者に対して、研究活動期間によって区分された 5~10 万円の研究助成金を支給しています。また、年間 40 件を上限に採択しています。

毎年度、本制度の活用により得られた知見を広く公表し、または当該研究を通じ研究者間相互のネットワークの構築等を目的とし、成果報告会を開催しています。

【図表 10-4 2017年度国内研究活動促進研究費執行総額・給付件数】

研究科	申請件数	採択件数	執行総額(円)
社会学	1	0	0
文学	1	1	50,000
合計	2	1	50,000

学会発表補助制度

学会発表は、日本学術振興会特別研究員など、各種研究助成の申請に際しても考慮される重要な実績であり、学術的な経験を積む貴重な研鑽の場であると言えます。さらに、研究業績を蓄積し、修業年限で学位取得の水準まで到達する点においても、学会発表は基幹的な活動の一つであるという認識のもと、その後の研究計画にどのように繋がるのかを明確にした上で、学会発表に関わる経費（学会登録料・参加費および学会出席に要する交通費）を、次の条件に基づいて補助しています。

- ・ 国内開催学会:1回の学会発表につき 3 万円を上限とし、補助回数の制限はありません。
- ・ 国外開催学会:1回の学会発表につき 10 万円を上限とし、1 年次につき補助回数 2 回を上限としています。

【図表 10-5 2017 年度国内学会発表補助制度執行総額・給付件数】

研究科	補助件数	執行総額(円)
法学	0	0
経済学	3	47,000
経営学	1	6,100
社会学	15	374,440
文学	14	334,420
理工学	19	447,800
国際関係	2	52,240
政策科学	5	101,780
テクノロジー・マネジメント	10	268,760
スポーツ健康科学	18	479,130
情報理工学	9	213,660
生命科学	29	644,590
先端総合学術	21	446,200
薬学	10	172,820
合計	156	3,588,940

【図表 10-6 2017 年度国外学会発表補助制度執行総額・給付件数】

研究科	補助件数	執行総額(円)
法学	0	0
経済学	2	123,807
経営学	1	34,780
社会学	4	234,400
文学	24	1,438,056
理工学	12	1,095,632
国際関係	5	425,597
政策科学	5	279,510
テクノロジー・マネジメント	2	150,652
スポーツ健康科学	14	1,400,000
情報理工学	7	665,733
生命科学	7	670,100
先端総合学術	5	455,016
薬学	1	100,000
合計	89	7,073,283

インターンシップ奨学金

本制度は、企業等が実施するインターンシップに参加する博士課程後期課程の大学院学生を経済的に支援することにより、インターンシップを通じたキャリア形成を奨励することを目的としています。対象となるインターンシップは、1 年度内に通算 15 日（受入先への移動日および休日ならびに当該年度外に参加する日数は含めない）以上行うものになります。ただし、給与が支払われるインターンシップは対象としません。活動日数に応じて奨学金(10~20 万円)を支給します。

※2017 年度は申請実績なし

国外共同研究奨学金

本補助金は、所属研究科の人才培养目的および3つの方針（学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針）にもとづいた研究実践活動の参加者に対し援助することを目的としています。

また、個人の研究活動ではなく「共同研究」であることを重視している点が特徴であり、海外の派遣先大学・研究機関との間で、教員個人レベルで取り交わされた共同研究も対象に含めています。

【図表 10-7 2017 年度国外共同研究奨学金 執行総額・給付件数】

研究科	研究実践活動名	参加人数	執行金額(円)
経営学	サービスデザイン理論に基づいたデザイン活動の調査と国際比較	1	400,000
	デザイナーのデザイン態度(Design Attitude)の国際比較研究	1	600,000
文学	発掘調査で出土した統一新羅時代の土器調査実習	1	300,000
政策科学	歴史都市継承に向けたコミュニティ防災に関する共同研究	1	600,000
	合計	4	1,900,000

博士論文出版助成制度

本制度は、本学大学院博士課程後期課程の大学院生の博士論文の研究成果の公刊を助成促進するものです。専門分野における優れた研究業績を積極的に公表することを目的とし、本学大学院博士課程後期課程にて博士学位を授与された方が、当該博士学位論文を出版する際、その経費の一部を助成します。
※人文系の研究科のみ対象

【図表 10-8 2017 年度 博士論文出版助成制度 申請数・採択件数・執行予定額(※)】

研究科	申請件数	採択件数	執行予定総額(円)(※)
法学	1	1	1,000,000
経済学	1	1	1,000,000
社会学	1	1	1,000,000
国際関係	2	2	1,940,000
政策科学	1	1	1,000,000
先端総合学術	3	3	3,000,000
合計	9	9	8,940,000

(※)本助成金の執行は博士論文の刊行後となるため、執行予定金額として記載しています。

11. 奨学金および研究助成制度(博士課程前期課程・後期課程共通)

研究会活動支援制度

研究会活動は、研究を通じた学びや交流、自身の研究を周知する機会となることはもちろん、研究者としてのプレゼンスを獲得することで、学会発表や論文執筆などの若手研究者に必要な業績・キャリアにつながる可能性があります。本制度は、本学の複数の研究科の大学院学生で構成される研究会に対して、年間 30 件を上限に研究会活動に必要な施設貸与や経費の支援（年間 10 万円）を行っています。

【図表 11-1 2017 年度研究会活動支援制度支援対象研究会】

研究会名	研究課題	研究会構成
立命館大学言語学研究会	言語に関する諸問題	文学 M(1 名)、D(1 名)、言語教育情報 M(3 名)
明律研究会	明代の判牘(裁判文書)から見る『大明律』の運用実態	文学 M(3 名)、D(3 名)、法学 D(1 名)、学部生(1 名)
アジア多文化社会研究会	現代アジア移民の国内外移動における社会文化的要因と送り出し及び受け入れ社会への影響に関する	国際関係 D(2 名)、政策科学 D(1 名)、先端総合学術 D(1 名)
デジタルコンテンツクリエーション研究会	デジタルを中心とする新たなコンテンツの制作	映像 M(3 名)、文学 M(1 名)
美術・工芸研究会	美術品及び工芸品の基礎知識を取り扱い方を習得する	文学 M(1 名)、先端総合学術 D(3 名)
近代文書研究会	後藤新平書簡の翻刻と時代背景の考察	文学 M(6 名)、D(5 名)、先端総合学術 D(1 名)、教職 M(2 名)、学部生(2 名)
人間研究会	「人間」とは何か	文学 M(2 名)、文学 D(1 名)、国際関係 D(1 名)、学部生(1 名)
戦後文学研究会	アジア・太平洋戦争後の文学・文化についての研究	文学 D(3 名)、先端総合学術 D(2 名)
共培養研究会	共培養を用いた、細胞間ネットワークの解明	スポーツ D(1 名)、生命科学 M(1 名)、D(1 名)
法心理・司法臨床研究会	社会内処遇の実践と理論	先端総合学術 D(5 名)、文学 D(1 名)、法学 D(1 名)、応用人間科学 M(1 名)、研修生(1 名)、学部生(1 名)
立命館ピア・サポート研究会	ピア・サポートが援助者に及ぼす影響の調査、ピア・サポートに関する要所の輪読および翻訳	応用人間科学 M(3 名)、教職 M(1 名)
Indonesia Research Group	Politics, Economics, and Science	国際関係 M(1 名)、D(2 名)、政策科学 M(1 名)、D(4 名)、経済 M(2 名)、文学 D(1 名)、生命 D(1 名)、学部生(1 名)
学民連携地域活性化研究会	地域活性化の為に学民連携を行い、参与観察を通じてそのケーススタディを行い、地元住民と大学の関わり方や何がニーズなのかを分析	経済 M(1 名)、政策科学 M(2 名)、理工学 M(1 名)、テクノロジー・マネジメント M(1 名)、学部生(4 名)

	的一般化を通じて明らかにする	
アスリートハイパフォーマンスサポート	アスリートの競技向上をねらいとした実践的研究	スポーツ健康科学 M(4名)、D(2名)、教職 M(1名)
アンチエイジング研究会	加齢現象をミクロの視点で解明する	生命 D(2名)、スポーツ健康科学 D(1名)
応用トレーニング科学	新たなパフォーマンス評価方法の開発	スポーツ健康科学 D(2名)、理工学 M(1名)、学部生(1名)
アジアの精神障害者の自助活動に関する研究会	アジアの精神障害者の自助活動に関する研究	先端総合学術 D(7名)、文学 D(1名)、研修生(1名)
メイル・セクシュアリティーズ研究会	身体性やジェンダー規範など、様々な観点から男性性について問い合わせる	応用人間科学 M(2名)、文学 D(1名)
民族療法研究会	日本の土地や歴史が生み出してきた心の療法の工夫を明らかにし、臨床現場に生かす	応用人間科学 M(3名)、先端総合学術 M(1名)
地域調査手法研究会	地域調査に係る手法や問題点を所属メンバーの具体事例をもとに検討する	社会学 M(1名)、経済学 M(1名)、理工学 M(1名)、
現代社会研究会	現代社会における様々な問題を多角的に考察するための方法論的視座の獲得	先端総合学術 M(2名)、D(4名)、国際関係 D(1名)、

M…修士・博士課程前期課程・一貫制博士課程 1・2 年次・専門職学位課程 D…博士課程後期課程・4 年制博士課程・一貫制博士課程 3 年次以上

【図表 11-2 2017 年度研究会活動支援制度執行総額】

費目	金額(円)
消耗品	706,448
会場費	0
印刷費	209,436
調査交通費	144,820
講師謝礼	268,030
講師交通費	34,702
講師宿泊費	20,492

ベーススキル向上支援補助制度(CLA 講座受講料補助)

本制度は、社会に出てから実践的な力を発揮するために必要となる基本的素養（ベーススキル）の確実な習得を奨励することを目的として、その向上を図るために、本学の言語習得センター（CLA）が実施する課外の各講座を受講する大学院生および大学院進学予定者に対して、受講料の一部を補助しています。

(1)補助対象講座および申請要件

【図表 11-3 補助金申請要件一覧】

講座名	申請要件
・TOEIC®L&R テスト対策講座	(1)受講前のスコア(プレイスメントテストの成績もしくはその代替として提出するスコア[受講する講座の初回講座日より <u>1年前までの受験スコアが有効</u>]が TOEIC® L&R テスト 450 点、TOEFL ITP® テスト 450 点以上であること。 (2)講座終了時のアチーブメントテストを受験していること。
・ TOEFL®テスト対策講座	(1)受講前のスコア(プレイスメントテストの成績もしくはその代替として提出するスコア[受講する講座の初回講座日より <u>1年前までの受験スコアが有効</u>]が TOEIC® L&R テスト 450 点、TOEFL ITP® テスト 450 点以上であること。 (2)以下、どちらかの条件を満たしていること。 2-1) 講座開始以降に実施される TOEFL ITP® テスト(学内での団体受験)※ ¹ 、または、TOEFL iBT® テスト(学外での受験)を受験していること。 2-2) 講座に 8 割以上出席したことが確認できること
・IELTS テスト対策講座	講座に 8 割以上出席したことが確認できること。

※L&R は LISTENING AND READING の短縮形です。

※TOEIC® および TOEFL® は Educationl Testing Service(ETS)の登録商標です。

(2)2017 年度執行総額・補助件数

【図表 11-4 研究科・課程別補助件数】

研究科	大学院進学予定者 (学部学生)	修士・前期課程・ 専門職学位課程	後期課程	計
法学	0	2	0	2
経済学	0	0	0	0
経営学	0	0	0	0
社会学	0	2	0	2
文学	0	0	0	0
理工学	2	12	0	14
国際関係	0	0	0	0
政策科学	0	0	0	0
応用人間科学	0	0	0	0
言語教育情報	0	0	0	0
テクノロジー・マネジメント	0	2	0	2
公務	0	0	0	0
スポーツ健康科学	0	0	0	0
映像	0	0	0	0
情報理工学	1	6	0	7
生命科学	0	7	0	7
先端総合学術	0	0	0	0
薬学	0	0	0	0
法科大学院	0	0	0	0
経営管理研究科	0	1	0	1
教職大学院	0	0	0	0
合計	3	32	0	35

【図表 11-5 講座別補助件数・執行金額】

講座	補助件数	補助金額(円)
IELTS テスト対策講座	2	40,000
TOEFL®テスト対策講座	2	40,000
TOEIC®L&R テスト対策講座	31	620,000
合計	35	700,000

英語論文投稿支援制度

本制度は、本学大学院生の英語論文による研究成果の国際的な発信を促進することを目的に、英文ジャーナル(論文誌)・国際会議等へ投稿を行う際に必要となる校正費や投稿費を補助する制度です。

(1) 補助額の上限および補助の回数

補助の回数は、年度 1 回。同一論文・同一申請者に限り、校正費と投稿費の併給を認め、最大 8 万円を助成します。

【図表 11-6 補助の上限】

種類	補助額の上限
英語論文校正費	30,000 円
英語論文投稿費	50,000 円

【図表 11-7 申請件数】

研究科	修士・前期課程	博士・後期課程	計
法学	0	0	0
経済学	0	2	2
経営学	0	0	0
社会学	0	1	1
文学	0	0	0
理工学	7	3	10
国際関係	0	0	0
政策科学	1	5	6
応用人間科学	0	0	0
言語教育情報	0	0	0
テクノロジー・マネジメント	0	3	3
公務	0	0	0
スポーツ健康科学	0	2	2
映像	0	0	0
情報理工学	4	0	4
生命科学	7	5	12
先端総合学術	0	0	0
薬学	0	1	1
合計	19	22	41

講座	補助件数	補助金額(円)
英語論文校正費	28	680,436
英語論文投稿費	13	520,010
合計	41	1,200,446

12. ティーチング・アシスタント(TA)制度

概要

ティーチング・アシスタント（以下、TA）制度とは、大学が大学院生を TA として採用し、授業において教育補助を行う制度です。これにより、本学の教育の質を高めることができるのみならず、TA となった大学院生にとっても、自身の教育力・指導力・コミュニケーション力などを高める有効な機会となるものであり、研究者・大学教員等の進路に限らず、広く社会人としての飛躍を志向するにあたり意義深い経験となるものです。

TA 従事者数

【図表 12-1 2017 年度 TA 従事者数】

研究科	修士・博士前期	博士後期	合計
法学	9	2	11
経済学	22	4	26
経営学	25	6	31
社会学	32	12	44
文学	82	39	121
理工学	432	19	451
国際関係	11	8	19
政策科学	20	7	27
応用人間科学	3	–	3
言語教育情報	23	–	23
テクノロジー・マネジメント	5	2	7
スポーツ健康科学	16	9	25
映像	6	–	6
情報理工学	222	7	229
生命科学	216	9	225
先端総合学術	–	25	25
薬学	–	5	5
経営管理	2	–	2
教職	1	–	1
合計	1127	154	1281

TA 研修制度

TA業務に必要な情報の説明やTA業務を考えるワークショップなどを実施しています。2017年度は、以下のガイダンスや研修を実施しました。

【図表 12-2 2017 年度実施 TA 研修会および参加者数】

ガイダンス・研修	内容	実施日	参加者数	
			修士・博士前期	博士後期
TA ガイダンス	新入生全員へ向けて TA 制度の趣旨ややりがい、TA の具体的な業務、TA ガイドラインについての説明。	<朱雀> 2017 年 4 月 1 日(土) <BKC> 2017 年 4 月 3 日(月)	–	–

		<OIC> 2017年4月3日(月) <衣笠> 2017年4月4日(火)		
TA manaba+R・ IC カードリーダー研修	本学の授業支援ツールである IC カードリーダーおよび manaba+R の操作方法を学ぶ。 各ツールの操作を行いながら、 機能概要や利用方法などを実 践的に学び、TA として担当する 授業の効果的な運営がサポート できることを目指す。	前期 <衣笠> 2017年4月13日(木) 2017年4月18日(火) <BKC> 2017年4月14日(金) 2017年4月19日(水) <OIC> 2017年4月14日(金) 2017年4月19日(水)	128	10
		後期 <衣笠> 2017年10月4日(水) <OIC> 2017年10月5日(木) <BKC> 2017年10月6日(金)	119	10
		※各キャンパス同日2回ずつ (昼休み・5限)開催		
TA ハラスメント 防止研修	ハラスメントの基礎的な知識か ら、それを防止するための方策 を学ぶ。	<衣笠> 2017年5月9日(火) <BKC> 2017年5月10日(水) <OIC> 2017年5月11日(木)	37	1
TA スキルアップ研修	TA 経験を振り返り、TA をする上 で困ったことや悩み、その解決 方法などを共有し、実例に応じ た対処方法を学ぶ。 グループワークやディスカッショ ンを行うことで、より具体的な解 決策を見出せるようにするととも に、TA 間のネットワークを形成 する。	前期 <衣笠> 2017年6月6日(火) <OIC> 2017年6月12日(月) <BKC> 2017年6月16日(金)	34	2
		後期 <衣笠> 2017年10月19日(木) <OIC> 2017年10月23日(月) <BKC> 2017年11月17日(金)	26	5

13. キャリアパス支援スタッフ(CPS)

2013 年度より、大学院キャリアパス支援プログラムのセミナーが、今後さらに充実した対応ができるよう、主に講座の企画・運営に協力する大学院生を組織するため「大学院キャリアパス支援スタッフ（以下「CPS」という）制度」を創設しました。

概要

(1) 活動目的

- 大学院キャリアパス推進室が開催する各種セミナー等の企画に参画することで、CPS 自身の企画力の向上を図るとともに、企画の質の向上に寄与する。
- 各種セミナー等の参加者が円滑にコミュニケーションを図れるよう支援を行い、参加者同士の交流の手助けを行うとともに、CPS 自身も参加者との交流を図ることで、学年、研究科を超えたネットワークを構築する。
- CPS の活動を通じて、前に踏み出す力（主体性、実行力）、考え方（課題発見力、計画力、創造力）、チームワーク力（発信力、傾聴力、柔軟力）を養う。

(2) 活動内容

- 大学院キャリアパス推進室が開催する各種セミナーの企画・募集・準備・運営に関する業務
- 大学院キャリアパス推進室が協力する大学院進学説明会や学部進路ガイダンスなどの準備・運営に関する業務

CPS 登録者数

【図表 13-1 2017 年度 CPS 登録者数】

研究科	修士・前期課程	一貫制・後期課程	計
法学	0	0	0
経済学	0	0	0
経営学	2	0	2
社会学	1	0	1
文学	3	0	3
理工学	1	0	1
国際関係	2	0	2
政策科学	0	1	1
応用人間科学	6	—	6
言語教育情報	6	—	6
テクノロジー・マネジメント	1	0	1
公務	2	0	2
スポーツ健康科学	0	0	0
映像	1	—	1
情報理工学	0	0	0
生命科学	0	0	0
先端総合学術	0	2	2
薬学	0	0	0
法務	0	0	0
経営管理	1	—	1
教職研究科	0	0	0
合計	26	3	29

2017年度活動実績

【図表 13-2 2017年度活動内容および参加者数】

開催月	セミナー名等	活動内容	人数
5月	CPS面接		16
6月	ガイダンス	年間活動の確認・新メンバー顔合わせ	16
	国際的研究活動促進研究費成果報告会	企画運営補助	1
7月	インタビュー	入試WEBサイト掲載用インタビュー対応	2
8月	インタビュー	入試WEBサイト掲載用インタビュー対応	3
9月	各種企画立案	M1企画検討会	11
	研究倫理共通セミナー	ファシリテーター	1
10月	卓越大学院シンポジウムイベント	受付・誘導業務	1
	研究倫理共通セミナー	ファシリテーター	1
11月	M1セミナー	企画・運営	15
	研究倫理共通セミナー	ファシリテーター	7
12月	リサーチプロポーザルコンテスト表彰式	企画運営補助	4
2月	各種企画立案	M0セミナー企画検討会	9

14. リサーチアシスタント(RA)

本大学または他大学の大学院博士課程後期課程の正規課程に在学する者（前期課程と後期課程の区分を設けない博士課程の正規課程の3回生以上に在学する者を含む。）で、本学の各研究機構において研究プロジェクト、共同研究、受託研究等に従事する者に対して支援する制度です。

【図表 14-1 2017 年度リサーチアシスタント雇用状況】

研究科	日本人	留学生	総計
スポーツ健康科学	5	0	5
経営学	1	0	1
情報理工学	4	2	6
生命科学	3	0	3
文学	3	1	4
薬学	1	0	1
理工学	4	3	7
合計	21	6	27

15. 立命館大学若手研究者学術・キャリア情報検索システム(Ri-SEARCH)

制度の概要

(1) システム運用の目的

本システムは、博士課程後期課程の大学院生を主とした若手研究者が自身の研究活動や研究業績等をWEB上で登録し、当該情報をインターネット上で効果的に公開するものとして、次の3点をその目的に掲げ、2011年4月より運用しています。

- ① 博士課程大学院学生個人のキャリアパス形成の推進に資する
- ② 通常得られにくい大学院生の研究等の情報について一般公開する
- ③ 大学として大学院生支援のための政策立案の基礎となるデータ収集を進める

(2) 基本設計

◆概要

本システムは、利用対象となる博士課程後期（一貫制博士）課程在籍中の正規生が、自身の研究業績や希望するキャリアについて登録するサイトと、登録のうえ、公開設定された情報をインターネットユーザーが閲覧できるサイトの2点により成り立っています。

研究者情報の登録サイト:<https://ri-search-web.ritsumei.ac.jp>

研究者情報の閲覧サイト:<http://ri-search.ritsumei.ac.jp>

◆利用権限

博士課程後期（一貫制博士）課程在籍中の正規生

博士課程後期（一貫制博士）課程修了・満期退学後5年以内の者のうち希望者

◆機能の特徴

情報を蓄積し、公開する以外に次の機能を有しています。

- ・ 英語による課程に在学する留学生の利用促進および海外からの一般アクセスへの対応を考慮し、大学院生入力項目・一般公開項目共に、日英両言語併記
- ・ 学内奨学金申請のための書類を自動作成する機能を付加
- ・ 各研究科および大学院キャリアパス推進室で把握しておくべきデータ（例えば、年度別の論文数、奨学金受給実績、志望進路など）については、集計ソフトに対応する形式のファイルにエクスポートできる機能を付加

16. 大学院キャリアパス推進室の情報発信

大学院キャリアパス推進室ホームページ

ホームページ（日・英）では、以下の推進室事業に関する情報を発信しています。

<コンテンツ>

- ① 推進室について
- ② 大学院キャリアパス支援プログラム
- ③ 奨学金・研究助成
- ④ さらなる学び
- ⑤ 後期課程学生の研究紹介（Ri-SEARCH）
- ⑥ 理工系対象プログラム
- ⑦ 進路・就職

【図表 16-1 大学院キャリアパス推進室 HP】

The screenshot shows the homepage of the Graduate School Career Path Promotion Office. At the top, there is a banner for the "SUPPORT PROGRAM". Below it, a large image shows a lecture hall with many students. On the right side, there is a sidebar with the title "SUPPORT PROGRAM" and a brief description of the office's mission. The main content area has several tabs at the bottom: "推進室について", "大学院キャリアパス支援プログラム", "奨学金・研究助成", "さらなる学び", "後期課程学生の研究紹介（Ri-SEARCH）", "理工系対象プログラム", and "進路・就職". On the left, there is a "NEWS" section with several items, and on the right, there is a "講演プログラム一覧" (List of Lecture Programs) section with details for events like "2014年度 学振特別研究員申請セミナー (BKC)" and "2014年度 学術的文章作成スキル・指導力養成セミナー (フレキシビリティ)".

(英語)http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/eng/

17. 調査活動

2017年度大学院キャリアパス形成支援のためのアンケート調査

【図表 17-1】

調査方法	スマートアンケート(WEB)
調査対象	全大学院生
調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ・在学院生の実態や分析状況を大学院生にフィードバックする (大学院キャリアパス推進室 HP 公開) ・2018年度第4期キャリアパス形成支援制度構築の基礎データとして活用する
調査実施期間	2017年10月15日(火)～2017年11月17日(金)12:00
回答数(回答率)	343人(8.8%)
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生の研究活動の実態について ・各種制度の認知度・満足度・改善点について ・大学院修了後の進路に関する意識調査 ・大学院生が求める支援、要望等について

アンケート結果の概要

(1) 大学院生の研究活動の実態について

大学院生にとって日頃の研究活動の成果を発揮し、学内外にわたる研究者ネットワークを作るために重要な機会になるのが、専門家が多く集まる学会・シンポジウムへの参加と自身の研究の発表です。そこで、2017年度の調査では過去1年間における学会参加・発表の経験回数を調査しました。

当然のことながら、研究期間がまだ浅い修士課程の大学院生の方が研究学会・シンポジウム等での発表機会は総じて少ないのですが、理工系の大学院生は、修士課程の大学院生でも1回以上発表を経験している方が多く、学部生時代からの研究が積み重なっているように思われます。一方で、文系は修士課程での学会発表やジャーナルへの投稿も少なく、発表できるレベルまで研究が進んでないことに加え、発表の場を知らない大学院生も多く存在しており、研究指導に留まらず発表機会の提供も行う必要があると思われます。

また、日本人学生と留学生においては実績に特徴的な差が現われています。言語の壁があるので当然ではありますが、日本人学生は日本語の発表が多く、留学生は英語の発表が多い状況です。裏を返せば、日本人学生にとっては海外発表、英語論文というのは課題であり、グローバルな研究力養成(海外発表の実績をあげる)ためには語学に対する取り組みが必要かもしれません。一方、留学生は日本語での発表が難しいため、国内で行われる英語発表で実績を積んでいる傾向が伺えます。ただし、日本国内での英語発表の場は限られてくるため、指導教員や研究科から国内で英語発表ができる機会について情報提供を強化していく必要があると考えています。

(2) 各種制度の認知度・満足度・改善点について

現在、立命館大学大学院では、修士課程の大学院生向けの奨学金制度が8種類、後期課程の大学院

生向けに 11 種類の奨学金制度を運営しています。これらの各種制度がどの程度の大学院生に認識され、活用されているか、調査しました。

成績優秀者、研究奨励奨学金、学会発表補助金のように「所定の条件を満たせば大学院生だれでも申請できる奨学金」は、認知度が高まっており、大学院生に浸透してきていると思われます。一方で、改善要望の多くは、制度や申請書類の分かりやすさ・添付資料の削減・手続きの簡素化など運営面について寄せられる意見が多く、2018 年度以降に改善できる制度から改めていきたいと考えています。

また、キャリアパス形成支援プログラムにも通じる共通課題になりますが、奨学金制度 1 つ 1 つの認知度は高まっていますが、継続的な利用を促す仕組みや研究目的・成長目的に応じて、どのような奨学金を活用できるのかなど制度全体を関連付けるよう情報の発信方法に工夫していく必要があります。

(3) キャリアパス形成支援プログラムについて

キャリアパス形成支援プログラムの認知度は、文系研究科と理系研究科で差がみられました。開催場所が衣笠キャンパスや大阪いばらきキャンパスを中心であることや、実施内容も文系研究科がメインとなっていることが多いのも影響の一因と思われます。

また、プログラムに参加しない理由の回答が、「時間が合わない」という理由と同率で「興味のあるセミナーがない」という意見が寄せられています。大学院生は、それぞれの研究テーマによって興味・関心が異なるため、全員が一律で満足するプログラムを提供することは難しいです。ただ、研究倫理・語学・キャリア関連など共通のニーズが一定見込まれるものを中心に、柔軟にプログラムラインナップを変更しつつ、大学院生ニーズに応えられる体制が求められています。

(4) 博士課程後期課程への進学について

博士課程後期課程の進学については、「進学しない」との回答が最も多いですが、文系においては、「予定している」と「検討している」の回答が日本人学生の 3 割強、留学生にいたっては 5 割程度おり、これらの層にどういった魅力がアピールできるかは今後の課題です。

(5) 修了後の進路について

修了後の進路については、前期課程文系では民間企業社員（事務・総合職）、理系前期課程では民間企業社員（開発・技術・エンジニア）、後期課程では文系、理系ともに教育研究機関研究者（大学、研究所等）との回答が最も多いですが、後期課程文系において民間企業を志望するなど、多様な進路希望があることが確認できました。

=参考資料=

【図表 0-1 アンケート回答件数】

研究科名	前期 修士	後期	一貫制	専門職	博士	総計	在籍 者数	回答率
法学研究科	2	3	—	—	—	5	44	11.4%
経済学研究科	11	2	—	—	—	13	118	11.0%
経営学研究科	10	2	—	—	—	12	89	13.5%
社会学研究科	8	6	—	—	—	14	141	9.9%
文学研究科	23	29	—	—	—	52	303	17.2%
理工学研究科	57	7	—	—	—	64	1027	6.2%
国際関係研究科	14	9	—	—	—	23	156	14.7%
政策科学研究科	5	5	—	—	—	10	115	8.7%
応用人間科学研究科	1		—	—	—	1	127	0.8%
言語教育情報研究科	22		—	—	—	22	129	17.1%
テクノロジー・マネジメント研究科	10	5	—	—	—	15	121	12.4%
公務研究科	4		—	—	—	4	45	8.9%
スポーツ健康科学研究科	8	11	—	—	—	19	92	20.7%
映像研究科	1		—	—	—	1	12	8.3%
情報理工学研究科	29	4	—	—	—	33	373	8.8%
生命科学研究科	31	4	—	—	—	35	411	8.5%
先端総合学術研究科	—	—	11	—	—	11	152	7.2%
薬学研究科	—	—	—	—	3	3	14	21.4%
法務研究科	—	—	—	—	—	—	207	0.0%
教職研究科	—	—	—	2	—	2	34	5.9%
経営管理研究科	—	—	—	4	—	4	174	2.3%
総計	230	87	11	6	3	343	3884	8.8%

分析結果

※アンケート結果の表の見方

【課程】

先端総合学術研究科は1～2回生は博士課程前期課程に、3回生以上は博士課程後期課程に含める。

法務研究科と経営管理研究科は前期課程に含める。

博士課程前期課程は博士前期または前期、博士課程後期課程は博士後期または後期と表記する。

【分野】

理系は情報理工学研究科、生命科学研究科、理工学研究科、薬学研究科で構成され、それ以外の研究科は文系に含める。

PART 1. 大学院生の研究活動の実態について ※平均値が1.0を超える項目のみ反転文字で表記

【図表1-1】過去1年間の研究業績について（文系）

文系	日本人学生		留学生		全体	
大学院生の研究実績（平均値）	博士前期	博士後期	前期課程	後期課程	博士前期	博士後期
(J)/学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読なし）	0.20	0.59	0.00	0.13	0.14	0.51
(J)/学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読あり）	0.05	0.87	0.00	0.82	0.04	0.86
(J)/国内学会・シンポジウム等における発表（口頭発表）	0.84	1.98	0.20	1.08	0.66	1.80
(J)/国内学会・シンポジウム等における発表（ポスター発表）	0.65	0.98	0.00	0.63	0.45	0.92
国際会議における発表（ポスター発表、口頭発表）	0.52	1.65	0.33	2.00	0.45	1.73
(E)/学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読なし）	0.00	0.04	0.00	1.20	0.00	0.35
(E)/学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読あり）	0.29	0.47	0.27	1.00	0.28	0.61
(E)/国内学会・シンポジウム等における発表（口頭発表）	0.00	0.04	0.33	0.71	0.16	0.19
(E)/国内学会・シンポジウム等における発表（ポスター発表）	0.00	0.04	0.20	0.71	0.10	0.19
学術雑誌等又は商業誌における解説、総説	0.00	0.39	0.00	0.27	0.00	0.36
受賞歴	0.22	0.22	0.23	0.75	0.23	0.35

【図表1-2】過去1年間の研究業績について（理工系）

理工系	日本人学生		留学生		全体	
大学院生の研究実績（平均値）	博士前期	博士後期	前期課程	後期課程	博士前期	博士後期
(J)/学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読なし）	0.33	0.13	0.00	0.50	0.30	0.25
(J)/学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読あり）	0.22	0.00	0.00	0.50	0.20	0.17
(J)/国内学会・シンポジウム等における発表（口頭発表）	1.18	2.08	0.40	0.40	1.13	1.59
(J)/国内学会・シンポジウム等における発表（ポスター発表）	1.38	1.27	0.00	0.25	1.30	1.00
国際会議における発表（ポスター発表、口頭発表）	1.01	1.09	0.71	2.80	0.99	1.63
(E)/学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読なし）	0.12	0.29	0.20	0.50	0.13	0.36
(E)/学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読あり）	0.50	0.91	0.75	2.33	0.52	1.21
(E)/国内学会・シンポジウム等における発表（口頭発表）	0.17	0.22	0.00	1.67	0.16	0.58
(E)/国内学会・シンポジウム等における発表（ポスター発表）	0.19	0.33	0.20	1.00	0.19	0.50
学術雑誌等又は商業誌における解説、総説	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.18
受賞歴	0.38	0.73	0.20	0.40	0.37	0.63

【図表1-3】研究会や勉強会への参加状況

Q2. 現在、定期的（2ヶ月に1回程度）に開催される研究会や勉強会に参加していますか。

	前期文系	後期文系	前期理系	後期理系	総計	割合
参加している	35	49	13	5	102	32%
過去、参加したことがある	21	20	29	1	71	22%
参加したことがない	53	10	71	12	146	46%
総計	109	79	113	18	319	

【図表 1 - 4】複数の研究科(他大学含む)の大学院生による自主的な研究会活動への参加状況

Q3. 在学中、複数の研究科(他大学含む)の大学院生による自主的な研究会活動に参加したことがありますか。						
	前期文系	後期文系	前期理系	後期理系	総計	割合
参加したことがある	28	45	12	6	91	27.3%
参加したことがない	91	37	102	12	242	72.7%
総計	119	82	114	18	333	

【図表 1 - 5】学会への参加状況について

Q4. 在学中、日本国内で開催された学会に参加したことがありますか。						
	前期文系	後期文系	前期理系	後期理系	総計	割合
1回参加した	37	8	32	3	80	24.0%
2回参加した	9	9	21		39	11.7%
3回以上参加している	28	57	49	14	148	44.3%
参加したことがない	46	7	13	1	67	20.1%
総計	120	81	115	18	334	

Q5. 在学中、海外で開催された国際学会やシンポジウム等に参加したことがありますか。						
	前期文系	後期文系	前期理系	後期理系	総計	割合
1回参加した	8	16	35	3	62	18.8%
2回参加した	1	9	9	1	20	6.1%
3回以上参加している	2	19	2	7	30	9.1%
参加したことがない	107	36	68	7	218	
総計	118	80	114	18	330	

【図表 1 - 6】海外の大学・研究機関における研究活動への参加状況

Q6. 在学中に、海外の大学・研究機関等において、連続して何日間の研究活動を行ったことがありますか。						
	前期文系	後期文系	前期理系	後期理系	総計	割合
1~7日間	7	11	9	2	29	8.7%
8~14日間	3	1	1		5	1.5%
15~29日間		10	7	1	18	5.4%
30日以上	2	13	13	3	31	9.3%
未経験	107	47	84	12	250	75.1%
総計	119	82	114	18	333	

Q7. 研究活動のために渡航したエリアを教えてください。(複数選択可能)

	前期文系	後期文系	前期理系	後期理系	総計	割合
アジア	9	19	14	5	47	45.2%
ヨーロッパ	3	18	9	3	33	31.7%
北米	4	6	5	1	16	15.4%
中南米	0	0	0	0	0	0.0%
アフリカ	0	1	0	0	1	1.0%
オセアニア	2	1	4	0	7	6.7%
総計	18	45	32	9	104	

【海外の研究機関での研究活動を行ったことがない理由について】

- ・全課程に共通して、「行く機会・留学先のツテがない」というのが一番の理由です。
- ・英語力不足や研究途中のため、渡航する自信がないというコメントも多く寄せました。
- ・留学先の情報提供と、そのチャンスを手にするだけの力を養うことが求められています。

【図表1-7】日本国内における本学以外の大学・研究機関等における研究活動の参加状況

Q9. 在学中に、国内の本学以外の大学・研究機関等において、連続して何日間の研究活動を行ったことがありますか。						
	前期文系	後期文系	前期理系	後期理系	総計	割合
1~2日間	10	16	12	3	41	12.4%
3~5日間	5	6	9	2	22	6.6%
6~7日間	2	2	3	1	8	2.4%
8~10日間	1	1	1	0	3	0.9%
11日以上	5	3	7	2	17	5.1%
未経験	95	53	82	10	240	72.5%
総計	118	81	114	18	331	

Q10. 単年度に通算して、国内の本学以外の大学・研究機関等において、何日間の研究活動を行ったことがありますか。

	前期文系	後期文系	前期理系	後期理系	総計	割合
1~2日間	11	10	6	2	29	8.7%
3~5日間	4	6	11		21	6.3%
6~7日間	5	6	3	1	15	4.5%
8~10日間	1	3	2		6	1.8%
11日以上	5	9	11	5	30	9.0%
未経験	94	47	81	10	232	69.7%
総計	120	81	114	18	333	

【図表1-8】大学院生の長期間にわたる無給のインターンシップ活動への参加状況について

Q11. 在学中に、企業等における無給のインターンシップ活動を継続して何日間行ったことがありますか						
	前期文系	後期文系	前期理系	後期理系	総計	割合
1~5日間	23	3	32	1	59	17.7%
6~10日間	4	1	9		14	4.2%
11~15日間	2	1	9	2	14	4.2%
16日以上	4	3	11	1	19	5.7%
未経験	86	74	54	14	228	68.3%
総計	119	82	115	18	334	

【図表1-8】大学院生の英語力向上に向けた取り組み状況について

Q12. 在学中、立命館言語習得センター(CLA)が実施する以下の講座を受講したことがありますか。						
	前期文系	後期文系	前期理系	後期理系	総計	割合
TOEFLテスト対策	3	4	6	0	13	3.8%
TOEICL&Rテスト対策	6	4	27	2	39	11.4%
IELTSテスト対策	2	2	0	0	4	1.2%
総計	11	10	33	2	56	16.3%

【図表1-9】大学院に進学してからの成長実感について

本設問は複数回答可としたため、本設問に回答者数(a)に対して、成長を実感したスキル項目(b)を選択した割合 (b/a) を計算し、日本人学生・留学生、前期課程・後期課程に分けて示した表が以下である。

Q13. 大学院に進学して、以前と比べて成長したと感じる部分を教えてください。(複数回答可)								
文系	日本人学生				留学生			
スキル項目(b)	博士前期	選択率	博士後期	選択率	博士前期	選択率	博士後期	選択率
リサーチスキル	45	65.2%	48	84.2%	41	73.2%	14	53.8%
研究マネジメント力	37	53.6%	40	70.2%	37	66.1%	18	69.2%
研究キャリアへの理解	23	33.3%	28	49.1%	18	32.1%	6	23.1%
研究への意欲向上	30	43.5%	39	68.4%	32	57.1%	9	34.6%
コミュニケーション能力	26	37.7%	25	43.9%	40	71.4%	15	57.7%
ネットワーク構築力・チームワーク	15	21.7%	17	29.8%	22	39.3%	9	34.6%
外国文献の読解力	20	29.0%	32	56.1%	32	57.1%	13	50.0%
英語による論文執筆・発表力	10	14.5%	22	38.6%	13	23.2%	6	23.1%
プレゼン能力	24	34.8%	26	45.6%	25	44.6%	9	34.6%
研究者ネットワーク	29	42.0%	39	68.4%	19	33.9%	16	61.5%
学外ネットワーク	8	11.6%	21	36.8%	8	14.3%	5	19.2%
特になし	4	5.8%	2	3.5%	0	0.0%	2	7.7%
回答者数(a)	69	100.0%	57	100.0%	56	100.0%	26	100.0%

※選択率=(b)/(a) 回答者数(a)のうち、各スキル項目(b)を成長したと選択した割合

Q13. 大学院に進学して、以前と比べて成長したと感じる部分を教えてください。(複数回答可)								
理系	日本人学生				留学生			
スキル項目(b)	博士前期	選択率	博士前期	選択率	博士前期	選択率	博士前期	選択率
リサーチスキル	77	72.0%	8	61.5%	7	70.0%	3	60.0%
研究マネジメント力	64	59.8%	7	53.8%	8	80.0%	4	80.0%
研究キャリアへの理解	35	32.7%	4	30.8%	3	30.0%	2	40.0%
研究への意欲向上	55	51.4%	6	46.2%	5	50.0%	3	60.0%
コミュニケーション能力	62	57.9%	4	30.8%	6	60.0%	3	60.0%
ネットワーク構築力・チームワーク力	26	24.3%	4	30.8%	2	20.0%	1	20.0%
外国文献の読解力	34	31.8%	8	61.5%	4	40.0%	3	60.0%
英語による論文執筆能力・発表能力	31	29.0%	7	53.8%	5	50.0%	4	80.0%
プレゼン能力	68	63.6%	5	38.5%	5	50.0%	4	80.0%
研究者ネットワーク	19	17.8%	4	30.8%	2	20.0%	2	40.0%
学外ネットワーク	21	19.6%	6	46.2%	2	20.0%	2	40.0%
特になし	2	1.9%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
回答者数(a)	107	100.0%	13	100.0%	10	100.0%	5	100.0%

※選択率=(b)/(a) 回答者数(a)のうち、各スキル項目(b)を成長したと選択した割合

PART2 各種奨学金、助成制度の認知度・満足度・改善点について

(1) 各種奨学金・助成制度に対する利用状況について

【図表2-1】各種奨学金・助成制度に対する認知度・利用状況

【前期課程対象】※認知率=認知層/各行の回答総数 利用率=(利用した+申請したが不採用)/ 認知層

Q14. 大学院での学修・研究を支援するための次の各助成制度を知っていますか。該当するものを選択してください。								
制度名	課程	認知層				非認知層	認知率	利用率
		利用した	申請したが不採用	知っているが未利用	知っているが資格無			
2年次対象成績優秀者奨学金	文系	42	6	32	26	18	85.5%	45.3%
	理系	43	16	32	17	8	93.1%	54.6%
	全体	85	22	64	43	26	89.2%	50.0%
学生学会補助金	文系	28	1	47	17	29	76.2%	31.2%
	理系	68	0	32	1	15	87.1%	67.3%
	全体	96	1	79	18	44	81.5%	50.0%
研究実践活動補助金(国内/国外)	文系	12	0	52	17	41	66.4%	14.8%
	理系	13	0	52	3	48	58.6%	19.1%
	全体	25	0	104	20	89	62.6%	16.8%
留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金	文系	6	1	43	19	50	58.0%	10.1%
	理系	11		39	10	56	51.7%	18.3%
	全体	17	1	82	29	106	54.9%	14.0%

ベーススキル向上支援補助制度	文系	4		37	13	68	44.3%	7.4%
	理系	6	1	31	4	73	36.5%	16.7%
	全体	10	1	68	17	141	40.5%	11.5%
研究会活動支援制度	文系	12		49	16	43	64.2%	15.6%
	理系	2	1	42	3	67	41.7%	6.3%
	全体	14	1	91	19	110	53.2%	12.0%

【後期課程対象】※認知率=認知層/各行の回答総数 利用率=(利用した+申請したが不採用) / 認知層

Q14. 大学院での学修・研究を支援するための次の各助成制度を知っていますか。該当するものを選択してください。

制度名	課程	認知層				非認知層	認知率	利用率
		利用した	申請したが不採用	知っているが未利用	知っているが資格無			
研究奨励奨学金	文系	47	9	12	3	6	92.2%	78.9%
	理系	10	1	3	1	2	88.2%	73.3%
	全体	57	10	15	4	8	91.5%	77.9%
学生学会補助金	文系	46	2	25	2	2	97.4%	64.0%
	理系	13	0	4	0	0	100.0%	76.5%
	全体	59	2	29	2	2	97.9%	66.3%
国内研究活動促進研究費	文系	3	0	56	8	8	89.3%	4.5%
	理系	1	0	11	3	2	88.2%	6.7%
	全体	4	0	67	11	10	89.1%	4.9%
国際的研究活動促進費	文系	27	2	34	6	10	87.3%	42.0%
	理系	5	0	6	3	3	82.4%	35.7%
	全体	32	2	40	9	13	86.5%	41.0%
インターンシップ奨学金	文系	1	0	34	6	34	54.7%	2.4%
	理系	0	0	6	4	7	58.8%	0.0%
	全体	1	0	40	10	41	55.4%	2.0%
ベーススキル向上支援補助制度	文系	7	0	30	6	33	56.6%	16.3%
	理系	1	0	6	2	8	52.9%	11.1%
	全体	8	0	36	8	41	55.9%	15.4%
留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金	文系	1	1	32	8	34	55.3%	4.8%
	理系	1	0	5	2	9	47.1%	12.5%
	全体	2	1	37	10	43	53.8%	6.0%
研究会活動	文系	26	1	27	4	18	76.3%	46.6%
	理系	2		8	4	3	82.4%	14.3%
	全体	28	1	35	8	21	77.4%	40.3%

【図表2-2】奨学金制度に関する意見・要望

Q16. 新たに実施してほしい奨学金・支援制度があれば記載をお願いします。						
	前期文系	後期文系	前期理系	後期理系	総計	割合
新奨学金制度の創設	14	16	4	3	37	64.9%
既存施策の拡充・改善	2	5	3	1	11	19.3%
学習支援	0	4	0	0	4	7.0%
学費（授業料）	2	0	1	0	3	5.3%
その他	2	0	0	0	2	3.5%
総計	20	25	8	4	57	

- 既存施策については、「分かりやすさ」「日英両表記」など情報開示における改善が多く寄せられました。
- 全体的に手続きが複雑で申請するための負担が大きいということで簡素化を求める声が多かったです。

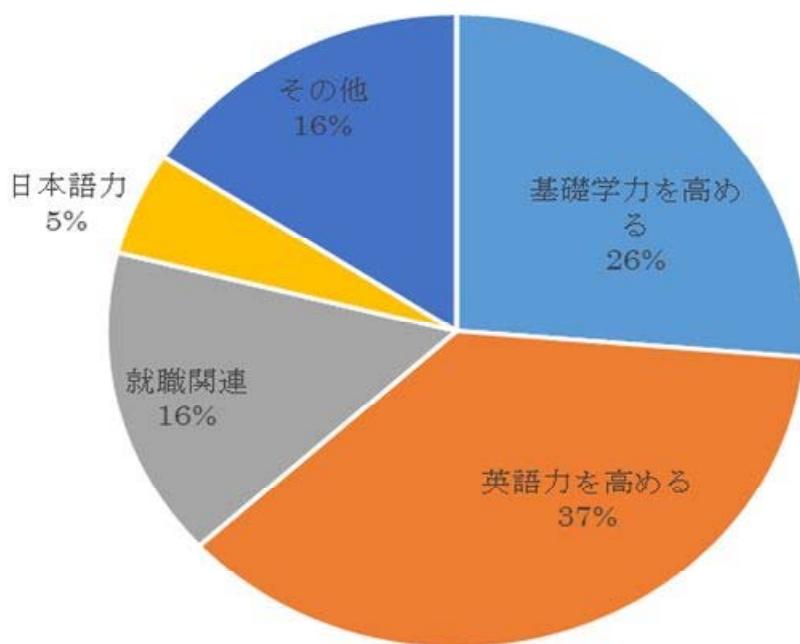
【図表2-3】大学院キャリアパス支援プログラムに関する参加状況について

Q17. 大学院キャリアパス推進室が主催する以下のセミナー・講座を知っていますか。該当するものを選択してください。							
セミナー名	課程	参加した (a)	知っている が未参加(b)	知らない	回答総数 (C)	認知度 (a+b)/(c)	参加率 (a)/(a+b)
就活スタートアップセミナー	前期文系	43	53	26	122	78.7%	44.8%
	後期文系	4	51	26	81	67.9%	7.3%
	前期理系	58	23	35	116	69.8%	71.6%
	後期理系	0	6	12	18	33.3%	0.0%
	総計	105	133	99	337	70.6%	44.1%
ポスターデザイン	前期文系	3	65	54	122	55.7%	4.4%
	後期文系	9	46	26	81	67.9%	16.4%
	前期理系	2	46	68	116	41.4%	4.2%
	後期理系	1	6	11	18	38.9%	14.3%
	総計	15	163	159	337	52.8%	8.4%
プレゼンテーションセミナー	前期文系	9	66	44	119	63.0%	12.0%
	後期文系	10	47	24	81	70.4%	17.5%
	前期理系	6	48	62	116	46.6%	11.1%
	後期理系	2	3	12	17	29.4%	40.0%
	総計	27	164	142	333	57.4%	14.1%
コミュニケーションスキルアップ	前期文系	8	63	51	122	58.2%	11.3%
	後期文系	5	46	30	81	63.0%	9.8%
	前期理系	1	47	67	115	41.7%	2.1%
	後期理系	1	4	13	18	27.8%	20.0%
	総計	15	160	161	336	52.1%	8.6%
研究とキャリアセミナー	前期文系	10	50	60	120	50.0%	16.7%
	後期文系	6	40	33	79	58.2%	13.0%

	前期理系	0	29	86	115	25.2%	0.0%
	後期理系	0	2	16	18	11.1%	0.0%
	総計	16	121	195	332	41.3%	11.7%
学術基礎英語	前期文系	10	58	54	122	55.7%	14.7%
	後期文系	11	39	31	81	61.7%	22.0%
	前期理系	4	29	81	114	28.9%	12.1%
	後期理系	0	3	15	18	16.7%	0.0%
	総計	25	129	181	335	46.0%	16.2%
研究助成金セミナー	前期文系	1	50	70	121	42.1%	2.0%
	後期文系	8	37	36	81	55.6%	17.8%
	前期理系	0	26	86	112	23.2%	0.0%
	後期理系	0	4	14	18	22.2%	0.0%
	総計	9	117	206	332	38.0%	7.1%
博士人材養成プログラム	前期文系		54	66	120	45.0%	0.0%
	後期文系	4	46	30	80	62.5%	8.0%
	前期理系	2	37	74	113	34.5%	5.1%
	後期理系	2	11	5	18	72.2%	15.4%
	総計	8	148	175	331	47.1%	5.1%
アカデミックライティング	前期文系	7	60	55	122	54.9%	10.4%
	後期文系	7	46	28	81	65.4%	13.2%
	前期理系	7	39	70	116	39.7%	15.2%
	後期理系	1	9	8	18	55.6%	10.0%
	総計	22	154	161	337	52.2%	12.5%
英語論文個別指導	前期文系	5	62	55	122	54.9%	7.5%
	後期文系	14	43	24	81	70.4%	24.6%
	前期理系	3	33	79	115	31.3%	8.3%
	後期理系	3	10	5	18	72.2%	23.1%
	総計	25	148	163	336	51.5%	14.5%
日本語学習支援	前期文系	4	60	56	120	53.3%	6.3%
	後期文系	2	38	40	80	50.0%	5.0%
	前期理系	0	28	88	116	24.1%	0.0%
	後期理系	1	5	12	18	33.3%	16.7%
	総計	7	131	196	334	41.3%	5.1%
研究倫理セミナー	前期文系	41	49	31	121	74.4%	45.6%
	後期文系	24	41	16	81	80.2%	36.9%
	前期理系	4	45	65	114	43.0%	8.2%
	後期理系	4	7	7	18	61.1%	36.4%
	総計	73	142	119	334	64.4%	34.0%
英語論文＆プレー	前期文系	2	51	68	121	43.8%	3.8%

フリーディング	後期文系	2	39	39	80	51.3%	4.9%
	前期理系	1	29	85	115	26.1%	3.3%
	後期理系	2	6	10	18	44.4%	25.0%
	総計	7	125	202	334	39.5%	5.3%
Preparing Future Faculty	前期文系	2	40	78	120	35.0%	4.8%
	後期文系	7	34	38	79	51.9%	17.1%
	前期理系	0	20	96	116	17.2%	0.0%
	後期理系	0	3	15	18	16.7%	0.0%
	総計	9	97	227	333	31.8%	8.5%

【図表2-4】大学院キャリアパス推進室で実施してほしいセミナーやプログラムについて



①基礎学力を高める

- ・PC統計（ソフト含む）
- ・ITリテラシースキル
- ・文章力の向上
- ・タイムマネジメント

②英語力を高める

- ・英語の個別指導、メール添削

③就職関連

④その他

- ・奨学金ガイダンス
- ・博士課程後期課程向けに特化した内容

【図表2-5】各種支援制度・セミナー情報を収集するための利用媒体について

Q21. 各種支援制度・セミナー情報を収集する際に利用する媒体を教えてください。(複数回答可能)

	前期文系	後期文系	前期理系	後期理系	総計	選択率
大学院キャリアパス推進室 HP	40	21	20	1	82	10.3%
CAMPUSWEB	94	32	64	9	199	24.9%
学内掲示板	40	21	15	2	78	9.8%
立命館大学のホームページ	30	19	26	9	84	10.5%
大学院キャリアパス推進室メルマガ	35	31	22	7	95	11.9%
教員からの紹介	28	15	29	7	79	9.9%
友人からの紹介	33	11	24	3	71	8.9%
先輩からの紹介	17	12	18	1	48	6.0%
キャンパス内の看板	26	19	9	2	56	7.0%
その他	1	2	5		8	1.0%
総計	344	183	232	41	800	

PART3 大学院修了後の進路に関する意識調査について

(1) 大学院修了後の進路に関する意識調査

【図表3-1】後期課程への進学に対する興味・関心

Q22. 博士課程後期課程進学に対する興味・関心

博士課程後期課程への進学	博士前期文系				博士前期理系			
	日本人学生	割合	留学生	割合	日本人学生	割合	留学生	割合
予定している	12	16.9%	10	18.9%	0	0.0%	1	14.3%
検討している	15	21.1%	17	32.1%	6	5.7%	3	42.9%
進学はしない	39	54.9%	23	43.4%	97	91.5%	3	42.9%
希望しているが断念した	5	7.0%	3	5.7%	3	2.8%	0	0.0%
合計	71		53		106		7	

【図表3-2】課程修了後に希望する進路について（複数回答可）

文系	博士前期		博士後期		全体	
	日本人学生	留学生	日本人学生	留学生	総計	割合
民間企業社員（事務・総合職）	22	29	1	3	55	18.2%
民間企業社員（開発・技術・エンジニア）	10	4	1	1	16	5.3%
民間企業社員（法律・経営・会計専門職）	7	7	0	1	15	5.0%
教育研究機関研究者（大学、研究所等）	15	14	26	13	68	22.4%
小・中・高・専門学校教員	8	4	2	1	15	5.0%
法曹（弁護士、裁判官、検察官）	0	0	0	1	1	0.3%
公務員	10	8	2	4	24	7.9%
国際機関職員	2	8	1	4	15	5.0%
非営利団体職員	4	4	2	1	11	3.6%
国内進学	11	14	2	2	29	9.6%
海外留学	5	10	5	3	23	7.6%
起業する	3	2	0	3	8	2.6%
在学時の職業を継続	5	2	1	2	10	3.3%
在学時の職業から転職	1	0	2	1	4	1.3%
その他	3	4	1	1	9	3.0%
回答者数	106	110	46	41	303	

理工系	博士前期		博士後期		全体	
	日本人学生	留学生	日本人学生	留学生	総計	割合
民間企業社員（事務・総合職）	15	1	2	0	18	10.9%
民間企業社員（開発・技術・エンジニア）	91	6	5	3	105	63.6%
民間企業社員（法律・経営・会計専門職）	0	0	0	0	0	0.0%
教育研究機関研究者（大学、研究所等）	4	4	7	4	19	11.5%
小・中・高・専門学校教員	0	0	0	0	0	0.0%
法曹（弁護士、裁判官、検察官）	0	0	0	0	0	0.0%
公務員	8	0	0	0	8	4.8%
国際機関職員	0	1	1	1	3	1.8%
非営利団体職員	0	0	0	0	0	0.0%
国内進学	3	2	0	0	5	3.0%
海外留学	1	1	0	0	2	1.2%
起業する	1	1	0	1	3	1.8%
在学時の職業を継続	0	1	0	1	2	1.2%
在学時の職業から転職	0	0	0	0	0	0.0%
その他	0	0	0	0	0	0.0%

回答者数	123	17	15	10	165	
------	-----	----	----	----	-----	--

【図表3-3】将来の進路への関心・準備状況について

Q26. 将来の進路について、とても関心がある						
	博士前期文系	博士後期文系	博士前期理系	博士後期理系	総計	割合
よくあてはまる	80	43	71	16	210	68.0%
ややあてはまる	25	11	29	2	67	21.7%
どちらともいえない	6	7	8	0	21	6.8%
あまりあてはまらない	1	0	2	0	3	1.0%
全くあてはまらない	5	1	2	0	8	2.6%
総計	117	62	112	18	309	

Q28. 希望する進路に進むために具体的な計画を準備している						
	博士前期文系	博士後期文系	博士前期理系	博士後期理系	総計	割合
よくあてはまる	33	16	32	3	84	27.5%
ややあてはまる	39	17	34	5	95	31.0%
どちらともいえない	24	13	26	5	68	22.2%
あまりあてはまらない	12	11	18	4	45	14.7%
全くあてはまらない	8	4	1	1	14	4.6%
総計	116	61	111	18	306	

Q29. 将来の進路について不安を感じている。						
	博士前期文系	博士後期文系	博士前期理系	博士後期理系	総計	割合
感じている	59	39	36	8	142	45.1%
少し感じている	27	11	38	5	81	25.7%
あまり感じていない	24	12	28	4	68	21.6%
感じていない	10	3	11		24	7.6%
総計	120	65	113	17	315	

本学の大学院各研究科をはじめとする関係各位には、平素より私ども大学院キャリアパス推進室での取り組みにご理解とご支援を賜っており、心より感謝申し上げます。2007 年度にスタートした大学院キャリアパス形成支援制度（当時は大学院博士課程後期課程キャリアパス形成支援制度）は、3 年間ごとの実施期間にそれぞれ課題を設けて進められてきたもので、現在は第 4 期（2016～2020 年度）にあたります。第 1 期、第 2 期では、支援対象が博士課程後期課程の大学院学生に限ったものでしたが、第 3 期より多くの取り組みが修士課程、博士課程前期課程にも拡張され、広く大学院学生全体のキャリアパスを支援していくものとなりました。第 4 期からは、支援制度を見直し、支援制度のさらなる充実に取り組んでおり、今後も大学院生の支援の在り方について議論を重ね、支援制度を制定、改善していきます。

今日、大学院教育におけるキャリアパス形成支援は、博士課程後期課程のみならず、修士課程、博士課程前期課程を含む大学院教育全体の課題となっています。本学で現在進められている産業界と連携融合した「卓越大学院プログラム」など、博士号取得者がより広く社会で活躍することが求められており、大学院におけるより早い段階からのキャリアパス形成への意識づけと機会の提供がますます必要となっています。もちろん、大学院の各研究科はそれぞれ独自の教学ポリシーを有しており、たとえば課程修了に際してのディプロマポリシーには、修士学位と博士学位の間に明確な違いがあります。よりきめの細かいキャリアパス支援を行っていくためには、修士課程、博士課程前期課程と後期課程で、それぞれの大学院学生にふさわしい支援の考え方や具体的な支援の方策をさらに彫琢していくことが求められましょう。その意味では、修士・博士の区別だけでなく、文系・理系にまたがって 22 研究科を数える本学の各研究科の特性を踏まえた支援の在り方についても一層の精緻化が必要でしょう。

全学一律の支援サービスの提供は、現時点での我々の到達点であり、上述のような精緻化の課題は、支援サービスを活用する大学院学生の皆さん、そして大学院学生の所属する各研究科との不断のコミュニケーション、インタラクションを通じて初めて可能なものであると考えます。私ども大学院キャリアパス推進室では、大学院生の声や研究科のニーズにたえず耳を傾けるとともに、より多くの大学院生の皆さんの参加と各研究科からのコミットメントを得る努力を続けてまいります。このアニュアルレポートをご覧のうえ、私どもの取り組みについてお気づきの点やご意見をお聞かせいただけますと幸いです。

2018 年 3 月
立命館大学 大学院キャリアパス推進室副室長
経済学部教授
宮本 十至子

資料編

Academic Writing Program Spring 2017

for Graduate Students

Academic writing requires several skills, and it is very important to be familiar with styles and the rules to follow. This course is designed to help graduate students acquire various writing styles and rules step-by-step, leading to write a high-quality thesis.

■Course Outline

1	Preparing Step	Essay and Assignment Planning
2		Paragraph Structure and Cohesion
3		Common Errors and Writing Accuracy
4		Components of a Research Paper
5		Paraphrasing, Quoting, and Referencing
6	Developing Step	The Introduction and Thesis Statement
7		The Body and Conclusions
8		Writing the Abstract
9	Finalizing Step	Revising and Final Editing

■Schedule & Place
KIC: April 15 13:00 - 19:30 RYOYUKAN 831
April 22 10:40 - 17:50 KEIGAKUKAN 222

■How to Apply
Application can be made online through the following website
by Friday, April 7

http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/eng/program/article.html?id=109

■Note

- There is no tuition fee for taking this non-credit program.
- All sessions will be taught in English.
- Japanese students are also welcome.



Office of Graduate Studies(KIC)
Tel: 075-465-8195
Fax: 075-465-8198
Email: s-igs@st.ritsumei.ac.jp

お問い合わせ先 立命館大学院キャリアパス推進室（担当：勝巒、田中伸）
TEL: 075-465-8195（表笠） Email: h-hba@st.ritsumei.ac.jp



facebook

研究とキャリア 第1回～基礎認識編～ 研究の楽しさ



所属研究科や専門分野を問わず、全ての大学院生の本分である「研究活動」。やるからには、前向きに樂しみながら納得いく成績をあげたいのです。本セミナーでは、「研究とはなにか」「研究する上で大切なこと」「研究の醍醐味」など、研究の本質に聞き、考え方を聞きます。新年度が始まって間もないこの時期にピッタリの、研究意欲がさらにも高まるセミナーです。
入学直後の新入生の皆さんにはもちろん、研究を取り組む全大学院生におすすめします！

■日時	2017年4月17日(月) 14:40～16:10
■会場	衣笠キャンパス 研究館 1階 リサーチコモンズ
■対象	本学大学院生、専門研究員、本学大学院への進学を希望する学部生
■定員	30名(先着順)
■講師	小池みき(ライター・漫画家) 2011年愛知淑徳大学文化創造学部表現文化学科卒業。卒業後、郷土史本編集、テレビ番組制作、金融会社勤務など多数の仕事を経験。2013年、企画からがけた『百合のリアル』(牧村朝子著)の刊行をきっかけに、書籍ライター・編集者としての活動を開始。2014年にエッセイマガジン『ガーデン』(同人著)が大ヒットした。2015年、『』(原作:小池みき著)を刊行。漫画家としてもデビュート。Tokyo SuperStar Awards2014で「受賞構成書籍部門」に選ばれた。2015年には「洗脳」である21世紀の脱「教育論」(堀江貴文著)、「愛の政治家を選ばない技術」(選挙リテラシー入門)(松田馨著)、編集協力に『ゲイカップルに贈る恋愛ですか?』(牧村朝子著)、『大人たちには住せておけない!政治の話』(18歳社長が斬る、政治の疑問) (椎木里佳著)など。近著書に『家族が片づけられない』(イースト・プレス)がある。他、インタビュー・対談構成、選挙メディアへのコラム寄稿も多数。文章とマンガ、両方を使って表現活動を行なっている。

■申込方法	以下 のセミナーHP にある申込フォームよりお申込みください。 http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/program/list/article.html?id=106
■申込期日	2017年4月13日(木) 17:00

■	
---	--



研究企画とマネジメントセミナー 研究会を始めよう

大学院生なら絶対に取組みたい研究会活動。仲間と一緒に研究を進めることで、一人では得られないさまざまな成果が期待できます。新年度を迎えて新たな研究会活動を始めたい方、既存の研究会でさらに研究を深めたい方、ぜひ本セミナーで研究会成功の秘訣を学び、今後の研究会活動に活かしてください！



本学の「研究会活動支援制度」は、複数の研究科に在籍する3名以上の大学院生から成る研究会の活動をサポートします。研究会で仲間と一緒に研究を深めませんか？

日時	2017年4月24日(月) 14:40～16:10
会場	衣笠キャンパス 究論館 1階 リサーチコモンズ
対象	本学大学院生・本学学部生
定員	30名(先着順)
講師	原木 万紀子(立命館大学 共通教育推進機構特別招聘准教授)
プログラム	◇前半：既存研究会によるボスター発表 ◇後半：講義・演習 研究会をデザインする「研究会とは」「研究会参加／主催のメリット」「研究会の目的と参加者のインセンティブ、分担」「新規研究会企画の立案と発想法」 実際の研究会活動支援申請書を作成してみよう—申請書の書き方 ※実際に研究会を実施した経験者からのアドバイスも受けることができます。
申込方法	以下のセミナーHPにある申込フォームよりお申込み下さい。 http://www.ritsumei.ac.jp/rutgt/g-career/program/list/article.html/?id=107 
申込期日	2017年4月20日(木) 17:00

『研究会活動支援制度について』

春季募集期間：2017年5月上旬を予定 ※詳細は4月上旬頃、下記サイトに掲載します。
 <下記サイト内において、既存研究会、新規研究会のメンバー募集の掲示板を設置予定です>
 URL: <http://www.ritsumei.ac.jp/rutgt/g-career/fellow/master/article.html/?id=5>

お問い合わせ先 立命館大学大学院キャリアパス推進室 (担当：勝屋、田中伸)
 TEL: 075-465-8195 (衣笠) Email : i-hba@st.ritsumei.ac.jp

Graduate Student
Career Path Support Center
facebook

Japanese Conversation Program Spring Semester 2017

for International Graduate Students

The purpose of this program is to improve international graduate students' Japanese speaking skills. You can learn daily Japanese conversation and basic Japanese characters!

Schedule

KIC: Every Monday and Wednesday April 24 - June 5 18:00 - 19:30

BKC: Every Tuesday and Friday April 25 - June 6
 Tuesday: 18:00 - 19:30 Friday: 16:20 - 17:50

OIC: Every Tuesday and Thursday April 27 - June 8
 Tuesday: 18:00 - 19:30 Thursday: 14:40 - 16:10

*All applicants are required to take a level-check test..
 KIC: Wednesday, April 19 18:00 @ KEIGAKUKAN 234
 BKC: Tuesday, April 18 18:00 @ AD-SEMINARIO A314
 OIC: Thursday, April 20 14:40 @ BUILDING A AS357

Place

KIC: KOSHINKAN 731 (←Different from where the level check test is held.)
 BKC: AD-SEMINARIO A314
 OIC: BUILDING A AS357

How to Apply

- Download an application form from our website: → <http://www.ritsumei.ac.jp/rutgt/g-career/eng/language/japanese.html/>
- Send the completed application form to the Office of Graduate Studies (s-igs@st.ritsumei.ac.jp) via e-mail by Monday, April 10

Note

- There is no tuition fee for taking this no-credit program.
- All lessons will be taught in Japanese.
- Prior registration is required.



Office of Graduate Studies (KIC)
 Tel: 075-465-8195
 Fax: 075-465-8198
 Email: s-igs@st.ritsumei.ac.jp



大学院留学生日本語学習支援プログラム

日本語での授業に不安はありませんか？日本語での論文執筆に不安はありませんか？授業内容の理解を始め、授業におけるディスカッションの参加、更には日本企業への就職活動において必要な日本語能力を習得をするための、留学生のための講座です。講座は主に以下の2つのプログラムで構成しています。

- ・ディスカッション等日本会話学習中の口頭表現演習
- ・ディスカッション等日本会話学習中の口頭表現演習

【対象】

立命館大学大学院正規課程に所属する留学生

【プログラム】※本プログラムは積み上げ方式のため、可能な限りすべての回への出席が必要となります！

※各回のテーマ内容の詳細はレベルチェックテストを実施した上で、最終決定をするため、現在記載の内容と異なる可能性があります。

実施回	テーマ/内容	実施回	テーマ/内容
第1回	アカデミックライティング① (表記と文体)	第7回	日本語での会話④ (グループディスカッション)
第2回	日本語での会話① (文書を理解して表現する)	第8回	アカデミックライティング④ (論文の表現)
第3回	日本語での会話② (自分の意見を表現する)	第9回	日本語での会話⑤ (就職活動における日本語)
第4回	アカデミックライティング② (文の書き換え)	第10回	アカデミックライティング⑤ (意見／説明文を書く)
第5回	日本語での会話③ (グループディスカッション)	第11回	日本語での会話⑥ (就職活動における日本語)
第6回	アカデミックライティング③ (正しい文の構造)	第12回	アカデミックライティング⑥ (事実の示し方／論文の構成)

【時間・場所】

キャンパス	日時	教室
OIC	4月27日～6月8日 ※5月4日は休み	火曜・限 木曜・限 16:20～17:50 13:00～14:30
AS357		

※4月20日(木)13:00～レベルチェックテストを行いますので、申込者は必ず参加ください。

【受講申込】

ホームページより申込フォームへ進み必要事項を入力して申し込んでください。

<http://www.ritsumei.ac.jp/rug/g-career/program/list/article.html?id=111>

【申込受付期間】

2017年4月3日(月)～4月19日(水)

◆問い合わせ先 立命館大学教務部大学院課 (担当：寺西、田中伸弥)

TEL : 075-465-8195 (表笠)

Mail : i-hba@st.ritsumei.ac.jp

【申込受付期間】

2017年3月27日(月)～4月28日(金) (*各キャンパス定員に達し次第締切り)

◆問い合わせ先 立命館大学教務部大学院課 (担当：寺西、田中伸弥)

TEL : 075-465-8195 (表笠)

Mail : i-hba@st.ritsumei.ac.jp

【申込受付期間】

2017年3月27日(月)～4月28日(金)

(*各キャンパス定員に達し次第締切り)

<http://www.ritsumei.ac.jp/rug/g-career/program/list/article.html?id=110>



【受講申込】

ホームページより申込フォームへ進み必要事項を入力して申し込んでください。

<http://www.ritsumei.ac.jp/rug/g-career/program/list/article.html?id=111>



【申込受付期間】

2017年3月27日(月)～4月28日(金)

(*各キャンパス定員に達し次第締切り)

<http://www.ritsumei.ac.jp/rug/g-career/program/list/article.html?id=110>



【受講申込】

ホームページより申込フォームへ進み必要事項を入力して申し込んでください。

<http://www.ritsumei.ac.jp/rug/g-career/program/list/article.html?id=111>



【申込受付期間】

2017年3月27日(月)～4月28日(金)

(*各キャンパス定員に達し次第締切り)

<http://www.ritsumei.ac.jp/rug/g-career/program/list/article.html?id=110>



わかる！英語の真実！

～学術基礎英語セミナー～

「もつとプレゼンテーションが上手くなりたい」「海外の学会に参加してみたい」「そもそも英語が苦手」そう感じている人は意外と多いのではないでしょうか？

このセミナーではノバインガルの講師を迎えて、皆さんのが抵抗なく英語を運用できるようになるための効果的なスキルをたくさんご紹介します！

立命館大学大学院正規課程に所属する大学院生

【プログラム】

実施回	テーマ/内容	実施回	テーマ/内容
第1回	アカデミックライティング① (表記と文体)	第7回	日本語での会話④ (グループディスカッション)
第2回	日本語での会話① (文書を理解して表現する)	第8回	アカデミックライティング④ (論文の表現)
第3回	日本語での会話② (自分の意見を表現する)	第9回	日本語での会話⑤ (就職活動における日本語)
第4回	アカデミックライティング② (文の書き換え)	第10回	アカデミックライティング⑤ (意見／説明文を書く)

【時間・場所】

キャンパス	日時	教室
衣笠	5月9日～5月30日 火曜 14:40～16:10	究論館ブレザールームA
BKC	5月12日～6月2日 金曜 18:00～19:30	アドセミナリオ A313
OIC	5月10日～5月31日 水曜 16:20～17:50	C棟 472

【受講申込】

ホームページより申込フォームへ進み必要事項を入力して申し込んでください。
<http://www.ritsumei.ac.jp/rug/g-career/program/list/article.html?id=110>



【申込受付期間】

2017年4月3日(月)～4月19日(水)

◆問い合わせ先 立命館大学教務部大学院課 (担当：寺西、田中伸弥)

TEL : 075-465-8195 (表笠)

Mail : i-hba@st.ritsumei.ac.jp

【申込受付期間】

2017年3月27日(月)～4月28日(金)

(*各キャンパス定員に達し次第締切り)

<http://www.ritsumei.ac.jp/rug/g-career/program/list/article.html?id=111>



【申込受付期間】

2017年3月27日(月)～4月28日(金)

(*各キャンパス定員に達し次第締切り)

<http://www.ritsumei.ac.jp/rug/g-career/program/list/article.html?id=110>



【申込受付期間】

2017年3月27日(月)～4月28日(金)

(*各キャンパス定員に達し次第締切り)

<http://www.ritsumei.ac.jp/rug/g-career/program/list/article.html?id=111>



【申込受付期間】

2017年3月27日(月)～4月28日(金)

(*各キャンパス定員に達し次第締切り)

<http://www.ritsumei.ac.jp/rug/g-career/program/list/article.html?id=110>



【申込受付期間】

2017年3月27日(月)～4月28日(金)

(*各キャンパス定員に達し次第締切り)

<http://www.ritsumei.ac.jp/rug/g-career/program/list/article.html?id=111>



Academic Skills Program Spring 2017

for Graduate Students

This course is designed to help graduate students acquire the fundamental academic skills needed to complete academic papers and give presentations. Writing segments will cover various checkpoints including accuracy, paraphrasing, and referencing. Presentation segments will focus primarily on delivery skills to communicate a clear message, project enthusiasm, and maintain interest. Discussion skills in dealing with Q&A sessions following presentations will also be covered.

■Course Schedule

	Session 1	Academic Writing / Presentation Skills
	Session 2	Academic Writing Common Errors and Accuracy
	Session 3	Academic Writing Paraphrasing and Referencing
	Session 4	Presentation Skills Posture, Gestures, and Eye Contact
	Session 5	Presentation Skills Voice, Tone, and Q&A

■Schedule & Place

BKC: Every Friday May 26 - June 23 16:20 - 17:50 AD-SEMINARIO A314

OIC: Every Wednesday May 24 - June 21 14:40 - 16:10 BuildingC 472

- How to Apply
Application can be made online through the following website by Friday, May 19
http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/eng/program/article.html?id=109

■Note

- There is no tuition fee for taking this non-credit program.
- All sessions will be taught in English.
- Japanese students are also welcome.
- Prior registration is required.

R RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

【問い合わせ先】
立命館大学教学部大学院課 (BKC)
大学院キャリアパス推進室 (担当: 川面・美崎)
TEL : 077-561-4941 (BKC) Mail : i-hba@st.ritsumei.ac.jp

Office of Graduate Studies(KIC)
Tel: 075-465-8195
Fax: 075-465-8198
Email: s-igs@st.ritsumei.ac.jp



Graduate Student
Career Path Support Center
[facebook](#)

僕が博士課程だから今すぐ始めよう

【講師】
宮野 公樹 準教授
(京都大学学際融合教育研究推進センター)



本学OB宮野氏のご経験に富んだキャリアパスを聞く絶好のチャンスです。大学院進学を考えている学部生も是非お越しください！

【講師略歴】

京都大学学際融合教育研究推進センター准教授。1996年立命館大学理工学部卒業後、2001年同大学博士後期課程を修了。2000年カナダMcMaster大学訪問研究員。のち立命館大学理学部研究員、九州大学応用力学研究所助手、2005年京都大学特任講師、2010年京都大学産官学連携本部特定研究员、2011年より現職。その間、総長学事補佐、文部科学省研究振興局学術調査官を兼任。博士(工学)。

メディア掲載抜粋:
●2015年 朝日新聞土曜版Beフロントライター「学問のたこつぼ化に抗して」
●2017年 WIREDオンラインビューレビュー記事
「いまのアカデミアには『常識』が足りない・京大の異分野融合請負人・宮野公樹」

5/22 (月) 16:20～17:50
BKCラルカディア3階R309

申込受付中!
どなたでも
ご参加いただけます



【日時】
【場所】

本学部生・大学院生・研究員など（分野問わず）

35名（先着順）

【主な対象】
【定員】
【申込方法】
大学院キャリアパス支援プログラムwebsiteより
お申し込みください。

5/21 (日) 17:00 締切

【申込締切】

2017年度立命館大学院キャリアパス支援プログラム
第1回博士人材リーダー養成講座

Preparing Future Faculty (2017年度大学教員準備セミナー)

大学教員を志す後期課程大学院生の皆さんにおすすめの大好評セミナー「Preparing Future Faculty」を本年度も開催します！
オンラインマンド講義や授業見学会、2日間のワークショップを通して、自分の授業を設計し、授業の土台・根幹を作ります。まだ授業を担当したことのない方はもちろん、既に非常に勤勉講師等として授業経験のある方も、多くの気付きや学びを得られるプログラムです。

昨年度の受講生より寄せられた感想

* 実践するというワークショップはよかったです。大変貴重な機会だった。
* 自分の授業継続の欠点を指摘していただけたことが良かった。

本年度はぜひあなた自身がセミナーを受講し、今後の授業や教員公募に役立ててください！

対象	大学教員を目指す博士課程後期課程大学院生、専門研究員、研究生、研修生	日程・会場	内容	申込方法	
				定員	20名（先着順）
オンラインマンド講義	5月29日(月)13:00～14:00 衣笠キャンパス アゼンションホール (その他のキャンパスでは出席できません。) 【受講期間】 6月1日(木)～6月31日(月)	5月29日(月)13:00～14:00 衣笠キャンパス 究論館 1階 ・本セミナーの概要説明 ・受講上の注意 ① 現代の高等教育改革について ② 大学におけるミクロ・マクロレベルでのFD活用 ③ 青年期の心理 ④ 授業の到達目標の教員が担当する授業を貢献します。実際の授業を通じて、オンラインマンド講義の内容に対する理解を深めます。 ① 授業の到達目標の書き方 ② 授業設計と模擬授業の実施（マイクロティーチング） ③ 成績評価手法 ④ 学生とのコミュニケーションに求められるスキル ⑤ 大学における授業方法	① オンラインマンド講義とワークショップの両方を受講してください。 ※衣笠、OICとも同じ内容です。 ※各回受講料は定期券入会料等をご持参ください。 ※衣笠、OICとも同じ内容です。	URL http://www.ritsumei.ac.jp/rutgr/g-career/program/list/article.html?nid=105	セミナーHP QRコード
ワークショップ	8月9日(水)・10日(木) 衣笠キャンパス 究論館 1階 アゼンションホール A・B・C	以下のお申込みフォームよりお申込み下さい。 http://www.ritsumei.ac.jp/rutgr/g-career/program/list/article.html?nid=112	以下のお申込みフォームよりお申込み下さい。 http://www.ritsumei.ac.jp/rutgr/g-career/program/list/article.html?nid=112	URL http://www.ritsumei.ac.jp/rutgr/g-career/program/list/article.html?nid=112	セミナーHP QRコード
受付期日	2017年5月19日(金)17:00				

大学院コミュニケーションスキルアップ講座

～他大学院生・社会人・先輩との交流の基礎知識～



大学院生は学部生と比べて、学外の方とのコミュニケーションの機会が多くなります。学会での名刺交換や学外関係者へのメール送信が増えたと感じている方もいらっしゃるでしょう。
大学院生も名刺交換やメール送信で求められる正しい振る舞いは当然身についているものと期待されます。ですが、実はこれまでこうした知識を正しく学ぶ機会はありませんでしたのでしょうか。
社会で求められるコミュニケーションスキルの基礎知識を本セミナーでしっかりと学び、自信を持つて積極的に活動の幅を広げましょう！

日時	＜衣笠＞2017年5月30日(火)16:30～18:00 ＜OIC＞2017年6月6日(火)16:20～17:50
会場	衣笠：究論館 1階 リサーザコモンズ OIC：A棟 3階 AC341
対象	本学大学院生

申込期間	＜衣笠＞2017年4月9日(日)正午(12:00)～5月26日(金)17:00 ＜OIC＞2017年4月9日(日)正午(12:00)～6月2日(金)17:00
------	--

お問い合わせ先 立命館大学大学院キャリアアバース推進室(担当：勝屋、森)
TEL：075-465-8195(表章)
Email：i-hba@ritsumei.ac.jp

facebook



Academic Writing Tutorials & Proofreading Sessions Spring 2017 for Graduate Students

The Academic Writing Tutorials provide you the opportunity to have your written work checked by an English instructor. You can sign-up for a 45-minute private (one-on-one) tutorial session in which an instructor will check your actual paper (thesis/dissertation) to find areas which need improvement. Students who are planning on submitting their thesis or any other form of academic paper but lack confidence in their English writing ability should take advantage of this opportunity!

*This program is provided by Ritsumeikan University in cooperation with SEICO Inc.

■How to apply

1. Download an application form from the website and send it to s-igs@st.ritsumei.ac.jp via email.
http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/eng/program/article.html?id=116

■Note

- The instructor will NOT instruct or give professional advice on the contents of your research.
- All sessions will be taught in English.

(Some sessions will be available in Japanese, too)
• Prior registration is required.



アカデミックポスターデザイナーセミナー 研究成果を効果的に伝えるポスター発表

本セミナーでは、学会報告のポスターーションやパネル展示などで、見る人が足を止めてじっくり読みみたくなるポスターに仕上がるため、デザインのルールやコツを基礎から学びます。あなたもすっきりと見やすく分かりやすいポスター作りを実践しませんか？



日時 <OIC> 2017年6月19日(月) 16:20～17:50
<衣笠> 2017年6月26日(月) 16:20～17:50

会場 OIC: A棟 3階 AC341
衣笠 研究館 1階 リサーチコモンズ

対象 本学大学院生、専門研究員、大学院への進学を希望する学部生

定員 各日 30名(先着順)

講師 原木 万紀子(立命館大学 共通教育推進機構特別招聘准教授)

プログラム ポスター・デザインの基本を学ぶ(講義)
1)ポスターの特性を理解する。
2)研究内容に沿ったデザイン構成
3)見やすい画面、魅せる画面のデザインポイント
4)得られた知識を実際に活用してポスターを作成することができます。
※OIC、衣笠とも同じ内容です。

事前準備

既にポスターを作成した経験のある方は、作成したポスターのデータを事前に提出ください。ポスターを作成した経験のない方は、今後作成を考えているポスターの構図などの簡単な構想案で良いので、事前にご提出下さい。
※開催前週木曜日までにメール添付にてご提出下さい。Email : l-hba@st.ritsumei.ac.jp

申込方法

以下のセミナーHPにある申込フォームよりお申込み下さい。
http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/program/list/article.html?id=108

セミナーHP QRコード



申込期日 <OIC> 2017年6月15日(木) 17:00
<衣笠> 2017年6月22日(木) 17:00

Office of Graduate Studies(KIC)
Tel: 075-465-8195
Fax: 075-465-8198
Email: s-igs@st.ritsumei.ac.jp



Graduate Student
Career Path Support Center
facebook



お問い合わせ先 立命館大学大学院キャリア・パス推進室 (担当: 藤原、田中伸)
TEL: 075-465-8195 (衣笠) Email : l-hba@st.ritsumei.ac.jp



面白法人事式 面白く働く発想方法

【講師】
氏田 雄介 氏
 (面白法入力ヤック 企画部ディレクター)
 あたりまえ
 ボエム発案者



今回の講座は、アツビ驚く企画を毎年リリースされており、またTwitter等SNSで話題沸騰中の「#あたりまえボエム」の発案者でもある、面白法人カヤックの氏田氏に“働き方”についてお話をいただきます。

【講師略歴】

1989(平成元)年、愛知県生まれ。早稲田大学文化構想学部卒業。直面で即興なぞかけを披露し、面白法人カヤックに入社。ブランナー・コピーライターとして「エゴサーチ採用などの人材採用キャンペーンから、「NARUTO-ナルト-屋などのクライアントワークまで、様々なプロジェクトの企画を手がける。

受賞歴:全日本DM大賞、Yahoo! JAPANインターネットクリエイティブアワード、コードアワードなど



2017年4月、あたりまえのことをポエム調に綴った本『あたりまえボエム 真の前で息を止めると呼吸が止まなくなってしまう』(講談社)を刊行。

【日時】**6/12(月) 16:20~17:50**
 【場所】**BKCラルカディア3階R302**

申込受付中!
 どなたでも
 ご参加いただけます



【日時】**7/3(月) 14:40~16:10**
 【場所】**衣笠キャンパス 研究論館1F リサーチコモニズ"**

※時間・場所が変更となりました

本学学部生・大学院生・研究員など (分野問わず)



【日時】**7/2(日) 17:00 締切**

動きやすさや居心地を設計する 豊かで混沌とした世界と向き合う力の目へ

【講師】
池田 光一 氏
 (株式会社 岡村製作所
 オフィス研究所 主幹研究員)



【講師】

【はたらき方研究者

理工学部 環境都市専攻の学生必見!
 はたらき方研究者が語る理想のオフィスとは!?
 快適に過ごすためのオフィス環境について、研究者の視点で語ります。
 また池田氏のご経験に富んだキャリアパスを開く絶好的のチャンスです。大学院進学を考えている学部生も是非お越しください!

【講師略歴】

東京農業大学農学部、早稲田大学大学院国際情報通信学研究科修了後、
 株式会社岡村製作所入社。

2010年 東北大学大学院工学系研究科都市建築学専攻修了、博士(工学)。

2014年 東北大学大学院医学系研究科助教(広報・アウトリーチ担当)を経て現職。

専門は場所論、グループワーク分析。
 居心地の良い環境、ドキドキするような仕事、自分らしさを發揮できる組織といった、素敵なかはたらき方を実現するための要素を探して、いろいろなところからアプローチしています。

【日時】**6/11(日) 17:00 締切**

【場所】**衣笠キャンパス 研究論館1F リサーチコモニズ"**

本学学部生・大学院生・研究員など (分野問わず)



【日時】**7/3(月) 14:40~16:10**
 【場所】**衣笠キャンパス 研究論館1F リサーチコモニズ"**

※時間・場所が変更となりました

本学学部生・大学院生・研究員など (分野問わず)



【日時】**7/2(日) 17:00 締切**

申込受付中!
 どなたでも
 ご参加いただけます



R RITSUMEIKAN
 UNIVERSITY

【問い合わせ先】
 立命館大学教学部大学院課 (BKC)
 大学院キャラリアバス推進室 (担当:川面・美崎)
 TEL: 077-561-4941 (BKC) Mail : i-hba@st.ritsumei.ac.jp



締切間近！

**【募集受付期間】
9月26日(火) - 10月23(月)17:00**

現在応募を受付けております。
大賞には図書カード3万円、優秀賞には図書カード1万円を贈呈！

みなさんの研究成果は、論文にまとめられ、社会に問題提起したり、課題の解決策として広く発信していくことでしょう。しかし、そこに至るためにには自分の研究計画をきちんとデザインする力が必要になります。「研究計画をデザインする？」「リサーチプロポーザルはいつも書いている」と思つて、大學生のみなさん、この機会にリサーチプロポーザルを書いて、他者から客観的に見てどのように評価されるのか、チャレンジしてみませんか。

Research Proposal Contest Apply period: Tue Sep. 26th~ Mon Oct. 23rd By 17:00

Present to winners...
**Grand prize:\$30,000 worth of bookstore gift cards
Excellence award:\$10,000 worth of bookstore gift cards**

Your research achievements may form part of your theses, raise questions for society, or provide solutions to problems. However, you will first need to acquire the skills to properly design a research proposal. This is a great opportunity to challenge yourself to write a research proposal and see how other people evaluate it. All interested graduate students are encouraged to enter.



● 応募方法/How to apply●

データ(にて下記アドレス)に送付下さい。

Please send the data to the following address.
d-cp@st.ritsumei.ac.jp

日本・海外でのポストドク経験を企業で活かす

2017年度立命館大学大学院キャリアパス支援プログラム
第6回博士人材リーダー養成講座

ポスドクとして2つの大学で勤務後に、アカデミックの世界ではなく、産業界への就職を選択したのはどのような理由なのか？
企業で博士が活躍するにはどのようなことが求められるのか？

あのiPS細胞研究所の山中伸弥教授と同じUniversity of California, San Franciscoにてポスドクとして勤務後にロート製薬株式会社に入社し、食品素材事業に携わる金氏に研究者として企業で働く楽しさや辛さを、リアルにお話いただきます。

後期課程在籍者はもちろん、「研究者として企業で働くことに興味関心のある前后期課程の大学院生、学部生も大歓迎です。」

【講師】

金 英一 氏
(ロート製薬株式会社 食品素材事業グループ所属)

1/16(火) 16:20～17:50
BKCラルカディア3階 R310 NEVER SAY NEVER

ロート製薬

本学部生・大学院生・研究員など（分野問わず）
35名（先着順）
大学院キャリアパス支援プログラムwebsiteよりお申し込みください。

申込受付中!!
どなたでも
ご参加いただけます

1/15(月) 17:00 締切

【講師略歴】

2005年 神戸大学 農学生物資源学科 卒業
2007年 京都大学 大学院 農学生物科学専攻 修士課程修了
2010年 京都大学 大学院 農学生物科学専攻 博士課程修了
2011年 博士（農学）取得
2011年 京都大学 大学院 農学生物研究科 博士研究员
2012年 University of California, San Francisco (UCSF) 博士研究员
2014年 ロート製薬株式会社 入社

受賞歴:2012年度本庄国際奨学財団若手研究者養成研究助成金

【問い合わせ先】
立命館大学教育学部大学院課 (BKC)
大学院キャリアパス推進室 (担当:美崎・仲西)
TEL : 077-561-4941 (BKC) Mail : i-hba@st.ritsumei.ac.jp

R RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

Deadline is approaching !



Apply period:
Tue. Sep. 26th ~ Mon. Oct. 23rd. By 17:00

Present to winners...

Grand prize: ¥30,000 worth of bookstore gift cards
Excellence award: ¥10,000 worth of bookstore gift cards

Your research achievements may form part of your theses, raise questions for society, or provide solutions to problems. However, you will first need to acquire the skills to properly design a research proposal.

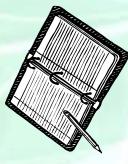
This is a great opportunity to challenge yourself to write a research proposal and see how other people evaluate it.

All interested graduate students are encouraged to enter.

- How to apply ●
- Please send the data to the following address.
d-cp@st.ritsumei.ac.jp

2017年度 研究倫理共通セミナー 申込受付中

全大学院生を全大学院生を対象に、研究倫理の基本的な内容について学び、研究倫理の基礎知識を獲得するセミナーを開催します。セミナーの主な内容は具体的な事例を用いたグループワークを実施し、研究と研究倫理の繋がり、研究倫理を学びます。在学中に1回の受講を推奨します。



◇日 時: 9月30日(土) 10:00~11:30

◇場 所: 朱雀キャンパス307教室

◇日 時: 10月21日(土) 10:00~11:30(日本語)
13:30~15:00(英語)

◇場 所: BKOCキャンパス トリシア1階 環境都市演習室1

◇日 時: 11月25日(土) 10:00~11:30

◇場 所: 衣笠キャンパス 研論館1階 リサーチコモンズ

※申込はキャラアパス推進室HPより

問合せ先:大学院課

TEL:075-465-8195

Email address:cpr-rinri@st.ritsumei.ac.jp

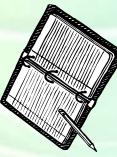


大学院留学生日本語学習支援プログラム

2017年度後期立命館大学大学院キャリアパス支援プログラム

Joint Seminar on Research Ethics AY2017

This seminar is designed for all graduate students to learn basic principles and acquire fundamental knowledge of research ethics. To be specific, the seminar teaches you how ethics apply to research activities and helps strengthen your understanding of research ethics through group work on specific cases. Each student is recommended to attend this seminar once during enrollment.



◆ Date and time:

Saturday, October 21 13:30-15:00

◆ Venue: BK C Trisia on the 1st floor Seminar room 1
for the Section of Civil Engineering Environmental
systems Engineering and Architecture Design

◆ Date and time:

Wednesday, November 29 14:40-16:20

◆ Venue : Kinugasa Campus Kyuronkan

※Please apply from the website
Inquiries about research ethics education:
Office of Graduate Studies
TEL: 075-466-8195
Email address: cp-rinri@st.ritsumei.ac.jp



【受講申込】

ホームページより申込フォームへ進み必要事項を入力して申し込んでください。

<http://www.ritsumei.ac.jp/ru/gr/g-career/program/list/article.html/?id=121>

【申込受付期間】
2017年9月26日(火)～10月18日(水)

【対象】

立命館大学大学院正規課程日本語基準コースに所属する留学生

【プログラム】※各回のテーマ/内容の詳細はレベルチェックテストを実施した上で、最終決定します。

※授業は全て日本語で実施します。

※かき氈ラムについては、以下のHPでご確認下さい。

<http://www.ritsumei.ac.jp/ru/gr/g-career/program/list/article.html/?id=121>

【時間・場所】

キャンパス	日時		教室
OIC	10月24日～ 12月14日	火曜:5限 木曜:2限	16:20～17:50 10:40～12:10
			AC342

※週2回。全15コマのプログラムです！

【受講申込】

ホームページより申込フォームへ進み必要事項を入力して申し込んでください。

<http://www.ritsumei.ac.jp/ru/gr/g-career/program/list/article.html/?id=121>

◆問い合わせ先 立命館大学教学部大学院課（担当：本田・寺西）
TEL：075-465-8195（衣笠）
Mail : i-hba@st.ritsumei.ac.jp

◆ 大学院キャリアパス
推進室 [facebook](#)

Academic Writing Program Fall 2017

for Graduate Students

Academic writing requires several skills, and it is very important to be familiar with styles and the rules to follow. This course is designed to help graduate students acquire various writing styles and rules step-by-step, leading to write a high-quality thesis.

■Course Outline

*This course consists of 9 classes.

1		2		3		4		5		6		7		8		9	
Preparing Step		Essay and Assignment Planning		Common Errors and Writing Accuracy		Components of a Research Paper		Paraphrasing, Quoting, and Referencing		The Introduction and Thesis Statement		The Body and Conclusion		Writing the Abstract		Revising and Final Editing	
KIC: Saturday, Nov 4	10:40 - 17:50	&	KOSHINKAN 725	Saturday, Nov 11	10:40 - 17:50	&	KOSHINKAN 725	BKC: Every Friday Oct 13 - Dec 15	16:20 - 17:50	FOREST HOUSE F105	OIC: Every Tuesday Oct 17 - Dec 12	13:00 - 14:30	BUILDING A AN324				

■Schedule & Place

KIC: Saturday, Nov 4 10:40 - 17:50 KOSHINKAN 725

Saturday, Nov 11 10:40 - 17:50 KOSHINKAN 725

BKC: Every Friday Oct 13 - Dec 15 16:20 - 17:50 FOREST HOUSE F105

OIC: Every Tuesday Oct 17 - Dec 12 13:00 - 14:30 BUILDING A AN324

■How to Apply

Application can be made online through the website below until Tue. Oct 10.
As for the program at KIC, application can be made until Mon. Oct 30.

http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/eng/program/article.html?id=120

■Note

- There is no tuition fee for taking this non-credit program.

Graduate Student
Career Path Support Center
facebook

Office of Graduate Studies(KIC)
Tel: 075-465-8195(衣笠)
Fax: 075-465-8198

立命館大学大学院キャリアパス推進室(担当:勝屋、森)
至徳館 2階 大学院課(衣笠)
TEL: 075-465-8195(衣笠) Email : hba@st.ritsumei.ac.jp



プレゼンをもっと魅力的に！

プレゼンテーションセミナー

研究テーマや新たなアイデア、あなたが考えたなどについて、「面白さを伝え切れていない」「もっと魅力力を伝えたい！」と感じることはありませんか？
ゼミや学会など発表の機会が多い大学院生の皆さん。積極的に取組みたい課題の1つとして“プレゼンテーション力の向上”を挙げる方が多くみられます。
研究発表の場に留まらず、日常生活の多くの場面で応用できるプレゼンテーション力を身について、あなた自身をもっと魅力的に表現してみませんか？



日時	会場	対象	定員	講師	プログラム	事前準備	申込方法
<OIC> 2017年11月14日(火) 14:40～17:50 <衣笠> 2017年11月27日(月) 14:40～17:50	OIC:A棟 2階 AC248 衣笠: 研究館 1階 パフォーミングスペース	本学大学院生、専門研究員、本学大学院への進学を希望する学部生	各日 30名(先着順)	原木 万紀子(立命館大学 共通教育推進機構特別招聘准教授)	1)プレゼンテーションは準備が8割～事前準備の重要性 2)プレゼンテーションを行う為のマインドセット～心構えの重要性 3)効率的な内容構成方法とポイント 4)魅せるためのデザイン・方法 5)聴衆を惹きつけるための態度・振る舞い	自己紹介シートの作成(ご自身の自己紹介をPPTにて作成ください)PPT1枚 メール添付にてデータでご提出ください l-hba@st.ritsumei.ac.jp ■自己紹介PPT提出期限 OIC キャンパス (11/14) 開催: 11月9日(木) 衣笠キャンパス (11/27) 開催: 11月22日(水)	http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/program/list/article.html?list_id=124
							セミナーHP QRコード

申込期間	<OIC> 2017年10月5日(木)～11月9日(木) 17:00 <衣笠> 2017年10月5日(木)～11月22日(水) 17:00
------	--



立命館大学大学院キャリアパス推進室(担当:勝屋、森)
至徳館 2階 大学院課(衣笠)
TEL: 075-465-8195(衣笠) Email : hba@st.ritsumei.ac.jp



Japanese Conversation Program

Fall Semester 2017

for International Graduate Students

The purpose of this program is to improve international graduate students' Japanese speaking skills. You can learn daily Japanese conversation and basic Japanese characters!

Schedule

KIC: Every Wednesday Nov 1 - Dec 6 16:20 - 17:50 & 18:00 - 19:30

BKC: Every Thursday Oct 26 - Dec 7 16:20 - 17:50 & 18:00 - 19:30

OIC: Every Tuesday Oct 31 - Dec 5 14:40 - 16:10 & 16:20 - 17:50

*All applicants are required to take a level-check test.

KIC: Wednesday, Oct 25 16:20 @ RYOYUKAN 831

BKC: Thursday, Oct 19 16:20 @ AD-SEMINARIO A310

OIC: Tuesday, Oct 24 14:40 @ BUILDING A AS357

Place

KIC: RYOYUKAN 831

BKC: AD-SEMINARIO A310

OIC: BUILDING A AS357

How to Apply

- Download an application form from our website: → http://www.ritsumei.ac.jp/fu_gr/g-career/eng/language/Japanese_e.html/
- Send the completed application form to the Office of Graduate Studies (s-igs@st.ritsumei.ac.jp) via e-mail by Monday, Oct 16

Note

- There is no tuition fee for taking this no-credit program.
- All lessons will be taught in Japanese.
- Prior registration is required.

Office of Graduate Studies (KIC)
Tel: 075-465-8195
Fax: 075-465-8198
Email: s-igs@st.ritsumei.ac.jp



Graduate Student
Career Path Support Center
facebook



立命館大学大学院キャリアパス推進室 (担当: 江口、勝屋、森)
TEL: 075-465-8195 (エイチ) Email: hsho@st.ritsumei.ac.jp
本セミナーで、大学院生の就職活動の気になる疑問にお答えします。
お申込みをお待ちしています！

申込期間：2017年9月25日(月)～10月15日(水)17:00
<http://www.ritsumei.ac.jp/staff/career/seminar/2017seminar.html#seminar119>
←セミナー参加 QRコード



お申込み

以下のセミナーHPにある申込フォームよりお申込み下さい。
第1部のみ、第2部のみの参加も受け付けます。

大学院生のための

成功する就活！セミナー

参加無料・軽食つき

就職活動はいつ、何をすればいいの？ 研究との両立は？
大学院生だからこそ期待されることは、どういうところ？
文系院生の就職活動について実際どうなの？

大学院生の皆さんのがんばりの就職活動に対する不安を解消し、
大学院生の充実と希望のキャリア実現をサポート
するセミナーを開催します。

大学院生の就職活動について知りたい学部生の皆さんも
参加いただけます。
大学院生の就職活動に特化したセミナーの開催は今回のみ。
どうぞお見逃しなく！

定員・対象

先着60名（要申込）

- ※現在籍している大学院生
- 大学院への進学を希望する**本学部生**
- 留学生**の方も参加いただけます。

※セミナーは日本語で行います。

日時

2017年11月19日(日)

13:00～16:00 (2部制)

- 第1部のみ、第2部のみの参加も可

会場

研究論館 パフォーミングスベース (LF)
EDC-E+Rレーム2 アクロスワイング5F
AC730 (A棟7F)

*BKC OICはサテライト開催となります。(参考)者交流会は衣笠キャンパスになります。※各会場定員になり次第、受付を締め切ります。

【第1部】 13:00～14:00

【第2部】 14:10～16:00

企業人事担当者による講演

～同じ?同じ?同じ?院生と学部生～
講師:アビームコンサルティング株式会社様
富士通株式会社様

2回生パネルディスカッション
～終修論までに終わらせる就活の仕方～
～人材リストの内先生・所属研究科(研究会)～
●三井住友信託銀行
●明治安田生命保険
●ニューランジファンド
●経営管理研究会
●公務員研究会
●健康科学研究会
●学生研究会
●経営学研究会
●留学生研究会

参加者交流会
(軽食・ドリンクつき)

お申込み
第1部のみ、第2部のみの参加も受け付けます。



日本学術振興会 特別研究員 チャレンジセミナー ～平成31年度採用に向けた「はじめの一歩」～

リサーチプロポーザル コンテスト表彰式

【日 時】2017年12月18日(月)

午後6時—8時

【会 場】衣笠キャンパス
究論館パフォーミングスペース

「前半」：リサーチプロポーザルコンテスト優秀者
文系1名・理系1名によるプレゼンテーション

「後半」：懇親会

優秀者によるプレゼンテーションを是非聞いてみませんか？
※ビなどなたでも参加できます！※懇親会では軽食が出ます。

★参加希望者は、12月13日(水)17:00までに下記アドレスにお申込み下さい★
メール記入事項:①氏名 ②研究科 ③回生 ④連絡先(メールアドレス)
申込アドレス:d-cp@st.ritsumei.ac.jp

以下のセミナーHPにある申込フォームよりお申込み下さい。【申し込み期限:1月10(水)17:00】

http://www.ritsumei.ac.jp/fu_gr/g-career/program/list/article.html?id=127

お問い合わせ先 立命館大学大学院キャリアパス推進室（担当：森山、大嶺）
TEL: 075-465-8195 (大嶺) Email : l-hba@st.ritsumei.ac.jp



80.5%

特別研究員DC採用者の5年経過後に
常勤の研究職に就いている率

若手研究家の 登竜門に 挑戦しよう！

“やりたい研究をとことん追求したい”と思っている皆さん、日本学術振興会の特別研究員は、採択者の多くは常勤の研究職に就いており、若手研究家の登竜門と言われています。しかし、申請書作成は大変だからと敬遠していませんか？本セミナーで講師のアドバイスや受講生同士の意見交換を取り入れながら、申請書を作ることで、土台となる研究テーマのバランスアップできます。このセミナーを受ければ、次からはずっと書きやすくなります。ぜひご参加ください。

当日のコンテンツ：

- 申請書の書き方
- 1) 申請書のレイアウト
- 2) 分かりやすい申請書
- 3) 読みやすい申請書
- 申請書作成、ピアレビュー
- 分野別の採択傾向

申請書ブラッシュアップセミナーも同日開催。ぜひ合わせてご参加ください。

参加特典：本セミナーに参加された方は、後日、原木先生による添削が受けられます。

学年や研究科を超えた
院生同士の交流チャンス！

大学院新入生のための

ステージアップ セミナー

来て！見て！感じて！
あなたの未来！

そんな方のためのセミナーをご用意しました。

本セミナーで講師のアドバイスや受講生同士の意見交換を取り入れつつ、
良い申請書のポイントを掴んでいただく内容になっています。

次のチャンスを勝ち取れるよう、ぜひ本セミナーをご活用ください！

以下のセミナーHPにある申込フォームよりお申込み下さい。【申し込み期限：1月10（水）17:00】

<http://www.ritsumei.ac.jp/u-gr/g-career/program/list/article.html?id=1228>

◆日時：2018年1月16日（火）14:40～16:10

◆定員：20名（先着順）

◆対象：本学大学院生、専門研究員
過去、特別研究員に申請したことがある方がメイン対象ですが、
これから申請する方でも興味があれば参加可能です。

◆会場：衣笠キャンパス 究論館 1階 リカーチコモinz

◆講師：原木 万紀子
(立命館大学 共通教育推進機構特別招聘准教授)

参加特典：本セミナーに参加された方は、後日、原木先生による添削が受けられます。

お問い合わせ先

立命館大学大学院キャリアパス推進室（担当：森山、大藤）TEL：075-465-8195（衣笠）

Email : l-hba@srtsunmei.ac.jp

2017年度立命館大学大学院キャリアパス支援プログラム キャリア

日本学術振興会 申請書ブラッシュアップセミナー

～過年度の申請書類を振り返って～

不採択の理由が分からぬい

選考後に申請書を見直していない

でも… 次回こそ、採択されたい！

そんな方のためのセミナーをご用意しました。

本セミナーで講師のアドバイスや受講生同士の意見交換を取り入れつつ、
良い申請書のポイントを掴んでいただく内容になっています。

次のチャンスを勝ち取れるよう、ぜひ本セミナーをご活用ください！

2018年4月22日(日)13時～17時

会場

大阪いばらきキャンパス(0IC)B374 コロキウム

対象

- 過去提出した申請書を元にピアレビュー
- 採択された方の申請書をピアレビュー
- まとめ

分かりやすい申請書と読みやすい申請書とは
<持ち物>

- ・過去の申請書コピー



支援制度をフル活用して、充実した大学院生活を！
皆さまの参加申込をお待ちしております！

問合せ先：立命館大学大学院課(衣笠)

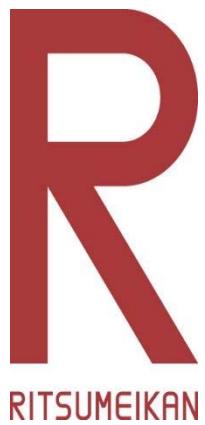
担当：森屋、江口、森

TEL：075-465-8195 Email : l-hba@srtsunmei.ac.jp



申込みはこちる

※今回限り、希望者にはキャンパス間移動のシャトルバスをご用意いたします。詳細はFBサイト参照。



2018年09月発行

立命館大学大学院キャリアパス推進室
(事務局:教学部大学院課)

【衣笠キャンパス】

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL 075-465-8195 FAX 075-465-8198

【びわこ・くさつキャンパス】

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1
TEL 077-561-4941 FAX 077-599-4265

Email: d-cp@st.ritsumei.ac.jp

HP: http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/